



大分みらい信用金庫
創立百周年記念誌

みらい 百年力

感謝・共感・挑戦のあゆみ



経営理念

この地域に根ざし、未来を拓く

みらい宣言

信用金庫だから、地域の人々の希望と信頼にお応えします。
信用金庫だから、チャレンジする起業家を応援します。
信用金庫だから、世界に学び、地域の明日を担います。
信用金庫だから、誇り高いいきいきした職場をつくります。
信用金庫だから、地域と共に生き続けます。

行動の指針

志は高く、行動は遅しく

感謝

私たちは、感謝とまごころをもって、謙虚にたくましく行動します。

奉仕

私たちは、明るく豊かな生活創造のパートナーになります。

挑戦

私たちは、仕事に誇りと目標を持ち、進んで経営に参画します。

人間

私たちは、よく遊びよく学び、心豊かな人間をめざします。



創立 100 周年を迎えるにあたり、記念スローガンを職員から公募しました。メインスローガン「みらいにトライ」は、前向きで力強い意志を打ち出すと共に、当金庫の伝統文化として職員に浸透してきた「失敗は宝」の精神を大切にしながら、新しい時代にチャレンジしていく姿勢を表現しました。サブスローガン「笑顔でつむぐ百年金庫」には、「磐石な百年金庫」「地域の皆さまから笑顔をいただける信用金庫」を目指す思いを込めました。

金庫概要

名称	大分みらい信用金庫
本店所在地	〒 874-8639 大分県別府市駅前本町 1 番 3 1 号 TEL 0977-22-1181 URL https://www.oitamirai.co.jp/ E-mail mirai@oitamirai.co.jp
創立年月日	1922 (大正 11) 年 4 月 12 日
出資金	15 億 6 百万円
会員数	42,571 人
店舗数	30 店舗
役職員数	371 人
営業地区	別府市・大分市・日田市・臼杵市・津久見市・竹田市・杵築市・中津市・宇佐市・豊後高田市・豊後大野市・由布市・国東市・東国東郡・速見郡・玖珠郡 (以上大分県) 豊前市・築上郡 (以上福岡県)

※ 2024 年 3 月 31 日現在

002	ご挨拶
003	歴代理事長
004	役員紹介
006	創立 100 周年記念事業／みらいしんきん新本店ビルグランドオープン
012	創立 100 周年記念事業一覧／記念式典・祝賀会
016	みらいしんきんものがたり
017	黎明期 大正11年～昭和20年／1922—1945
021	躍進期 昭和21年～昭和40年／1946-1965
029	安定期 昭和41年～昭和64年／1966-1989
038	変革期 平成元年～平成20年／1989-2008
048	挑戦期 平成21年～令和4年／2009-2022
	[感謝の百年] 020 #1 この地域のために動いた先人たちがいたから現在の金庫がある
	032 #2 地域に感謝しながら鶴見支店オープン
	037 #3 顧客の組織化で地域に密着
	047 #4 メセナ活動を通じて潤いのあるまちづくりを
	[共感の百年] 026 #1 活力ある企業風土には役職員の心をひとつにする仕組みがあった
	034 #2 理想の金庫像を自分達力で描き出す
	042 #3 地域・金庫・職員の未来を BCI でひとつにする
	050 #4 オリジナルキャラクター「みらっこ」誕生
	[挑戦の百年] 028 #1 「希望と信頼 アイリスの別府信用金庫」へ
	031 #2 お客さまの利便性と経営効率性を考慮し、機械化に積極投資
	040 #3 若手職員が躍動する企業イメージが定着
	045 #4 業界に新風を吹き込む広告展開に挑戦
052	2011-2022 みらいしんきん10大ニュース
056	先人の“志”を未来永劫に ～大分みらい信用金庫 OB 会のご紹介～
057	みらいメモリアル博物館
072	100 年間の業績実数
076	大分みらい信用金庫 100 年の軌跡
091	歴代役員在任期間
098	歴代営業店長一覧
105	大分県央と県北を結ぶ みらいしんきんネットワーク ～全店舗紹介～
巻末	未来の卵



ご挨拶

平素より大分みらい信用金庫をご愛顧いただき厚くお礼申し上げます。

当金庫は令和4年4月12日に創立100周年を迎えました。これはひとえに会員さま総代さまならびに地域の皆さまの永年にわたるご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、当金庫は大正11年（1922年）の第一次世界大戦後の不況の中、「地域を守り続ける」という精神のもと、吉田嘉一郎氏を設立委員長として別府市内の有志76名により設立されました。その後も昭和初期の金融恐慌や第二次世界大戦後の経済混乱、平成のバブル経済の崩壊、令和のコロナ禍など激動の時代を地域の皆さまとともに乗り越えてまいりました。

この度、創立100周年を迎えることができた気持ちを一言で表しますと「感謝」の言葉に尽きます。これまで当金庫を育ててくださった地域の皆さまに感謝、地域に必要とされる金融機関となるべく労苦をいとわず業務に精励された先輩方に感謝、そして現在も地域のために頑張っている役職員の皆さんに感謝の気持ちで一杯であります。

本記念誌は創立記念事業の一環として発刊したもので、「みらい百年力（感謝・共感・挑戦のあゆみ）」と「おおいた百年遺産（昭和の記憶をたどって）」の2分冊としています。「みらい百年力」は、当金庫の100年のあゆみを振り返り新たな時代を切り拓いていくための礎とするため、「おおいた百年遺産」は、地域の皆さまへの感謝の気持ちを込めて地域の歴史を後世に紡いでいくために制作いたしました。皆さまにご高覧いただければ幸甚に存じます。

当金庫はこれからも役職員一丸となり「地域の皆さまから笑顔をいただける信用金庫」を目指して精進してまいります。つきましては、今後もさらなるご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

大分みらい信用金庫
理事長 森田 展弘

大分みらい信用金庫 歴代理事長



初代組合長
1922.4.12～1922.7.6
吉田 嘉一郎



二代組合長
1922.7.6～1925.2.25
永井 次郎



三代組合長
1925.2.26～1938.1.22
河村 観三



四代組合長
1938.1.23～1942.4.26
和田 嘉七



五代組合長
1942.5.6～1947.7.2
西原 左太郎



六代組合長／理事長
1947.7.2～1975.5.1
高橋 豊之進



七代理事長
1975.5.1～1993.5.1
高橋 新一



八代理事長
1993.5.1～2006.7.10
高松 右門



九代理事長
2006.7.10～2010.6.25
原 好信



十代理事長
2010.6.25～2018.6.27
関 啓二



十一代理事長
2018.6.27～
森田 展弘

大分みらい信用金庫 役員

(2024 年 6 月現在)

常勤役員



代表理事 理事長
森田 展弘



代表理事 専務理事
古田 哲一
※ 2024 年 6 月新任



常務理事
阿南 善則
※ 2024 年 6 月新任



常勤理事
手島 賢三



常勤理事
吉松 利行



常勤理事
高橋 和彦
※ 2024 年 6 月新任



常勤理事
伊藤 達矢
※ 2024 年 6 月新任



常勤理事
姫野 央行
※ 2024 年 6 月新任



常勤監事
久保 孝徳



前代表理事 副理事長
山本 眞郎
※ 2024 年 6 月より
非常勤役員 理事相談役



前代表理事 専務理事
嵩地 秀雄
※ 2024 年 6 月より
非常勤役員 理事



前常務理事
岩尾 利弘
※ 2024 年 6 月退任

非常勤役員



理事
立花 旦子



理事
高橋 欽哉



理事
植山 茂宏



前理事
徳田 靖之
※ 2024 年 6 月退任



前理事
樽谷 壽生
※ 2024 年 6 月退任



監事
波多野 郁子



監事
後藤 誠一



監事
中尾 薫※

※中尾薫監事は、信用金庫法第 32 条第 5 項に定める員外監事です

みらいしんきん新本店ビル グランドオープン

笑顔を咲かせるプラットフォームへ

創立**100**周年
記念事業

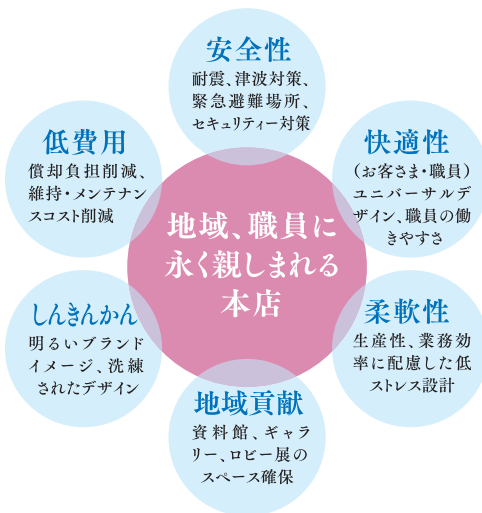
100th Anniversary Commemorative Events



2023年
3月28日(火)



①



創立 100 周年記念事業の一環として取り組んできた新本店ビル建築は、約 2 年間の工事期間を経て、2023 年 3 月 28 日にグランドオープンを迎えました。

新本店は「地域、職員に永く親しまれる本店」をコンセプトに、6 つの条件を備えた設計としました。かねてから心配されていた南海トラフ地震にも対応し、近隣住民の皆さまの避難場所としても機能できるよう非常用品備蓄倉庫やシャワールームを完備しており、別府市と「災害時における施設等の提供協力に関する協定書」も交わしました。

56 年間親しまれてきた旧本店と同様、別府駅前通りの“顔”となるべく、地域に笑顔を咲かせるプラットホーム的存在になるよう努めていきます。



②



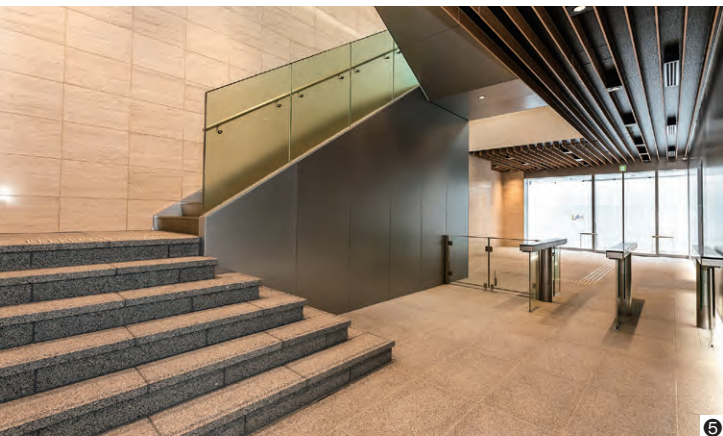
③



④

- ① グランドオープンイベント テープカットの様子 ② 永らく愛されてきた「MIRAI GALLERY」では芸術作品を展示しています
③ 通りから立ち寄りやすい位置に設置した ATM コーナー ④ ビル上部に吊るされたシンボルマーク。夕刻にははライトアップされます

地域、職員に永く親しまれる本店を目指して



5



6



7

⑤ 重厚感と開放感を併せ持った本部エントランス ⑥ 2階「みらいホール」は多目的ホールとして様々な活用が可能です ⑦ 竹細工と天井格子を組み合わせた落ち着いた空間を演出した本店営業部ロビー ⑧ ユニバーサルデザインとバリアフリーに配慮したATMコーナー ⑨ 至るところに別府の伝統工芸である竹細工の装飾を施しました ⑩ 本店営業部ロビーと直結している「みらいハートプラザ別府」では年金、相続、資産運用など各種ご相談を個室で承っています



8



9



10

【大分みらい信用金庫 本店ビル概要】

所在地 大分県別府市駅前本町1番31号
敷地面積 2,126.86㎡ 建築面積 858.63㎡
延床面積 4,167.93㎡
構造 鉄筋コンクリート造 地上6階、塔屋1階
竣工 2022年12月



11



12



13



14



15



16

11 自然光が差し込む6階食堂は職員の寛ぎ空間です 12 食堂から続く展望デッキからは別府湾が一望できます 13 エントランスの開放感を損なうことなく設置された本部入口のセキュリティゲート 14 エントランス横の展示コーナーでは金庫や地域の歴史資料を常時展示しています 15 大型モニターを設置した会議室では全店をつなぐWeb会議も可能です 16 シンボルマークがライトアップされた夕暮れの本店ビル

新本店ビル グランドオープンまでの道程

創立**100**周年
記念事業
100th Anniversary Commemorative Events



1

工事着工・仮店舗

2021.01

2021年1月より解体工事着工、春に完了。工事中の本店は敷地内の仮店舗、本部はトキハ別府店へ

2

竣工式

2022.12.15

多くの皆さまのご協力のもと無事に竣工できました。これよりオープンに向けて準備を開始

3

別府市と協定書調印式

2023.03.28

グランドオープン当日、別府市と災害時の帰宅困難者受け入れ等を盛り込んだ協定を交わしました

4

グランドオープンイベント 本店営業部ロビーイベント

2023.03.28

オープンイベントではテープカットをはじめ別府翔青高校書道部の皆さまによる書道パフォーマンスを実施しました。

また本店営業部では記念ロビー展「大別府展」を開催し、ご来店のお客さまには記念品を差し上げました。



取り壊し前の旧本店ビル屋上で行われたドローンによる記念撮影

56年間ありがとう 旧本店ビル メモリアルイベント

当金庫の歴史を56年間見守ってきた旧本店ビルは2021年春に解体されました。2020年10月24日には解体直前の旧本店の屋上に職員が集まり、ドローンで記念写真を空撮。終了後はみらいホールで「乾杯」をして、旧本店の思い出話に1日花を咲かせました。



思い出深い旧本店ビルの外観



駅前通りに面した本店エントランス



本店横に設置されたATMコーナー



式典や各種イベントが行われたホール



1階入口に掛けられた本部案内ボード



旧本店ビル最後の本店営業部職員



庫名改名以来展示されていたレリーフ



1 プレキャンペーン企画「SDGs 定期預金」

ブレ100周年企画として、「みらい SDGs 定期預金」を発売し、SDGs に対する金庫からのメッセージを発信しました。発売にともない大分スポーツ公園多目的広場南側に山桜2本の記念植樹を行いました。



2 記念スローガンと記念ロゴ

職員公募により決定した記念スローガンは「みらいにトライ ~笑顔でつむぐ百年金庫~」。みらっこをあしらったロゴ入り名札を全役職員が着用し、一年を通じた合言葉となりました。



3 100周年プロジェクト

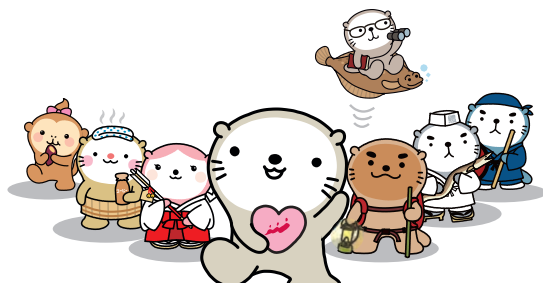
百年金庫にふさわしい企業像を描くプロジェクト活動を展開しました。チームV（100年ビジョン）、チームB（100年ブランド）、チームS（100年システム）の各メンバーが熱い討議を行い、公開プレゼンを実施しました。

創立100周年記念事業一覧



4 創立100周年記念カレンダーを配布

みらっこがタイムマシンに搭乗して、当金庫と地域の100年を振り返る創立100周年記念カレンダーを配布しました。大正11年から始まる当金庫の歴史を楽しいイラストで紹介したデザインを施しました。



5 100周年記念配当を行いました

創立100周年を迎えた記念として出資会員の皆さまに記念配当を行いました。通常の配当金に年2%の記念配当分を加えた年3%の配当を行いました。



6 100周年記念商品のキャンペーンを実施

「創立100周年記念定期預金」を発売し、ご成約されたお客さまにはみらっこと県内在住クリエイターのコラボグッズ等を進呈しました。また新本店ビルグランドオープン記念商品「花咲くみらい定期預金」も発売しました。



7 大分県ならびに6市1町へ児童図書購入資金を寄贈

大分県ならびに当金庫営業地区である6市1町（別府市・大分市・由布市・中津市・宇佐市・豊後高田市・日出町）の公立図書館に児童図書購入資金を寄贈させていただきました。



8

創立 100 周年を三連作記念ポスターで発信

創立 100 周年の基本コンセプト「感謝（100 年分のありがとう。）」「共感（これからずっと一緒に。）」「挑戦（まちをもっと面白く。）」をテーマにした三連ポスターを制作しました。みらっこがポスターを通じて創立 100 周年に向けた当金庫のメッセージを伝えました。



9

創立 100 周年記念テレビ CM を放映

100 周年記念ポスターのビジュアルと連動させたテレビ CM を放映しました。みらっこと若手職員が明るくフレッシュなイメージを発信しました。 ※二次元バーコードから視聴できます→



10

フードドライブ・絵本ドライブを実施

2022 年 6 月、職員やお客さまから食品や絵本を募り、「フードバンク大分」「大分県社会福祉協議会」を通じて金庫営業地区内の子ども食堂へ寄贈する「フードドライブ」「絵本ドライブ」を実施しました。

11

100 周年記念 Web サイトを開設

創立 100 周年記念事業を発信する記念 Web サイトを開設しました。インターネットを通じてタイムリーな周年記念事業の情報発信に努めました。



13

しんきんイノベーションプロジェクト in 別府開催

信金中金との共催事業「しんきんイノベーションプロジェクト in 別府」に取り組み、2022 年 9 月 2 日に「別府竹細工のリブランディング事業」「新たなタクシー観光モデルの創出」等の企画発表会を開催しました。

12

「プラスの祭典 2022」特別協賛

2022 年 12 月 8 日、iichiko グランシアタで開催された「プラスの祭典 2022」に特別協賛しました。世界的マエストロ・佐渡裕氏とシエナ・ウィンド・オーケストラによる感動的な演奏会となりました。



14

別府市立図書館と「大別府展」を共催

2022 年 10 月 7 日～11 月 6 日、当金庫と共に創立 100 周年を迎えた別府市立図書館と「大別府展」を開催しました。別府市立図書館と新店ビルで古絵葉書や資料の展示会を行いました。



15 「わくわくドリーム将棋大会」を開催

2022年7月18日、小中高生対象の「みらいしんきん杯わくわくドリーム将棋大会 2022」(主管 大分県将棋連合会)をJ:COMホルツホール大分で開催し、111名の参加者が熱戦を繰り広げました。



16 ふるさと応援団事業をスタート

2022年より企業版ふるさと納税を活用して、学生の創業促進プロジェクト事業の企画・運営をスタートしました。創業セミナー、勉強会、夢を語り合う合同キャンプなど様々なプログラムを実施しました。



17 旅行定積「リバイバル道東の旅」を実施

創立100周年記念旅行定期積金「リバイバル道東の旅」を発売し、2022年6月から7月に4班に分かれて北海道旅行へ出かけました。参加された皆さまからは、「楽しい思い出づくりが出来た」と好評でした。



18 みらいしんきん同友会記念講演会を共催

2023年7月11日、みらいしんきん同友会設立45周年記念共催企画として元福岡ソフトバンクホークス監督の工藤公康氏による講演会「自分を変える勇気と覚悟～失敗から学んだ未来の拓きかた～」を開催しました。

創立101周年 記念式典・祝賀会



← 当金庫の歴史映像が視聴できます





多くの
ご来賓の皆さまと
100年の
歓びを分かち合いました

2023年6月27日、創立101周年記念式典・祝賀会を杉乃井ホテルで開催しました。コロナ禍を避け、1年延期したうえでの開催となりましたが、当日は大分県知事、各首長さまをはじめ、各界要職の方々、総代の皆さま等、ご来賓235人の方々にご臨席いただきました。

祝賀会では、冒頭に金庫の歴史を振り返る映像を紹介した後、森田展弘理事長が「過去の歴史を大事にしつつ、今後は第2次創業の気概で臨んでいく。地域を元気にしたいという強い情熱を持ち続け、地域の皆さまから笑顔をもたらえる信金を目指す」と挨拶。ご来賓の皆さまから多くのご祝辞もいただき、次の100年に向けて決意をあらたにしました。



みらいしんきん新本店ビル グランドオープン

笑顔を咲かせるプラットフォームへ

創立**100**周年
記念事業

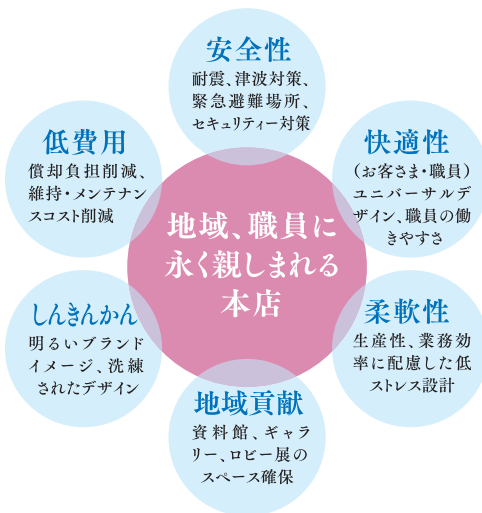
100th Anniversary Commemorative Events



2023年
3月28日(火)



①



創立 100 周年記念事業の一環として取り組んできた新本店ビル建築は、約 2 年間の工事期間を経て、2023 年 3 月 28 日にグランドオープンを迎えました。

新本店は「地域、職員に永く親しまれる本店」をコンセプトに、6 つの条件を備えた設計としました。かねてから心配されていた南海トラフ地震にも対応し、近隣住民の皆さまの避難場所としても機能できるよう非常用品備蓄倉庫やシャワールームを完備しており、別府市と「災害時における施設等の提供協力に関する協定書」も交わしました。

56 年間親しまれてきた旧本店と同様、別府駅前通りの“顔”となるべく、地域に笑顔を咲かせるプラットホーム的存在になるよう努めていきます。



②



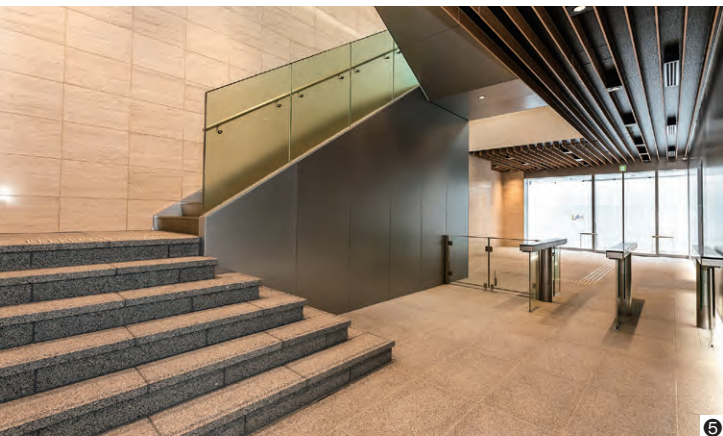
③



④

- ① グランドオープンイベント テープカットの様子 ② 永らく愛されてきた「MIRAI GALLERY」では芸術作品を展示しています
③ 通りから立ち寄りやすい位置に設置した ATM コーナー ④ ビル上部に吊るされたシンボルマーク。夕刻にははライトアップされます

地域、職員に永く親しまれる本店を目指して



5



6



7

⑤ 重厚感と開放感を併せ持った本部エントランス ⑥ 2階「みらいホール」は多目的ホールとして様々な活用が可能です ⑦ 竹細工と天井格子を組み合わせた落ち着いた空間を演出した本店営業部ロビー ⑧ ユニバーサルデザインとバリアフリーに配慮したATMコーナー ⑨ 至るところに別府の伝統工芸である竹細工の装飾を施しました ⑩ 本店営業部ロビーと直結している「みらいハートプラザ別府」では年金、相続、資産運用など各種ご相談を個室で承っています



8



9



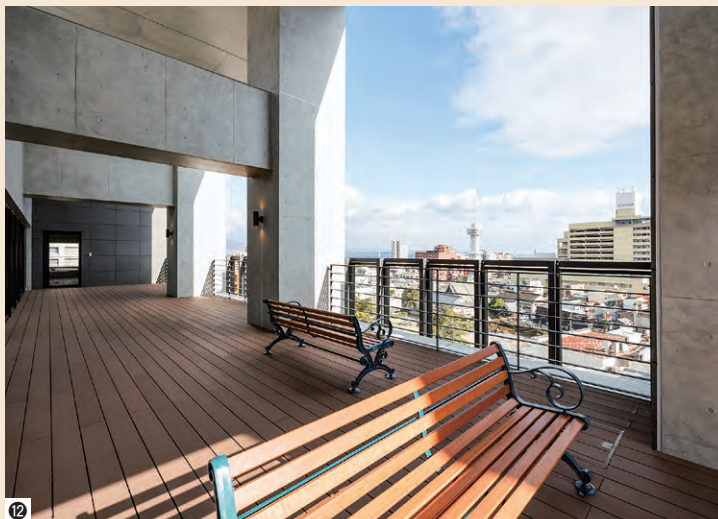
10

【大分みらい信用金庫 本店ビル概要】

所在地 大分県別府市駅前本町1番31号
敷地面積 2,126.86㎡ 建築面積 858.63㎡
延床面積 4,167.93㎡
構造 鉄筋コンクリート造 地上6階、塔屋1階
竣工 2022年12月



11



12



13



14



15



16

11 自然光が差し込む6階食堂は職員の寛ぎ空間です 12 食堂から続く展望デッキからは別府湾が一望できます 13 エントランスの開放感を損なうことなく設置された本部入口のセキュリティゲート 14 エントランス横の展示コーナーでは金庫や地域の歴史資料を常時展示しています 15 大型モニターを設置した会議室では全店をつなぐWeb会議も可能です 16 シンボルマークがライトアップされた夕暮れの本店ビル

新本店ビル グランドオープンまでの道程

創立**100**周年
記念事業
100th Anniversary Commemorative Events



1

工事着工・仮店舗

2021.01

2021年1月より解体工事着工、春に完了。工事中の本店は敷地内の仮店舗、本部はトキハ別府店へ

2

竣工式

2022.12.15

多くの皆さまのご協力のもと無事に竣工できました。これよりオープンに向けて準備を開始

3

別府市と協定書調印式

2023.03.28

グランドオープン当日、別府市と災害時の帰宅困難者受け入れ等を盛り込んだ協定を交わしました

4

グランドオープンイベント 本店営業部ロビーイベント

2023.03.28

オープンイベントではテープカットをはじめ別府翔青高校書道部の皆さまによる書道パフォーマンスを実施しました。

また本店営業部では記念ロビー展「大別府展」を開催し、ご来店のお客さまには記念品を差し上げました。



取り壊し前の旧本店ビル屋上で行われたドローンによる記念撮影

56年間ありがとう 旧本店ビル メモリアルイベント

当金庫の歴史を56年間見守ってきた旧本店ビルは2021年春に解体されました。2020年10月24日には解体直前の旧本店の屋上に職員が集まり、ドローンで記念写真を空撮。終了後はみらいホールで「乾杯」をして、旧本店の思い出話に1日花を咲かせました。



思い出深い旧本店ビルの外観



駅前通りに面した本店エントランス



本店横に設置されたATMコーナー



式典や各種イベントが行われたホール



旧本店ビル最後の本店営業部職員



1階入口に掛けられた本部案内ボード



庫名改名以来展示されていたレリーフ



1 プレキャンペーン企画「SDGs 定期預金」

ブレ100 周年企画として、「みらい SDGs 定期預金」を発売し、SDGs に対する金庫からのメッセージを発信しました。発売にともない大分スポーツ公園多目的広場南側に山桜 2 本の記念植樹を行いました。



2 記念スローガンと記念ロゴ

職員公募により決定した記念スローガンは「みらいにトライ ~笑顔でつむぐ百年金庫~」。みらっこをあしらったロゴ入り名札を全役職員が着用し、一年を通じた合言葉となりました。



3 100 周年プロジェクト

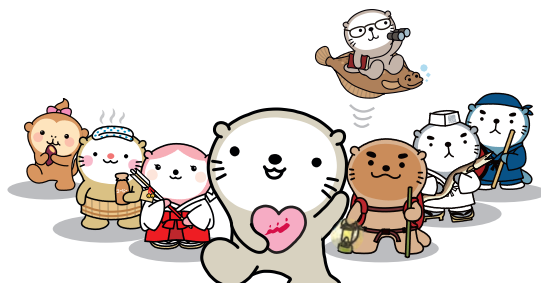
百年金庫にふさわしい企業像を描くプロジェクト活動を展開しました。チーム V (100 年ビジョン)、チーム B (100 年ブランド)、チーム S (100 年システム) の各メンバーが熱い討議を行い、公開プレゼンを実施しました。

創立100周年記念事業一覧



4 創立 100 周年記念カレンダーを配布

みらっこがタイムマシンに搭乗して、当金庫と地域の 100 年を振り返る創立 100 周年記念カレンダーを配布しました。大正 11 年から始まる当金庫の歴史を楽しいイラストで紹介したデザインを施しました。



5 100 周年記念配当を行いました

創立 100 周年を迎えた記念として出資会員の皆さまに記念配当を行いました。通常の配当金に年 2% の記念配当分を加えた年 3% の配当を行いました。



6 100 周年記念商品のキャンペーンを実施

「創立 100 周年記念定期預金」を発売し、ご成約されたお客さまにはみらっこと県内在住クリエイターのコラボグッズ等を進呈しました。また新本店ビルグランドオープン記念商品「花咲くみらい定期預金」も発売しました。



7 大分県ならびに 6 市 1 町へ児童図書購入資金を寄贈

大分県ならびに当金庫営業地区である 6 市 1 町 (別府市・大分市・由布市・中津市・宇佐市・豊後高田市・日出町) の公立図書館に児童図書購入資金を寄贈させていただきました。



8

創立 100 周年を三連作記念ポスターで発信

創立 100 周年の基本コンセプト「感謝（100 年分のありがとう。）」「共感（これからずっと一緒に。）」「挑戦（まちをもっと面白く。）」をテーマにした三連ポスターを制作しました。みらっこがポスターを通じて創立 100 周年に向けた当金庫のメッセージを伝えました。



9

創立 100 周年記念テレビ CM を放映

100 周年記念ポスターのビジュアルと連動させたテレビ CM を放映しました。みらっこと若手職員が明るくフレッシュなイメージを発信しました。 ※二次元バーコードから視聴できます→



10

フードドライブ・絵本ドライブを実施

2022 年 6 月、職員やお客さまから食品や絵本を募り、「フードバンク大分」「大分県社会福祉協議会」を通じて金庫営業地区内の子ども食堂へ寄贈する「フードドライブ」「絵本ドライブ」を実施しました。

11

100 周年記念 Web サイトを開設

創立 100 周年記念事業を発信する記念 Web サイトを開設しました。インターネットを通じてタイムリーな周年記念事業の情報発信に努めました。

12

「プラスの祭典 2022」特別協賛

2022 年 12 月 8 日、iichiko グランシアタで開催された「プラスの祭典 2022」に特別協賛しました。世界的マエストロ・佐渡裕氏とシエナ・ウィンド・オーケストラによる感動的な演奏会となりました。



13

しんきんイノベーションプロジェクト in 別府開催

信金中金との共催事業「しんきんイノベーションプロジェクト in 別府」に取り組み、2022 年 9 月 2 日に「別府竹細工のリブランディング事業」「新たなタクシー観光モデルの創出」等の企画発表会を開催しました。



14

別府市立図書館と「大別府展」を共催

2022 年 10 月 7 日～11 月 6 日、当金庫と共に創立 100 周年を迎えた別府市立図書館と「大別府展」を開催しました。別府市立図書館と新店ビルで古絵葉書や資料の展示会を行いました。



15 「わくわくドリーム将棋大会」を開催

2022年7月18日、小中高生対象の「みらいしんきん杯わくわくドリーム将棋大会2022」(主管 大分県将棋連合会)をJ:COMホルツホール大分で開催し、111名の参加者が熱戦を繰り広げました。



16 ふるさと応援団事業をスタート

2022年より企業版ふるさと納税を活用して、学生の創業促進プロジェクト事業の企画・運営をスタートしました。創業セミナー、勉強会、夢を語り合う合同キャンプなど様々なプログラムを実施しました。



17 旅行定積「リバイバル道東の旅」を実施

創立100周年記念旅行定期積金「リバイバル道東の旅」を発売し、2022年6月から7月に4班に分かれて北海道旅行へ出かけました。参加された皆さまからは、「楽しい思い出づくりが出来た」と好評でした。



18 みらいしんきん同友会記念講演会を共催

2023年7月11日、みらいしんきん同友会設立45周年記念共催企画として元福岡ソフトバンクホークス監督の工藤公康氏による講演会「自分を变える勇気と覚悟～失敗から学んだ未来の拓きかた～」を開催しました。

創立101周年 記念式典・祝賀会



← 当金庫の歴史映像が視聴できます





多くの
ご来賓の皆さまと
100年の
歓びを分かち合いました

2023年6月27日、創立101周年記念式典・祝賀会を杉乃井ホテルで開催しました。コロナ禍を避け、1年延期したうえでの開催となりましたが、当日は大分県知事、各首長さまをはじめ、各界要職の方々、総代の皆さま等、ご来賓235人の方々にご臨席いただきました。

祝賀会では、冒頭に金庫の歴史を振り返る映像を紹介した後、森田展弘理事長が「過去の歴史を大事にしつつ、今後は第2次創業の気概で臨んでいく。地域を元気にしたいという強い情熱を持ち続け、地域の皆さまから笑顔をもたらえる信金を目指す」と挨拶。ご来賓の皆さまから多くのご祝辞もいただき、次の100年に向けて決意をあらたにしました。





みらいしんきん ものがたり

～感謝・共感・挑戦の百年を振り返る～

大正11(1922)年4月12日、大分県で初めての信用組合となる有限責任別府信用組合が別府市で産声を上げた。同年11月には大分市に有限責任大分信用組合と有限責任府内信用組合、翌年2月に有限責任中津信用組合発足と、次々と相互扶助の理念に基づく協同組織金融機関が誕生した。その成り立ちを語るうえで、まずは日本の金融史と当時の地域経済の背景について触れておきたい。

■ 設立前夜の地域経済史を振り返る

時を遡ること明治維新、日本は欧米の先進諸国に追いつくため「文明開化」「富国強兵」「殖産興業」を国是とした諸施策を推進した。そのなかのひとつが金融システムの整備である。政府は明治5(1872)年に国立銀行条例を制定し、これに基づき全国で153の国立銀行が設立された。ただし名称は“国立”とあるが、実態は政府と無関係の民間銀行で、当初は各銀行が独自の紙幣を発行していた。通貨価値を安定させるため、中央銀行となる現在の日本銀行が設立されたのは明治15(1882)年のことであった。

大分県でも明治10(1877)年の第二十三銀行の設立を皮切りに、県内各地で普通銀行が設立され、明治32(1899)年末には大分県内に38行もの普通銀行が存在していた。これは明治28(1895)年の日清戦争終結を受け、県内企業の資金需要に応じるべく貨幣・金融制度の整備が急速に進んだことに起因する。さらには交通インフラの整備も県内経済の活性化に寄与した。明治30(1897)年に県内初の鉄道駅が開通した中津町(後の中津市)では繊維工業が盛んになり、明治33(1900)年に国内で5番目の電気鉄道となる別大電車が別府・大分間で開通したことも両市の観光業と商工業の発展を後押しした。

その後、日露戦争(明治37-38年・1904-1905)に伴い国内景気は一時的に好況を呈したが、明治40(1907)年の株式暴落を機に反動不況へ陥る。しかし第一次世界大戦(大正3-7年・1914-1918)勃発に伴う欧州諸国からの軍需物資や生活必需品の発注急増により日本経済は急速な成長を遂げていった。この間、県内経済の活性化は著しく、大正5(1916)年には佐賀関町(現大分市)に東洋一の大煙突を持つ久原鉱業佐賀関精錬所(現JX金属株式会社)が操業を開始するなど、明るいニュースが飛び交った。

■ 信用金庫理念の原点「報徳思想」の醸成

明治維新以降の国内金融は普通銀行を軸に発展してきたが、株式会社である大手銀行は地方で集めた資金を都市部

へ集中させ、運用することに注力した。その結果、地方の中小零細企業や庶民が金融システムの恩恵を受けることはなく、地域経済は疲弊し、貧富の差は拡大する一方だった。

これを案じた明治政府は、ドイツの信用組合を見習って営業地域や融資対象を限定し、一人一票の民主的運営を行う協同組織金融機関の創設を目的に、明治33(1900)年に産業組合法を制定した。当初は「信用組合」「販売組合」「購買組合」「生産組合」の4事業に限定されていたが、大正6(1917)年の一部改正で「市街地信用組合」「準市街地信用組合」「農村信用組合」に分化された。

なかでも市街地信用組合は有限責任・員外預金・手形割引等が認可されたことで金融機能が高まり、これが現在の信用金庫のルーツとなる。市街地信用組合の多くは、その思想的基盤として幕末の社会運動家・二宮尊徳が提唱した“勤儉貯蓄”“相互扶助”を目的にした「報徳思想」を掲げており、これが多くの庶民の共感を集めていった。

■ 大分県下初の信用組合誕生へ



大正10年に就航を開始した別府港の大阪商船「むらさき丸」

この時期の別府は、温泉と観光の町として日本全国にその名が知られる途上であった。明治44(1911)年に日豊本線が大分駅まで延伸し、大正9(1920)年には別府港の棧橋整備が完成。大阪商船(現・株式会社商船三井)が別府-阪神航路で豪華客船の運航を開始した。交通網が整備されたことで新たな旅館街が形成され、大正5(1916)年に290軒だった旅館数は大正10(1921)年には330軒にまで膨れ上がっていった。

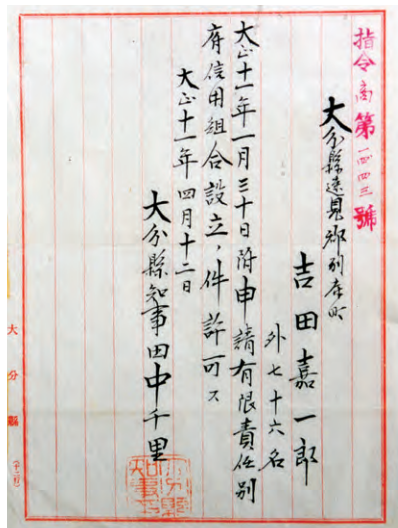
第一次世界大戦後の好景気が終焉すると、別府市内は急激な不況の嵐に襲われる。温泉と観光で経済が成り立っていた別府にとって、来遊客の激減は深刻なダメージであった。好況時に増改築や新築に多額の資金を投じた旅館は利用客の誘致に頭を悩ませ、観光客を相手に売り上げを伸ばしていた土産品店や飲食店は軒並み倒産の危機に追い込ま

れた。それにより貸し出しを渋る普通銀行を恨めしく思いながら、やむなく高利貸しに手を出す中小零細事業者が多数生まれる事態にまで陥っていた。

この苦境を打破しようと、相互扶助の精神に立つ信用組合の設立に動き始めた地元有力者が現れた。元別府町長の吉田嘉一郎、素封家の荒金五郎、西尾百貨店の創業者・西尾只次郎、社会事業家で旅館業を営む矢野亀太郎らである。彼らが別府町内の商工業者に協力を呼びかけはじめると、次第に賛同の輪が広がっていった。

大正 11（1922）年 1 月 30 日、吉田嘉一郎設立委員長に 76 名が名を連ね、田中千里大分県知事に信用組合設立許可を申請した。同年 4 月 12 日に許可が下り、6 月 10 日を以って設立登記に至った。大分県初の市街地信用組合、有限責任別府信用組合の歴史はここから始まった。

設立当初の別府信用組合は組合員 380 人、出資金 34,240 円（1 口 20 円）、預金 17,799 円、貸出金 1,110 円。営業区域は速見郡別府町とし、事務所は別府市駅前町 9 番 11 号（現在の毎日新聞別府中央販売所あたり）に構えた。“駅前町”といっても当時の別府駅周辺は民家もまばらで、現在のような賑やかな雰囲気とは全く違う様相。かたや別府駅西口から山の手方面にかけては“田の湯”という地名が示すように田園風景が広がっていた。



別府信用組合の設立許可証

■ 地域経済の発展を願い苦難の時代を耐え忍ぶ

「このまちを守り抜く」という有志たちの情熱で設立を実現させた別府信用組合であったが、その後の道のりは険しいものであった。

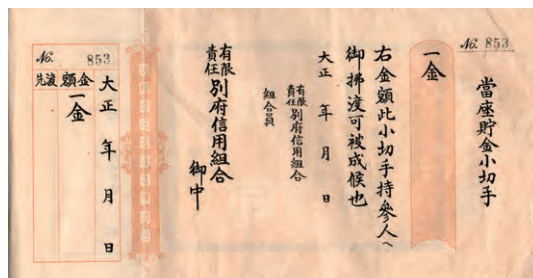
なにしろ設立人に地元の名士が揃っているとはいえ、全員が金融に関しては素人も同然である。政府の不況対策の遅れと世間の金融機関に対する不信感が重なり、頼みの綱にしていた預金が増える見込みもない。信用組合そのものへの理解度が低い故に、組合員になる者も少なかった。従って運転資金を必要とする中小零細企業は多くとも、そ

の需要に応じる資金力がない。仮に貸付を実行しても回収の見込みが立たぬ案件ばかり。このような状況が続くなか、役員の中には自前の手持ち資金を拠出する者や、個人保証で借入れを行う者までいた。

設立発起人であり初代組合長に就任した吉田嘉一郎は、創立当初の総会議長や煩雑な事務仕事が落ち着いた後、3ヶ月足らずで代表職を永井次郎に譲り、理事となって現場営業に尽力する。クリスチャンでもある吉田の実直かつ誠実な横顔が、その動きに垣間見える。

二代目組合長となった永井次郎は別府でも有数の素封家として知られ、経営手腕にも長けていた。ところが就任から2年半後の大正 14（1925）年 2 月に若くして亡くなり、組合長を辞任する。就任してすぐの大正 11（1922）年 12 月に大分銀行別府支店で取り付け騒ぎが起こり、翌年 9 月には関東大震災の発生に伴う国内経済の壊滅的打撃が地方に及ぶなど極めて厳しい経済環境の中で、かなりの心労が重なったのではないかと推察される。

一方、永井就任中の大正 13（1924）年 4 月 1 日に別府市制が施行される。人口 36,276 人を起点に市勢拡大の兆しが見えていた時期であり、別府信用組合は市制施行前年の大正 12 年 8 月に駅前町から末広町へ、続く大正 13 年 3 月に楠町へと、当時の別府中心部に事務所を移転した。



設立当初の別府信用組合当座預金小切手

■ 自己所有の本店建物取得で存在意義を高める

三代目組合長の任を授かったのが河村親三だ。河村もまた地元の有力者で、政財界に大きな影響力を持ちながら人格者としても知られ、大分県信用組合連合会の会長も務めた。おかげで別府信用組合に対する世間の評価も大きく高まり、中小零細企業にとって身近で頼りがいのある存在になってきた。河村が就任した大正 14 年末の出資金が 71,757 円、預金 268,347 円、貸出金 295,168 円と、設立 3 年目にして業績面で飛躍的な拡大を遂げたことがそれを証明している。

大正 15（1926）年 9 月 23 日、別府信用組合は旧・北部銀行の建物を買収し、それまでの“借家住まい”から自己所有の本店建物として移転オープンする。洗練された煉瓦造りで吹き抜け 2 階建の新店は、流川通りに次ぐ主要幹線道路だった永石通りの一画に位置し（現在の南支店が建つ千代町 11 番 15 号）、組合の信頼度を知らしめるのに十分な存在感を示した。



風格のある自己所有の本店建物は市民の信頼度を高めた

■ 不況の嵐を乗り越え経営基盤を固める

昭和を迎えた日本経済だが、予断を許さない状況は依然として続き、震災手形の処理問題と企業の資産内容悪化を引き金に昭和金融恐慌が巻き起こる。大蔵大臣の高橋是清は昭和2（1927）年4月22日に全国の銀行に21日間にわたる金銭債務の支払猶予令（金融モラトリアム）をはじめとした対策を講じたが、昭和4（1929）年にはアメリカの株価大暴落に端を発する世界恐慌に突入してしまう。その途上の昭和3（1928）年には、金融機関の健全経営確保と信用秩序の維持を目的にした日本初の「銀行法」が公布。県内でも大分銀行と二十三銀行が合併して大分合同銀行になった。



昭和2（1927）年の金融恐慌で取り付けに殺到する関東地区の銀行

こうした苦境の中にありながらも、別府信用組合は出資金、預金、貸出金とも順調に伸びていた。昭和元（1926）年末決算では預金534,774円、貸出金458,915円を達成した。

観光業界にとっても明るいニュースがあった。景気の冷え込みを打破しようと鉄道省と鉄道業者が観光客の誘致に力を入れ、インバウンド客も含めた国策の観光ブームが巻

き起こったのだ。

別府観光に関連する事業をいくつかあげると、日豊本線の全線開通（大正12年・1923年），“九州の宝塚”と呼ばれた鶴見園の開園（大正15年・1926年）、亀の井自動車の地獄めぐり観光バスの運行開始（昭和3年・1928年）、別府大仏竣工（同）、中外産業博覧会開催（同）、現・ケーブルラクテンチ開園（昭和4年・1929年）と枚挙にいとまがない。次第に県内景気復調の兆しも見えてきた。

昭和6（1931）年に満州事変が勃発すると、再び市況は活発化。別府信用組合の経営も基礎固めが進み、和田嘉七が四代目組合長に就任した昭和13（1938）年には発展への軌道を決かなものにした。

項目	昭和7年度	昭和6年度	昭和5年度	昭和4年度	昭和3年度	昭和2年度	昭和元年度
総資産	1,234,567	1,123,456	1,012,345	901,234	890,123	789,012	678,901
総負債	567,890	556,789	545,678	534,567	523,456	512,345	501,234
純資産	666,677	566,667	466,667	366,667	366,667	276,667	177,667
総収入	2,345,678	2,234,567	2,123,456	2,012,345	1,901,234	1,789,012	1,678,901
総支出	1,234,567	1,123,456	1,012,345	901,234	890,123	789,012	678,901
剰余金	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111	1,111,111

創立10周年を迎えた昭和7（1932）年度の事業報告書

■ 戦時の混乱期に信用組合の新しい歴史が始まる

ところが昭和12（1937）年に勃発した日中戦争が長期化、広域化してくる。国内景気も含め、次第に情勢が変わり、ついには昭和16（1941）年に太平洋戦争に突入する。

戦時体制が進むなか、金融機関は国家の統制下に置かれ、いわば戦費調達のための資金吸収機関となってしまう。昭和17（1942）年には金融統制団体令が公布され、預金の大部分は国債などの消化にあてられた。

この時期に組合長に就任したのが西原左太郎である。昭和17年は記念すべき創立20周年の年であったが、男子職員の招集・徴用が相次ぎ、職場の過半数はモンペ姿の女子職員により守られた。同年に野口支所、昭和19年に流川支所が開所するも、流川支所は空襲の激化によりまもなく閉鎖。本店宿直室あたりが防空壕だったことにも戦時中の様相が窺われる。

なお、昭和18（1943）年8月に単独法となる「市街地信用組合法」が制定された。これまでの農村部中心の産業組合的な側面を持った信用組合は大蔵省所管となり、商工業者への金融機能を強化した庶民大衆のための金融機関として生まれ変わった。別府信用組合も中小金融、貯蓄増強に邁進した結果、業績は著しく向上した。

そして昭和20（1945）年8月15日、長かった戦争にようやく終止符が打たれる。

感謝の百年 #1

この地域の^{まち}ために動いた
先人たちがいたから^{いま}
現在の金庫がある



黎明期を支えた五人の組合長の横顔

〔初代組合長〕 吉田 嘉一郎

大正 11 (1922) 年 4 月 12 日～7 月 6 日

安政 6 (1859) 年、白杵町稲葉藩士の長男に生まれる。勉学に励み新聞論説記者となる。病気のため帰郷し静養後、長崎県、兵庫県、三重県の警察署に勤務し署長も務める。その間、台湾にも派遣。大連での勤務を最後に官界を去り、漁業振興に尽くす。当時の千葉大分県知事に認められて帰郷し、明治 38 (1905) 年、別府町の第二代町長に当選。市区改正、耕地整理、水道敷設、公園設置など温泉観光都市別府の基礎を築く。全国でも珍しい温泉課を設置したのも吉田である。町長退任後は不況に喘ぐ別府の産業界を案じ、有限責任別府信用組合の設立発起に動いた。



近代都市・別府発展の功労者とも称される吉田嘉一郎初代組合長

〔二代目組合長〕 永井 次郎

大正 11 (1922) 年 7 月 6 日～大正 14 (1925) 年 2 月 25 日

明治 7 (1874) 年、別府町安部友蔵の二男として生まれ、明治 26 (1893) 年に別府流川通りの永井栄三郎の養子となる。多くの土地を所有する素封家として知られ、町会議員、郡会議員にも推され、別府銀行、杵築青筵銀行、別府松濤館、寶玉館の各取締役を歴任した。吉田の意志を受け継ぎ二代目組合長に就任するも、大正 14 (1925) 年、50 歳の若さで亡くなり、組合長を辞した。



三代目・河村組合長（前列左から 2 番目）と役員

〔三代目組合長〕 河村 観三

大正 14 (1925) 年 2 月 26 日～昭和 13 (1938) 年 1 月 22 日

劇場松濤館、松栄館、別府土地建物会社社長。県議会議員、別府市会議員副議長等も務め、町政・市政に尽力。市民の福利増進に寄与し、市区改正も推進した。公明正大、温厚篤実な気質で広く人望を集めた。政界を引退した後は別府信用組合の経営に専念。大分県信用組合連合会の会長も務めた。

〔四代目組合長〕 和田嘉七

昭和 13 (1938) 年 1 月 23 日～昭和 17 (1942) 年 4 月 26 日

明治 6 (1873) 年、別府町に生まれる。現在の楠町で旅館・和田彦を経営。別府棧橋に押し寄せる関西方面からの湯治観光客をもてなした。別府市旅館協会長に推され、観光業界の発展に尽くす。別府市会議員、副議長、別府商工会議所副会頭などを歴任した後、四代目組合長に就任した。

〔五代目組合長〕 西原左太郎

昭和 17 (1942) 年 5 月 6 日～昭和 22 (1947) 年 7 月 2 日

明治 4 (1871) 年、柳ヶ浦に生まれる。昭和 11 (1936) 年に第二代別府商工会議所会頭に就任。昭和 12 (1937) 年 3 月 25 日から 50 日間にわたって別府公園で開催された別府国際温泉観光大博覧会を指揮し、50 万人の観客を動員した。同年、浜町に会議所新庁舎を建設。会頭を辞任後、戦時中の大変な時期に別府信用組合長に就任し、戦時統制経済下の組合の舵をとった。大分地方裁判所調停委員、朝見神社総代会長、西法寺総代会長など、地域各方面で社会奉仕に尽くした。

躍進期

昭和21年～昭和40年
1946—1965

昭和20(1945)年8月15日、太平洋戦争が終結した。別府は戦争による大火を免れたが、県都・大分市は焼け野原となり、県内各市町村も甚大な被害を受けた。復興に向け、新たなまちづくりが始まる。

■ 終戦後の復興に向けて市況は刻々と変化する

敗戦による混乱の下、連合国総司令部（GHQ）は民主化と非軍事化の名のもと、あらゆる改革を断行した。

経済・金融面に目を向けると、軍人・軍属への退職金、復員費の支払い、軍需会社への補償金支払いなど、終戦直後の3ヶ月間で総額266億円にのぼる巨額の国費が流出した。その大半は食糧品をはじめ衣食住の生活必需物資の購入に充てられ、物価は急上昇。結果的に猛烈なハイパーインフレを巻き起こした。終戦時の昭和20年8月の日本銀行券発行残高302億円が、翌年2月には総額600億円を突破していたことがその深刻さを物語っている。

この非常事態に対処するため、政府は金融、通貨、物価、食糧、流通、就業など広範囲におよぶ総合対策と経済危機緊急対策を断行した。まず昭和21(1946)年に「金融緊急措置令」で預金封鎖を行い、「日本銀行券預入令」で新円を発行。昭和22(1947)年には「金融機関再建整備法」で新旧勘定を併合し、昭和24(1949)年のドッジ・ラインでは財政金融引き締め等の政策を打ち出し、インフレの鎮静化と金融機関の速やかな再建整備を促した。

この頃の別府に目を向けてみよう。まず終戦まもない昭和20(1945)年9月25日、南洋・メレヨン島から日本復員第一船となる高砂丸が別府湾に帰着。その後も温泉保養地として名を馳せた別府には多くの戦災者、引揚者が押しかけた。終戦直後69,949人だった人口は、昭和21(1946)年に83,742人、昭和22(1947)年には96,685人と爆発的な増加を見せている。現・別府公園がある野口原には米軍キャンプ・チッカマウガが設置され、関連業者の流入も人口増を加速させた。おかげで当時の別府は米軍人、引揚者、ビジネスによる流入者、そして元来の別府市民らが行き交う、まさにカオスを呈する様相だった。

■ 強力なリーダーシップで地域経済の再生を

昭和22(1947)年7月、戦後の別府経済に新たな息吹を吹き込むことを期待され、高橋豊之進が六代目組合長に就任した。

浜脇町の名家である岡家の三男として生まれた豊之進は慶應義塾大学を卒業した大正13(1924)年、別府政財界



昭和47年発行・創立50周年広報誌に掲載されている高橋豊之進

の大御所であった高橋欽哉の養子となる。その青年期は、欽哉が営む旅館「聴潮閣 泉孫」の経営に携わった。その青年期は、地域のオピニオンリーダーとして活躍し、戦時中は別府信用組合の非常勤理事をはじめ別府銀行や豊和銀行の取締役も務めた。戦後は政界進出の話もあったが、別府信用組合長就任を要請されると「残りの人生を地域経済の発展に邁進する」と誓い、組合長を引き受けた。当時は金融機関に対する不信感を持たれていた時期であったが、県内でも有数の資産家である高橋豊之進を組合長に迎えたことで別府信用組合の信用力は大きく高まった。

就任当初の別府信用組合は資金繰りに苦しむ時期もあったが、昭和25(1950)年に勃発した朝鮮戦争が空前の特需景気を国内にもたらし、別府を訪れる観光客も急増。別府信用組合の業績も一気に勢いづき、昭和23(1948)年3月末の預金残高は16,238千円となり、その後も年を追う毎に急激な増加を遂げていった。

■ 別府信用組合から別府信用金庫へ

昭和24(1949)年「中小企業等協同組合法」が成立し、昭和26(1951)年5月28日には「信用金庫法」が成立した。これに伴い、全国の信用組合は次々と信用金庫へと改組していったが、改組の条件は預金残高1億円の確保であった。この条件を昭和26(1951)年9月26日に達成した別府信用組合は、同年10月20日に大分県初の信用金庫に改組。別府信用金庫としての歴史が始まった。

この時期、別府の中心部は南部地区から別府駅前通りに移り、取引エリアも北部地区にまで広がっていた。これに対応して信用金庫改組前の昭和25(1950)年4月に駅通支店を開設。翌26(1951)年8月に鉄輪支店を開設し、翌月9月には昭和17(1942)年に開所していた野口支所を野口支店へと昇格させた。そして昭和27(1952)年9月、



市街地北進化を見越して駅通支店を開店



別府信用組合時代の鉄輪支店



「別府信用金庫」として初めての店舗となった亀川支店

「別府信用金庫」に改組後初めての店舗となる亀川支店を開設した。

なお、昭和 27（1952）年、貯蓄増強中央委員会（現・金融広報中央委員会）は国民貯蓄運動を浸透させるため毎年 10 月 17 日を「貯蓄の日」と定め、別府信用金庫も預金増強に邁進した。その結果、昭和 29（1954）年 3 月に、鉄輪支店が大蔵省と日本銀行から貯蓄運動の優秀店舗として表彰された。金庫全体としても同年 5 月 28 日に預金残高 5 億円を達成。この時に聴潮閣で行われた祝宴で、高橋豊之進理事長が涙を流して職員をねぎらったという逸話が残っている。



貯蓄運動優秀店舗として表彰された鉄輪支店の職員

■ 高度成長期を陰でささえた別信の日掛け集金

昭和 29（1954）年の神武景気を皮切りに、日本経済は高度成長期に突入する。昭和 30（1955）年に 8.8%であった実質経済成長率が昭和 35（1960）年には 13.3%となり、昭和 31（1956）年の経済白書で宣言された「もはや戦後ではない」は流行語になった。

大分県経済も著しい発展を遂げ、国土総合開発の一環として“農工併進”を旗印に後進的農業県から先進的工業県への脱皮を図る。昭和 32（1957）年には県民所得、雇用増大、県民福祉向上を基本的目標とする「大分・鶴崎臨海工業地帯開発計画」が策定された。別府においては九州横断道路の着工に伴い、近鉄百貨店、関西汽船をはじめとする県外資本の進出が活発となり、大規模化・高級化に着手するホテルや旅館も増えていた。別府市の観光客は年間 600

万人に迫る勢いで、昭和 32（1957）年に開かれた「別府温泉観光産業大博覧会」には全国から大勢の入場客が訪れた。

金融機関の新設や進出も相次いだ。昭和 36（1961）年 3 月現在の県内の金融機関を見ると、普通銀行は大分銀行の 49 店・12 出張所をはじめ都・地銀が 14 支店、相互銀行（現・第二地銀）7 行 48 店、信用組合 6 組合 16 店、労働金庫 1 庫 5 店となり、信用金庫は 10 金庫 33 店が各地域で営業を展開していた。このほかにも商工組合中央金庫、農林中央金庫、国民金融公庫、大分県信用農協連、さらには農業協同組合、郵便局と、多種多様な業態の金融機関がひしめきあっていた。

このような競争に囲まれながら、別府信用金庫は別府市内での存在感を着々と高めていった。なかでも日々の売上や定額掛金を集金訪問する日掛け集金は、店を空けることができない商店主にとって貴重な存在だった。金庫の得意先係も日掛け集金で店の繁盛ぶりがわかり、店主と顔を合わせることで店主の人となりを知ることができた。

本業とは別に、地域貢献事業も別信の評判を高めた。昭和 32（1957）年 4 月に設置された別府市役所屋上のミュージックサイレンは、金庫創立 35 周年記念事業で寄贈したものである。1 日 3 回、朝・昼・夕に流れる曲目『さくらさくら』『菩提樹』『荒城の月』は市民から募集し、地域密着路線を象徴する事業になった。

■ 初の別府市外店舗開店と初の長期計画策定

別信の躍進は、別府市外からも注目されていた。

昭和 31（1956）年 1 月、湯布院町に陸上自衛隊湯布院駐屯地が隊員 700 名で開隊した。その誘致のために必要な条件のひとつが金融機関の設置だっ



当初の湯布院支店は由布院駅近くにあった

た。そこで当時の湯布院町長の岩男頼一氏は、町内第1号金融機関を別府信用金庫に要請。高橋理事長はこれを快諾し、同年3月に別府市以外で初めての店舗となる湯布院支店を開設し、地元経済の発展に寄与することを約束した。

さらにこの時期、経営の近代化にも取り組んだ。全国信用金庫協会が策定した長期計画「信用金庫拡充3ヵ年計画」に倣い、昭和32(1957)年4月には金庫史上初めての長期計画「別信3ヵ年計画」に着手。同年8月には預金残高10億円を達成し、翌年には本部制実施、全国信用金庫連合会との代理業務契約締結等、内外の改革に取り組んでいる。

ところがこの年、国際収支の悪化を機に「神武景気」からデフレ型の「なべ底不況」へ転換。しかし翌年には「岩戸景気」に移行する等、日本経済の劇的な変貌に地方経済も翻弄された。計画の修正が必要と判断した金庫は「別信3ヵ年計画」を2年で打ち切り、あらためて昭和34(1959)年4月から「別信強化3ヵ年計画」をスタートさせた。

その後も時代の趨勢を察知しながら、臨機応変に長期計画の策定・実践を繰り返し、現在に至っている。

■ 基本方針・三原則の制定で役職員が一丸となる

「別信強化3ヵ年計画」をスタートさせた矢先の昭和34(1959)年5月15日、高橋豊之進理事長は双從兄弟にあたる高橋新一を常務理事に招いた。経営不振に陥っていた月賦販売会社を立て直した手腕を見込んでの抜擢である。

この年から別府信用金庫は、性格は全く違えど非常に息の合った“ふたりの高橋”の舵取りで様々な改革に着手し、躍進の足取りを早めていく。



信友会行事での高橋豊之進理事長(写真中央)と高橋新一常務(写真左)

昭和36年(1961)2月、高橋豊之進理事長は金庫の経営方針を初めて言葉で表現した「基本方針・三原則」を発した。金庫の存在意義を簡潔・明解に表現した文言に職員は感銘し、心の拠り所として誇りをもって胸に刻んだ。

さらに昭和37年(1962)8月には、「基本方針・三原則」に肉付けた「別信人事綱領」が制定された。その内容は、金庫の“人づくり”に対する考えを明示したものであった。「事業(企業)は人なり」を座右の銘とし、役職員には「有能な人、常に学ぶ」と呼びかけていた高橋理事長だけに、力のこもった内容であった。

別府信用金庫基本方針

よい企業

地域発展のためよい家庭の建設に別信の力を結集しよう。

よい社会

三原則

別信の発展は地域の発展であることを銘記し、常に大衆の金庫としての使命に徹して行動する。

堅実な基調と民主的且家族的運営のもとに、地域社会への奉仕と従業員の福祉向上を計る。

誠実を基とし、意欲的積極的に互いに協調、協力して活動するため、広く訓練啓発し適材を登用する。

昭和36年2月

理事長 高橋 豊之進

元来から採用や昇進・昇格に関しても縁故・情実・家庭環境等による差別を一切排除し、全職員を平等に査定することを頑なに遵守していた金庫の信条を明記したものになっている。後に「参画経営」を打ち出す高橋新一常務も一連の人材育成戦略に強い共感を覚えたと推測される。

昭和38(1963)年4月に創刊した庫内報『別信』も、この流れから始まった。全役職員に金庫の経営情報を知らせ、意思統一を図る役割を果たすことを目的にスタートした媒体である。なお、庫内コミュニケーションに関する事柄は26頁「共感の百年#1」で詳述する。

■ 地域の将来を見越して別府駅前通りへ本店移転

東京オリンピック開催に伴う好景気は、昭和37(1962)年11月から始まった。新幹線や首都高速など交通インフラの整備が進み、ホテル建設や観光関連産業の拡充が進んだ。オリンピック開催年の昭和39(1964)年にはIMF8条国(為替制限撤廃国)への移行、OECD(経済協力開発機構)加盟を実現し、日本はアジア初の先進国入りを果たした。その勢いは衰えることなく、昭和43(1968)年には名目GDP(国内総生産)がアメリカに次ぐ世界第2位となり、戦後日本の“奇跡の復活”が世界を驚かせた。

本格的な高度成長は地方景気にも波及した。昭和30(1955)年の“昭和の大合併”で誕生した新大分市の経済発展は勢いづき、別府では昭和37(1962)年に近鉄別府ロープウェイ運行開始、昭和38(1963)年に別府国際観光会館落成(現トキハ別府店の位置)など、明るいニュースが続いた。

昭和34(1959)年に常務へ就任した高橋新一は、その翌年に思いきった進言をする。別府市勢の北進化が強まる趨勢を見越し、駅前通りへの本店を移設するよう「本店新築の建議書」を高橋豊之進理事長宛にしたためのだ。当時47歳の常務が便箋一枚に書き連ねた文面は情熱的かつ冷静・的確な現状分析がされ、理事長の心を動かすには十分すぎる内容であり、これが新築移転の決断に繋がった。

昭和38(1963)年2月16日、金庫は本店ビルの建設に着手し、昭和39(1964)年2月13日には晴れて本店ビルが竣工。開店セレモニーが華々しく行われた。



本店ビルの建築パースを表紙にあしらった新築本店案内パンフレット



左から野田俊次監事、高橋豊之進理事長、高橋新一常務(いずれも当時)



4階の別信ホールでは能の舞台が披露された(故高橋鶴子様提供)



昭和38(1963)年2月16日に行われた本店ビル地鎮祭



記念式典で挨拶をする高橋豊之進理事長



当時の荒金啓治別府市長とテープカットする理事長



昭和 39 (1964) 年 2 月 17 日、地域の方々を迎えて華々しく行われた新築本店披露会(故高橋鶴子様提供)

地上5階、地下1階の堂々とした本店ビルは、別府駅前通りの新しいランドマークとなった。1階に本店営業部、2階・3階に本部機能を集約し、4階には本格的な音響設備とステージを備えた別信ホールを設け、市民に開放した。後に組織化される別信杉の子会や別信同友会（現みらいしんきん同友会）、子供を対象にした信ちゃんクラブの映画大会などの会場にも活用され、別府毎日マラソンの開会式に使用されることもあった。

■名実ともに別府市内ナンバーワン金融機関へ

本店ビル竣工直前の昭和38（1963）年11月29日、別府信用金庫は預金残高50億円を達成。金庫役職員165人は躍進の手応えを噛み締めた。

本店ビルがオープンした翌年の昭和40（1965）年1月末、新たなビッグニュースに役職員は沸き立つ。別府市内における預金シェアが大分銀行を抜きトップの座を獲得したのだ。「地銀に追いつき追い越せ」をスローガンに奮闘してきた苦勞が実った瞬間である。

当日の預金残高は別府信金・68億93百万円、大分銀行・

68億44百万円と49百万円の差。同年9月に別信ホールで開かれた地域制覇祝賀会の席で野田俊次本店長（当時）は「8月末時点で8億400百万円の差をもって完全に水をあけた」「北浜旅館はすべて別信と取引があり、銀座街（商店街）も数軒を残すのみ」と発表した。高橋理事長は壇上から金庫職員に感謝の意を伝えると共に、「自惚れてはいけない」「地域金融機関の第一人者であるという自信と自負を強くもって今後の奮闘を祈る」と呼びかけた。

このような金庫の業績を支えたのは、トレンドを敏感に捉えた商品提案力と、現場営業力の賜物であった。三種の神器（テレビ・冷蔵庫・洗濯機）の普及が始まると早々にテレビ融資の取り扱いを始め（昭和34年）、モータリゼーション時代の到来を察知すればマイカーローンの取り扱いを開始（昭和38年）。金庫が一体となってお客さま目線に立った提案をする姿勢は、いつしか“別信のお家芸”とみなされるようになり、市民も金庫の得意先係を「信ちゃん」と親しみを込めて呼びはじめた。

別府市内シェアナンバーワンという実績は、地域からの信頼の積み重ねの証しと言える。



昭和38(1963)年11月の預金残高50億円達成祝賀会。左上は同時期に撮影した最後の駅通り支店の職員写真



地域制覇祝賀会の模様を伝える庫内報



移転1年後の昭和40(1965)年の本店遠景。高層ビルは別信と近鉄別府店のみ



本店ビル落成記念旅行定期積金で東南アジアへ。旅行定期積金では初の海外旅行

共感の百年 #1

活力ある企業風土には
役職員の心をひとつにする
仕組みがあった



庫内コミュニケーションの活性化

組織内におけるコミュニケーションは、いつの時代も企業の重要課題のひとつにあげられる。当金庫においても役職員の増加、店舗網の拡大、本部組織の機能分化が進展するに伴い、全金庫的な意思統一を図る必要性が増してきた。その先駆けとなったのが庫内報『別信』（現『みらら』）であり、信友会である。

📖 庫内報で全役職員が経営と向き合う

昭和 38（1963）年 4 月 20 日に創刊した庫内報は、金庫の業務に直結した情報を軸にしたコミュニケーション・メディアである。

創刊した昭和 38 年は本店ビルの新築工事が開始された年であり、「基本方針・三原則」制定から 2 年が経過し、「別信強化 5 カ年計画」がスタートした年。これに伴い、別府・湯布院あわせて 7 店舗・約 150 人の役職員に金庫の経営情報を知らせ、意思統一を図ることを目的に掲げて創刊に至った。

高橋新一事業部長（当時）は、創刊号巻頭の「発刊の辞」で、「相互信頼と連携の下に別信の躍進」があると訴え、建設的意見の投稿を呼びかけている。以降、その思いは変わることなく、現在の『みらら』に引き継がれている。



昭和 42 年 2 月号の表紙は女子職員の研修風景。当時は毎月発行していた



昭和 47 年 4 月号の創立 50 周年記念号では金庫の歴史を振り返った



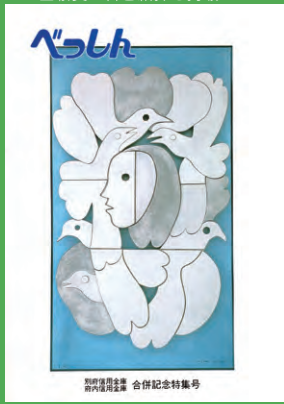
創刊号の巻頭に掲載された高橋新一事業部長からの「発刊の辞」



100 号記念となる昭和 54 年 12 月号では全職員の自己紹介を掲載



昭和 58 年 6 月号。右上写真は始まったばかりの歩行ラリーの模様



平成 4 年 7 月の府内信金合併記念特集号では両金庫職員の座談会も実施



平成 7 年 1 月から「みらら」に刷新。今号から表紙は撮りくらぶが担当

信友会でフラットな“絆”を醸成

役職員の親睦と福利厚生を目的に設立された信友会は、部室店の垣根を越え、経営トップから一般職員まで分け隔てない交流の機会を得られる場として親しまれている。昭和29(1954)年3月1日発足と、その歴史は古く、初代会長は高橋豊之進理事長。『しんじゅ(新樹)』という会報を発行していた時期もあった。(現在は庫内イントラネット『みんと』に同様の役割を担うコーナーが存在する)

部活動、慰安旅行、運動会、レクリエーション、記念祝賀会の余興等の庫内行事のほか、別府温泉まつりや府内紙幣等の地域イベントからボランティア活動まで、信友会の活躍の場は広い。活動を通じて、勤務中には見られない職員の横顔や、人間味あふれる一面が見られるのも楽しみのひとつ。フラットな“絆”が育まれる場として機能している。



秋の運動会の応援で盛り上がる(関啓二 前理事長提供)



老人ホーム訪問で体を張った芸を見せる「みらいお笑い一座」



ハーモニーランドで開催した創立84周年祝賀会のエンタメショータイムは、すべて信友会がプロデュースした



昭和30年8月の発行の会報創刊号は手書き。記事は囲碁大会の結果など



リニューアルのうえ昭和58年4月に発行された『信友会だより 新樹』



金毘羅宮や松山城を楽しんだ「高松道後コース」の信友会旅行。坊っちゃん列車の客車前の集合写真。昭和48年7月21日撮影(関啓二 前理事長提供)



信用金庫大会で大活躍の野球部と卓球部は、いつの時代も信友会のヒーロー。上段写真は昭和58年撮影。下段写真は昭和40年代前半頃と思われる

挑戦の百年

#1

希望と信頼
アイリスの
別府信用金庫



📖 広告宣伝活動でべっしんブランド定着

日本経済が高度経済成長で活気づくなか、金融機関は個人預金獲得のために熾烈な営業活動を展開していた。信用金庫の場合、職員が“信ちゃん”と親しみをこめて呼ばれることが定着しており、これに着目した近畿地区信用金庫協会が昭和34（1959）年11月にマスコットキャラクター「信用金庫の信ちゃん」を開発。大きな反響を呼び、翌年には全国信用金庫の統一キャラクターに採用された。各信金では積立定期預金「信ちゃん預金」の取り扱いを開始し、ぬりえやカレンダーなどのキャラクターグッズも登場したが、当金庫では独自に作製した「信ちゃんTシャツ」が子どもたちの人気を集めた。

その一方で、他の信用金庫との差別化を図るため、当金庫では昭和38（1963）年6月にシンボルフラワーとしてアイリスを採用。花言葉から引用した「希望と信頼 アイリスの別府信用金庫」というキャッチフレーズでイメージ発信に努めた。当時はシンボルに“花”を採用した金融機関は珍しく、大きな話題を集めた。

このアイリスを、チラシや新聞など広告媒体のキービジュアルで露出させるだけにとどまらなかったことも大きい。「貯蓄の日」にアイリスの球根を配布し、開花時に



信ちゃんTシャツを着る子どもと「信ちゃん」。CMソングも作られた



全店ロビーで実施したアイリス展示会が好評を呼び、昭和39（1964）年12月には「アイリス積金」の取り扱い開始。続いて昭和40（1965）年6月にPR誌になる庫外報『アイリス』創刊、昭和41（1966）6月からアイリスの紫・黄・緑をコーポレート・カラーに使用、昭和43（1968）年9月にキャラクター「イリスちゃん」誕生と、矢継ぎ早の広告宣伝活動が功を奏し、「アイリスの別府信用金庫」ブランドは、早々に市民へ定着した。



正式代表花にはジャーマンアイリスを採用した



全店一斉に実施したアイリス展示会



PR誌『庫外報 アイリス』



アイリスの花をあしらったアイリス積金の表紙



キャッチフレーズとシンボルデザインが添えられたロゴタイプ



マッチのノベルティの図柄に登場した「イリスちゃん」

安定期

昭和41年～昭和64年(平成元年)

1966—1989

戦後の混乱期を乗り越え、日本は奇跡的な経済成長を遂げた後、昭和40年代には安定経済期に入る。大分県も新産業都市指定を機に、工業県としての地位を確保する。別府信用金庫は県経済の中心地である大分市に進出し、“べっしんスピリット”で新たな市場開拓に挑む。

■ 県都・大分市に出店を果たす

別府市でシェア・ナンバーワンを獲得した別府信用金庫だが、経済基盤が大きい大分市での店舗展開は、かねてから視野に入れていた。これは大分市内で事業展開をする金庫取引先からの要望もあったが、金融機関として温泉観光都市・別府市と県都・大分市を結ぶ架け橋としての役割を担うべきという使命感に基づくものでもあった。

昭和39(1964)年7月21日、金庫の事業区域に大分市が正式認可されると、さっそく開設準備に着手した。用地として、当時は大分バス発着ターミナルがあったトキハ百貨店の南側(現トキハ会館の位置)の土地を取得。昭和40(1965)年9月の人事異動で合原厚 開設準備委員長(後

に初代大分支店長)ほか2名が任命されると、「若さを生かす」「基本型に徹する」「口座を増やす」と3つのスローガンを打ち出し、開拓活動に取り組んだ。

開店前の3月24日にはトキハ文化ホールで開設披露会を行った。政財界をはじめ約200名もの賓客を前に、高橋理事長は、挨拶の中で「名称は“別府信用金庫大分支店”だが、あくまでも皆さまのご協力のもと、ひとつの新しい信用金庫としてスタートできた」「金融を通じて地域経済の発展に私共の全力を捧げたい」という主旨のメッセージを伝えた。いかに覚悟をもって新天地への出店を決断したかが伝わってくる。

昭和41(1966)年4月1日、別府信用金庫大分支店は預金約14億円、貸出金約34億円の店舗としてスタートした。セピア色の外観に大型ガラスを配した明るい店内にはシンボルフラワーのアイリスを飾りつけ、アットホームな雰囲気の演出で来店客を迎えた。

なお、12年後の昭和53(1978)年8月21日、トキハ会館の新築に伴い、大分支店は現在地に移転している。



建設用地は県内でもっとも賑やかな大分市中心部を取得



昭和41(1966)年4月1日にオープンした大分支店建設パース



開設披露会で紹介される15名の大分支店職員



昭和41(1966)年師走、大分市府内町の現サンサン通りを自転車得意先訪問をする支店長と得意先係



昭和43(1968)年7月20日、約60名の職員が大分市の新産業都市の様子を視察。写真は護国神社展望台



昭和 45（1970）年開催の日本万国博覧会の定期積金旅行の写真。
お客さまとの絆を深める定期積金旅行が人気を集めた

■三原則の一部改正と職能資格制度導入

昭和 42（1967）年 4 月、経営理念として機能していた「基本方針・三原則」の一部を改正する。三原則の第 2 項で謳われていた「民主的かつ家族的運営」を、「民主的かつ組織的運営」とした。

これは「別信強化第二次 5 カ年計画」の策定にあたり、躍進の原動力が金庫を支える職員であったことに感謝すると共に、次の発展には人事労務管理の見直しが重要になると判断したからだ。「家族的」という表現は、ともすれば温情主義に偏っていると解される。しかし本来は、職員が自己の役割を認識し、責任感と使命感をもって自己実現を果たすことにより企業の発展に貢献していく体制が理想である。そのためには企業側も処遇面や労働環境の充実を求められる。「家族的」から「組織的」への改正により、「職能的機能集団」の在り方を明確にしたのである。

昭和 47（1972）年には「職能資格制度」の導入に踏み切る。そこでは職務遂行に必要な能力（＝職能）を基準にした人事評価を行い、その評価に基づいて等級を定めて給与に反映させるようにした。

もともと「職能資格制度」は日本企業の成長を支えてきた制度で、当時約 500 あった信用金庫のうち半数以上が導入していた。そのメリットは、すべての職務の能力を修得できるゼネラリスト育成に適した制度である点、職員の自己啓発と能力向上に加えて柔軟な人事配置・組織改編が行いやすい点等があげられる。反面、評価基準が抽象的で年功序列に陥りやすいというデメリットもあるため、金庫は本制度の導入には慎重を期した。

導入にあたり庫内報『別信』では全 28 頁に及ぶ特集を組み、導入の経緯や人事管理の課題、能力主義の説明、賃金体系に至るまで丁寧な説明を行い、4 年計画で導入すると伝えた。経営陣と職員が共に考え、両者が納得のうえ導入に至ったものである。



庫内報『別信』職能資格制度特集号

■創立 50 周年の節目を迎えて



創立 50 周年記念パンフレット。キャッチフレーズは「みなさまと ともに栄えて 50 年」

昭和 47（1972）年 4 月 12 日、別府信用金庫は創立 50 年を迎えた。昭和 45（1970）年開催の日本万国博覧会が成功した後、ドルショックで国内経済が岐路に立たされながらも、早々に落ち着きを取り戻した時期である。

高橋豊之進理事長は、「この 50 年は別信の基礎づくりの時期であり、地域に根ざした強固な基盤を出発点にして、今日から新たな 50 年に向かって大きく発展する第一歩を踏み出そう」と職員にエールを送った。この年、金庫は預金量 250 億円、貸出金量 200 億円を突破し、51 名の新入職員が入庫して役職員数は 300 名を越えた。

同年 6 月、田中角栄首相は『日本列島改造論』で都市と地方の格差を解消する地方活性化策を打ち出した。県内は、ひと足早く大分臨海工業地帯の主要コンビナートが操業を開始し、これにともない大型流通店の進出が続き、観光客数も 2 千万人を突破。新たなステージを迎えた大分県経済に、金庫職員も意欲をかきたてられた。



記念祝賀会の会場となった亀の井ホテルへ足を運ぶ高橋豊之進理事長



50 周年を迎えた昭和 47（1972）年当時の本店営業部ロビーの様子

挑戦の百年

#2

お客さまの利便性と
経営効率性を考慮し、
機械化に積極投資

九州の信金初の自営オンライン稼働

金融機関の歴史は、システムの歴史といっても過言ではない。かつて計算事務はソロバンが主役で、金庫の新入職員も珠算検定の取得が求められていた。しかし効率とスピードが求められる時代になると電算システムの導入は必須となってくる。



オンライン化の稼働が始まる前の事務部の様子

昭和 40（1965）年の三井銀行（現三井住友銀行）による日本初の普通預金オンラインシステム稼働を皮切りに、金融業界では「第 1 次オンラインシステム」と称する勘定系システムの構築が加速し、地方銀行と信用金庫もオンライン本格化の道を辿りはじめる。

別府信用金庫の電算機導入の歴史は、昭和 30（1955）年 8 月のジーマーク作表機（パンチカード処理による計算機）から始まる。以降、電子会計機 E2000、端末機 TC700 の全店設置など最新鋭の機器を積極的に導入し、ついには昭和 48（1973）年 11 月 2 日に米国・パロース社製電子計算機 B3500 の始動式に至る。これは九州の信用金庫業界では初めてとなる本格的コンピュータの導入となり、オンライン化の一步を踏み出した。

始動後は日計総勘定業務に始まり、証書貸付、給与計算、出資金、定期積金、割引手形、手形貸付と各種業務が順次オンラインに移行していった。これまでに丸 1 日かかっ



九州信金初の自営オンライン始動式でテープカットする高橋理事長



電算室に設置された各種機器と配置図を紹介する庫内報の記事



ていた給与計算の打ち出し作業が 2 時間で完了するなど、そのスピードと正確さに担当職員は感激したという。

普通預金のオンライン移行は富士見支店を皮切りに進められ、5 ヶ月後の昭和 50（1975）年 2 月には全店オンライン化が完成。別府・大分・湯布院 12 店舗（当時）、どこの店でも普通預金の出し入れが可能になった。

昭和 52（1977）年 8 月には現金自動支払機によるキャッシュサービスが始まり、昭和 54（1979）年 2 月に内国為替のオンラインがスタート。顧客情報の一元管理ができる「第 2 次オンラインシステム」構築後は、複数科目を同時処理できるようになり、昭和 55（1980）年 6 月には普通預金・定期預金・当座貸越をセットした「総合口座」の取り扱いも開始された。いずれも今では当たり前のサービスであるが、当時としては一気に利便性が高まり、法個人を問わず顧客との距離もより近くなった。

平成 4（1992）年 5 月には自営オンラインから共同オンラインに移行することになるが、その陰には大きな事故もなく約 20 年にわたり別信オンラインシステムを支えてきた事務部電算課職員の昼夜を問わない努力がある。



無事にオンラインがスタートを喜ぶ電算課の職員

■ 高橋新一理事長就任。参画経営への想い



就任に至るまで改革に取り組んだ高橋新一理事長

昭和 50 (1975) 年 5 月 1 日、第 54 期通常総代会で高橋豊之進が会長に就任し、高橋新一が新理事長に就任したことが発表された。高橋会長は「これからは新理事長を中心として、全員が一致結束し、別信の躍進発展に大いに努力していただきたい」と、その思いを託した。

新理事長就任の翌年となる昭和 51 (1976) 年度、長期計画に初めて“地域”という名称を差し込んだ「地域共栄 5 カ年計画」が始まる。同年 9 月 5 日、高橋新一理事長は、全役職員に向けて『別信発展の方向についての基本的な考え方』を表明した。

序文も含め約 15,000 字にも及ぶ文書の中には経営環境、地域社会との関わり方、事業展開の方向、組織と人事管理、

地域における存在意義等が事細かく論理的に、かつ熱意をもって綴られており、“別信人”としてのバックボーンを提示している。

注目すべきは、ここで初めて金庫経営の根幹を成す「参画経営」という言葉が明文文化されたことだ。「参画に欠かれないのはコンセンサスであり、コンセンサスが生まれるには、納得と賛同がその前提となる。形の上でのコンセンサスは、真の納得ではない。十分な話し合いと自由な討議により、お互いの立場を理解し合ったとき、そこにおのずと共感が生まれて合意に達する」(原文より)。

さらに 3 年後の昭和 54 (1979) 年 12 月発行の庫内報『別信』100 号記念号でも、次のように言及している。「参画することにより自らの責任とやる気を起こさせ、一体となって物事を考えることになる。それにより自己啓発を一段と高め、企業に融合する結果となると信じている」「企業に人を迎え入れる目的は、その労働を求める為ではなくて、立派な後継者を得る為である。(中略) 各部署それぞれに立派な後継者が育っていくことで、企業ははじめて永遠の生命をもちとることができる。企業ぐるみのパトントッチを立派にやって行きたい」(原文より抜粋)。

現在も脈々と流れる金庫の哲学を、淀みなく伝えている。



冊子「別信発展の方向についての基本的な考え方」

感謝の百年

📖 鶴見支店開店までのあゆみ

当時の新店舗開設までの道のりを紹介する。

別信 14 番目の店舗として、昭和 55 (1980) 年 8 月 4 日にオープンしたのが鶴見支店だ。開設にあたり薬師寺良一支店長はじめ 11 名の職員が配属された。

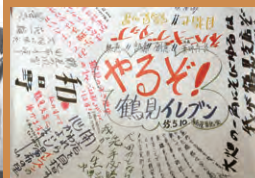
オープンまで僅か 4 ヶ月だったが、宿泊研修を含むコンセンサス会議に始まり、市場分析・顧客開拓計画の立案・ローラー訪問活動等、密度の高い準備期間を職員は乗り切った。BMP 戦略手法を取り入れた初の新店舗開設に携わることに手応えを感じる職員も多く、薬師寺店長は「熱意・誠意・創意をもって地域に不可欠な存在となろう」と鼓舞した。多忙を極める毎日ではあったが、地元からの期待の声も次第に高まっていったことも大きな励みになった。

いよいよ迎えた開店日。雨の中、1,080 人もの来店客を数えたことに、職員は感謝した。

#2 地域に感謝しながら 鶴見支店オープン



開設準備委員は薬師寺店長を含めて 14 名



開設準備委員全員の決意表明を記した色紙



日本マネジメント協会の久田先生の下、湯布院青年の家での宿泊合宿も含めた研修・会議が繰り返された

昭和 55（1980）年 5 月より、金庫は日本マネジメント協会（本社 東京・略称「日マネ」「JMI」）の経営指導を受け、“地域完全制覇”を目指した営業推進活動の強化に取り組んだ。金融機関が身近な存在となり、都銀・地銀も含め“地域密着”を営業店経営に取り入れ始めた頃だ。

得意先係がもっとも印象に残っている研修は、9月から3回にわたって行われた「FST」だ。モデル店に選ばれた亀川・荘園・南大分の各支店に、全店から精鋭の得意先係が集結。初日にセールストーク、デモブック、地区概況の把握等を交えた研修を行い、残り2日間は割り当てられた地区で新規開拓活動に出向く。普段の経常先ではなく、地理的にも慣れていない地区での開拓活動は、一切の甘えも許されない。雨に悩まされる日もあったが、定期積金ほか各種預金や年金の見込み先情報等の収集に至るまで、全員が目標達成に向けて汗をかいた。

一方、同年10月から始まった「BMP」は、佐々木省二支店長を含む19名の職員が在籍する富士見支店がモデル店に選ばれた。期間中は得意先係と内部職員が合流した2つのチームに分かれ、泊まり込みのコンセンサス会議も含めた半年間にわたるロングラン研修となった。

研修では、ランチェスター戦略をベースにした“狭域高密度”の意義と目的を体系的に学び、あらゆる角度から地区情報・顧客情報の現状分析に取り組んだ。そのうえで市場を細分化して重点地区を設定し、全戸取引に向けた営業活動に挑戦した。得意先係が単独で行っていた地区情報管理を、チームに属する内部職員と連携しながら行うことで能動的なアクションに繋がり、企画・PR面も含め営業活動に活気が見られるようになった。

お待たせいたしました
8月4日(月) オープン!
鶴見支店



新築ビル 約1,000㎡

知信信用金庫

お電話のついでに
いっしょに遊ぼうかな

別府信用金庫
親睦交流の場を準備

栗師寺 良一

別府市 別府南 南島路 1-1 番地
TEL. 097-823-6000

A white van with a yellow sign on the back that reads "8月15日 1945年" (August 15, 1945) and "39-58". A group of children and adults are gathered around the van, holding colorful balloons.

別府信用金庫

8月4日!

あむたの町に仲間入り

よろしくお願ひ申しあげます



■ 創立 60 周年事業で地域との関わりを再確認

昭和 57（1982）年 4 月 12 日、別信は創立 60 周年を迎えた。50 周年から数えて僅か 10 年の期間は、まさに激動の時代だった。国内では 2 度のオイルショック不況が起こり、石油価格高騰が鉄鋼・石油化学等の素材型産業を構造不況に陥れた。一方で半導体・自動車等の加工組立型産業は国際競争力を高め、昭和 48（1973）年から始まった変動相場制移行は外国為替市場に混乱を巻き起こした。

金融業界においては企業が設備投資を抑制するようになり、昭和 52（1977）年には都銀の預貸金利鞘平均値がマイナスになる事態が起きた。これを受けて大蔵省（現・金融庁）は「新金融効率化」の指導方針を打ち出し、ここから昭和 57（1982）年の銀行法改正へと繋がった。

大分県内に目を向けると、中小企業が長期不況に苦しむなか、昭和 54（1979）年に就任した平松守彦大分県知事が提唱した「一村一品運動」を機に県内各地で地域おこしが巻き起こり、地場産業の見直しが進む。湯布院の町づくりが全国から注目されはじめたのもこの頃からだ。

一方、観光業をはじめ地盤沈下が進んでいた別府市では、昭和 51（1976）年から 3 回にわたって「千人インタビュー」を実施し、町づくりに関する意見を集約して別府市が進む道を模索した。この事業には多くの金庫職員も協力参加しており、昭和 56（1981）年にはこれに倣って金庫独自で「千人インタビュー」を実施。「地域社会が別信に何を期待しているか」をテーマに集めた声を KJ 法で分析し、自らの立ち位置を確認した。

このような経緯を経て迎えた創立 60 周年では、その記念事業として「別府振興シンポジウム」の開催を提案し、その資金を寄付した。金庫内に事務局を設置して開催された本事業は全 8 ヶ月・41 回にわたって行われ、別府市内外から参加したオピニオンの延べ人数は 1,231 名にも及んだ。まさに地域と共に歩んできた別府信用金庫らしい周年事業となった。



別信ホールで開かれたシンポジウムでは平松知事も交えて別府の未来を議論した



熱い議論が交わされた別府振興シンポジウムの記録集

共感の百年

#2

理想の金庫像を 自分達力で描き出す



参画経営は金庫が誇る企業文化

金庫の参画経営の歴史は古い。小集団活動やプロジェクトが盛んなのも参画経営の思想が定着しているからだ。KJ 法による問題解決手法、歩行ラリー研修等も参画経営の意識を養う一手法である。

昭和 50 年代は各店で様々な小集団活動が行われた。そのひとつが 48 名の職員が取り組んだ本店営業部のクローバー活動だ。得意先係・融資係・事務係の枠を飛び越えたチームを結成し、全員セールスで開拓活動や情報活動にのぞんだ。クローバー活動を通じて“横の連帯感”が生まれ、通常の業務に新たな視点を見つける職員も多かった。

これ以降も業種別研究会、テレマーケティング委員会、テラーコンクール等、全店あるいは各支店毎に様々なテーマの活動が行われている。参画経営は金庫の企業文化そのものである。



クローバー活動で心をひとつに。各チームの活動状況を報じる「若労葉新聞」も発行



女性職員が中心となり、全店を巻き込んで実施されたテラーコンクールの一場面

■積極的な店舗開設と1,000億金庫の誕生

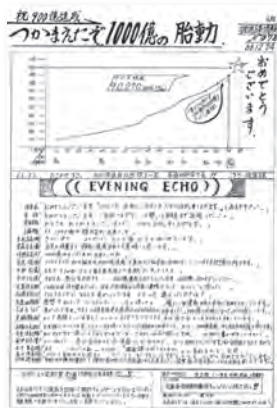
創立60年度の昭和57(1982)年12月22日、金庫の預金残高は1,000億円を突破した。創立50年度決算の同287億円と比較すると10年間で驚異的な伸びを示している。当時は預金残高が金融機関の勢いを示すバロメーターであり、1,000億の大台越えに役職員は歓喜した。

並行して店舗網も一気に拡大した。戦後から府内信用金庫と合併する平成4(1992)年以前の出店状況を時系列で列挙すると以下の表になる。特に1980年代からの12年間で10店舗出店している。これに既存の南支店(旧本店)・野口支店(昭和17年に支所として開店。昭和26年に支店昇格)を加えると、別府市内16店舗、大分市内4店舗、湯布院町1店舗・日出町2店舗となり、別府湾沿岸のまちを結ぶ23の店舗網を確立した。

戦後から平成までの新規21店舗出店の推移

※ナンバリングは開店順

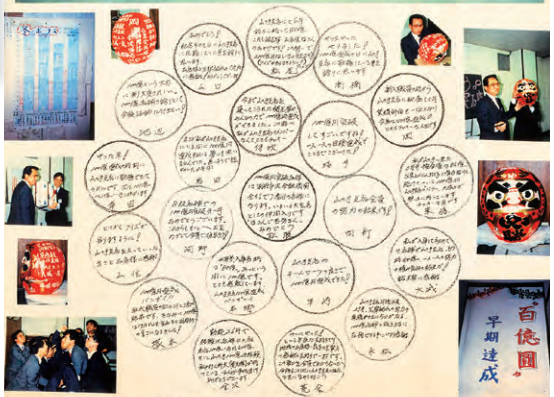
1 昭和25(1950)年4月 駅通支店(本店)	8 昭和43(1968)年11月 上人支店	15 昭和58(1983)年12月 公設市場支店
2 昭和26(1951)年8月 鉄輪支店	9 昭和46(1971)年3月 南大分支店	16 昭和59(1984)年11月 扇山支店
3 昭和27(1952)年9月 亀川支店	10 昭和49(1974)年4月 荘園支店	17 昭和60(1985)年6月 東大分支店
4 昭和31(1956)年3月 湯布院支店	11 昭和53(1978)年8月 石垣支店	18 昭和60(1985)年11月 境川支店
5 昭和34(1959)年9月 山の手支店	12 昭和55(1980)年8月 鶴見支店	19 昭和62(1987)年12月 日出支店
6 昭和39(1964)年4月 富士見支店	13 昭和56(1981)年12月 豊岡支店	20 平成2(1990)年12月 浜脇支店
7 昭和41(1966)年4月 大分支店	14 昭和58(1983)年10月 春木支店	21 平成3(1991)年12月 津留支店



各店の業績を報じる手書きの「推進課情報」を楽しみにしていた職員も多かった



鉄輪支店が平成元年12月13日に100億円突破した時の記念写真(関啓二 前理事長提供)

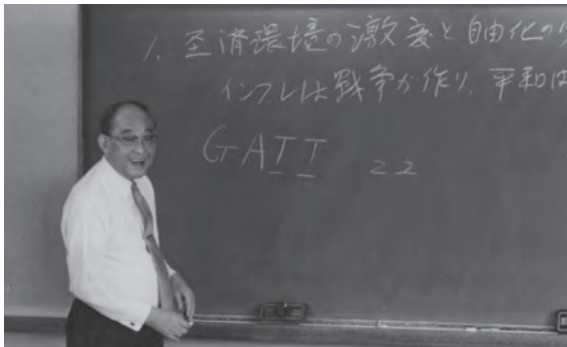


現在も山の手支店に飾られている昭和63年12月28日の100億達成記念パネル



職員一人あたりの預金量PH(パーヘッド)目標達成も評価された。写真は昭和48年11月30日にPH1億5千万円を突破した本店営業部の記念写真(関啓二 前理事長提供)

■ バブル景気が到来し、地域経済にも波及



管理者研修で金融自由化について講義する高橋新一理事長

順調に業容を拡大してきた別府信用金庫であるが、80年代の国内経済は大きな転換期を迎えていた。

まず昭和60(1985)年9月のプラザ合意によりドル高是正に向けた円高が進んだ。このため好調だった自動車・家電関連の輸出産業は大きな打撃を受け、合理化や倒産が深刻化する。これを受けて政府は円高不況対策として低金利政策を断行。昭和61(1986)年1月からの13ヶ月で5.0%だった公定歩合を5回にわたって引き下げ、最終的に2.5%にまで達した。当時は公定歩合と預金金利が連動していたため、金庫では発表の都度、預金流出防止策に奔走した。

しかし昭和62(1987)年2月の「ルーブル合意」後は為替相場が安定し、国内は内需主導型の景気拡大局面に入っていく。同年10月の米株価大暴落・ブラックマンデーの影響も少なく、円高に伴う資本流入と金融機関の積極融資の結果、いわゆるバブル景気に突入していく。豊富な資金が不動産や株式へ流入し、平成元(1989)年12月末には日経平均株価が当時の史上最高値38,915円を記録した。

バブル景気は地方経済にも影響を及ぼした。昭和62(1987)年6月施行の「総合保養地域整備法(リゾート法)」は国内各地にテーマパークや観光施設のオープンを加速させ、大分県でも同年9月に「別府くじゅうリゾート構想」の承認に観光業界が沸き立った。県外資本を交えた不動産取引も盛んに行われ、取引先から不動産関連の相談が相次いだ。その影響もあり、昭和63(1988)年12月には貸出金1,000億円の大台を突破し(翌年3月決算は969億円)、平成2年度決算では預金量も1,500億円を突破した。

■ 金融自由化時代に対応できる営業体制の確立

戦後の高度成長を支えた金融機関の護送船団方式も、この時期に見直され、金融自由化と国際化が一気に進んだ。

金融自由化の一環となる「金利の自由化」は、昭和60(1985)年の自由金利定期預金(大口定期預金)、市場金利連動型預金(MMC)の解禁から始まった。当初の大口定期預金の最低預入額は10億円だったが段階的に引き下げられ、平成元(1989)年10月以降は1,000万円となり、現在に至っている。一方の最低預入額5,000万円からス

タートしたMMCはその後、スーパーMMCの名称で300万円、100万円、50万円と順次引き下げられ、平成5(1993)年6月には最低預入額が撤廃されて「スーパー定期預金」に統合されたことで定期性預金の金利自由化は完結した。翌年10月には流動性預金も自由化され、これをもって約9年半をかけた預金金利の自由化は完了した。



最低預入額が順次引き下げられていったスーパーMMC(平成2年当時の広告)

この激動の時代に対応すべく、金庫は昭和60(1985)年度から「金融自由化対応3カ年計画」、昭和63(1988)年度から「第2次金融自由化対応3カ年計画」を打ち出し、来るべき時代に備えた。

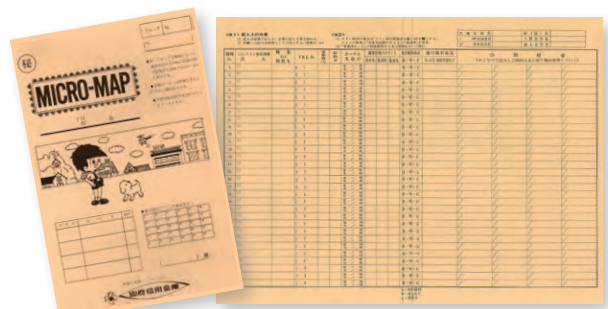
特筆すべきは情報化時代に備えて各種システムの積極投資を行った点である。昭和59(1984)年4月に導入した最新鋭のオンライン端末・UBTによる事務効率化もそうだが、営業店へのパソコン導入は大きな変革をもたらした。

昭和61(1986)年5月から半年にわたって行われたパソコン勉強会を受講した129名の職員は、いずれもその威力に期待を寄せ、翌年10月にモデル店舗・扇山支店で稼働が開始されると全店がパソコンの話題で持ちきりになった。BMP戦略の「狭域高密度・地区管理活動」の意義を再確認する職員も多く、並行して行われていたマイクロマップ活動による情報収集にも力が入った。

パソコンの全店配置は平成元(1989)年11月に完成。そこから地区情報管理システムの運用が本格化していく。



パソコン勉強会の様子(写真左)と、パソコン導入第1号店となった扇山支店

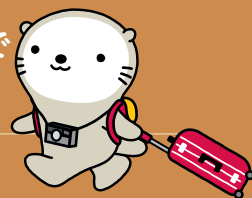


マイクロマップには営業活動で入手した地域情報を逐次書き込んでいった

感謝の百年

#3

顧客の組織化で 地域に密着



顧客の組織化で地域との絆を深める

信用金庫は本業以外にも地域とスクラムを組んだ活動を行うことで地域密着型金融(＝リレーションシップバンキング)の側面を発揮している。当金庫も地元のお祭りやボランティア参加のほか、顧客を組織化することで長期にわたる絆を育んできた。杉の子会や同友会のほかにも、子ども対象の「信ちゃんクラブ(後の「ごうるすくらぶ」)」、年金受給者対象の「信寿会」、女性対象の「デュエットクラブ」、旅行好きのお客さま向けの「旅 ing倶楽部」、若者対象の「M's CLUB」等、様々な組織を通じて日頃からの感謝の気持ちを伝えている。



満足度の高さと現在も評判が高い定期積金旅行

杉の子会で働く若者をバックアップ

本格的な顧客組織化の先鞭となったのが「別信杉の子会」である。杉の子会は、昭和 36 (1961) 年に中央信用金庫(現・東京東信用金庫)が中小企業で働く若者を組織化したことを機に、全国の信用金庫で広がりを見せた組織だ。勤労青年が力を合わせて企画を実現していく姿は、さながら「都市型青年団」ともいえる様相を呈した。

「別信杉の子会」では昭和 43 (1968) 年 11 月から会員募集を開始。貯蓄の奨励、融資・ローン斡旋、異業種交流等、中小企業の福利厚生面を補完する役割も担っていたので、勤務先の経営者からも大変好評で、協力をいただいた。

平成 8 (1996) 年には若者向け商品をセットした「M's CLUB」として活動を継続。同年 10 月開催の「1996 ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSYU」というビッグイベントを実現させた。「M's CLUB」は府内戦紙等のイベントを通じて、大分の若者文化を盛り上げている。



杉の子みこしで参加した温泉まつり



異業種交流の場にもなった杉の子会



「ヤングコアフェスタ」の若者討論会



府内戦紙で若いエネルギーが爆発



子ども達に人気のごうるすくらぶ



「ごうるす探検隊」で冬の自然観察会

同友会を通じて地元経営者が交流

別信同友会は昭和 51 (1976) 年 11 月 17 日に発足した。昭和 48 (1973) 年に起きた第一次オイルショック後の経済が低迷していた時期に、この難局を乗り切る方策を探ろうと、当金庫と取引先経営者がひとつになって結成に至った組織である。

その活動は講演会、優良企業見学、ビジネススクール、チャリティイベント、ゴルフコンペと多岐にわたり、地域を越えた交流も盛んで、当金庫取引先の経営者同士を繋ぐ組織としても確立している。「地元経営者と関わりが深い信用金庫が軸になったおかげで、お互いの“絆”が深まり、実のある活動に繋がった」と、設立時から同友会活動に携わってきた樽谷壽生 前代表幹事は評価する。

現在は「みらいしんきん同友会」と名称を変え、24 支部・約 1,600 名の会員による積極的な活動を展開。会報や Web サイトを通じた情報発信も行っている。



発会式で糸川英夫博士講演会を開催



第一回ゴルフコンペ



盛況だった「みらいビジネス交流会」



婚活を支援する「みらコン」も企画



信寿会杯ゲートボール大会の表彰式



高齢者の皆さんの熱気あふれる試合

変革期

平成元年～平成20年
1989—2008

金 融自由化の荒波が激しさを増すなか、新しい時代の金融機関の在り方が問われる時代に直面した。地域に育てられてきた別府信用金庫は何をすべきか、20世紀の終焉と共に、大きなターニングポイントを迎える。

■ 府内信金との合併で「新生べっしん」へ

平成の訪れと共に、バブル経済の崩壊が始まった。日本銀行は株価と不動産の投機熱にブレーキをかけるため、2.5%だった公定歩合を平成元（1989）年5月から翌年8月の短期間で段階的に6.0%まで引き上げ、金融引締め策に転じる。政府も地価高騰の抑止策として平成2（1990）年3月に不動産融資総量規制、平成4（1992）年1月に地価税を導入。バブル期に過剰融資を行った金融機関が不良債権を抱えて経営危機に陥る先が現れ始めたため、リスク管理強化策として平成4（1992）年度から国際統一基準に自己資本比率8%以上確保を義務付けるBIS規制導入を発表した。相互銀行の普銀転換もこの時期で、県内でも平成元年2月に豊和相互銀行が普通銀行になった。



合併ならびに業務提携調印式の写真。左から高橋新一理事長、洲野純生新理事長と広瀬健二前理事長（府内信金）、成瀬安佑理事長（中津信金）

一方、バブル期であっても堅実経営・地域密着を貫いてきた別府信用金庫も、県下トップ信金として大きな決断を迫られる。創立70周年の前年となる平成3（1991）年5月8日、大分市を拠点とする府内信用金庫との合併協定を交わした。また同協定調印と同日、中津信用金庫との業務提携調印も交わしている。金融自由化に伴う業界再編の流れが加速するなか、当時10金庫あった県内信金同士の合併は、業界にセンセーショナルな話題を巻き起こした。

かくして翌年6月1日には別府市16、大分市11、日出町2、湯布院町1、挾間町1と31の店舗網を持つ資金

大分と別府の懸け橋に



別信がリフレッシュ

別府信用金庫・府内信用金庫が1日、新合併した。金融自由化に伴う厳しい経営環境に対応し、合併メリットをいかに出しているか。別府信用金庫の新たなチャレンジの第一である。

「本々、別府市の経済、文化の発展のついでに、なりたいたいの期待を寄せている。地域の健全な発展に新しい信用金庫の力を結集していき」と語った。

午前八時十五分、合併調印式（信スローガンを「盛んなえ、地域発展のたのび」にする覚悟であります」との意を込めて、別府信用金庫の新しいイメージを打ち出す。合併後、別府信用金庫は、大分市、別府市、日出町、湯布院町、挾間町の5店舗を擁する。別府信用金庫は、大分市、別府市、日出町、湯布院町、挾間町の5店舗を擁する。別府信用金庫は、大分市、別府市、日出町、湯布院町、挾間町の5店舗を擁する。

合併当日となる1992年6月1日付の大分合同新聞夕刊

量2,000億円規模の新生「別府信用金庫」が誕生した。合併当日の記者会見で高橋理事長は、「(大分市内店舗が一挙に増えたことで)大分・別府両市の経済、文化交流の一つの架け橋になりたいとの願望を持っている。地域の健全な発展に新しい信用金庫の力を結集していく」と、大分支店出店時から抱いていた悲願をあらためて表明している。同時に、府内信金旧本店の地に8階建の「第百・別信ビル」(発表時の仮称。現「いちご・みらい信金ビル」)の建設も発表した。



合併を知らせるご挨拶リーフレットより

■「SPAIS」始動→ハンディ端末機導入→QSK加入

合併で大きな注目を集めた当金庫だが、これとは別に以前から取り組んでいたビッグプロジェクトがあった。

そのひとつが地区情報管理システム『SPAIS（“Strategic sales Planning by Area Information System”の略称）』の始動である。『SPAIS』を簡単に説明すると、従来から実践してきたシェアアップ活動やメイン化活動を支援するため、地区に特化した“情報”を科学的に収集・分析・発信する別信独自のマーケティングシステムだ。全店のパソコン配置も、ミクロマップ活動も、すべてこの「SPAIS」始動に向けての下地づくりだった。

また、「SPAIS」に機動力を持たせ、得意先活動に反映させる先端ツールとして導入されたのがハンディ端末機だ。県内金融機関では初の試みであったが、モデル店舗の荘園支店を皮切りに平成2（1990）年10月から順次導入され、翌年末には全店の得意先係が鞆に入れて持ち歩くようになった。ハンディ端末機導入は事務処理効率化をもたらすだけでなく『SPAIS』と連携した戦略的営業活動の実現であり、これが得意先係の意識改革にも繋がった。



「SPAIS」とハンディ端末機が得意先活動を革命的に変えた

合併発表後、もうひとつの大きな決断がQSK（九州しんきん共同事務センター）へのシステム移行だ。これまで採用していた自営オンラインには自由度の高い商品設計など数々のメリットがあったが、金融自由化に伴うコスト増を考慮し、共同オンラインへの移行に踏み切った。しかも通常なら2年は必要とされる移行期間を、合併発表から僅か1年で大きなトラブルもなく移行できたことにQSKは驚嘆した。当時の電算部職員の高い能力と、営業店の協力があったうえでの成果は今も語り草になっている。

■次代を担う世代から起きた新たな胎動

合併が実現した平成4（1992）年は、創立70周年を迎えた年でもあった。金庫では、職員から募集した記念スローガン「あなたがいるから、これからもときめいて、はば



あなたがいるから、これからもときめいて、はばたいて

創立70周年の記念スローガンとロゴ

たいて」を合言葉に、記念キャンペーンを展開した。記念事業としては別府スパピーチの海岸・海浜清掃機「ザウルス号」の寄贈等を行ったが、このとき別府駅前通りのシンボルロード構想に向けての

モニュメント建設資金も寄付。これが後の創立80周年事業となる別府駅前の油屋熊八像設置の原資となった。



海岸・海浜清掃機「ザウルス号」寄贈式での高橋新一理事長

合併前の平成2（1990）年春、20代から30代の若手職員たちで組織された「21世紀委員会」（山本眞郎委員長）も忘れてはならない存在だ。

本プロジェクトは、現状分析を起点に戦略を練り上げるのではなく、来るべき21世紀における社会や金庫の“あるべき姿”を描き出し、そこから逆算して“いま何をすべきか”を考える「バックカスティング」の思考法で取り組んだ。当初は戸惑いを見せていたメンバーであったが、翌年2月には答申書『夢と希望の提言』を提出した。

その内容は、冒頭の「21世紀の別信のあるべき姿は、そのまま我々自身の進むべき方向である」「人間は自分がそうなりたいと思う以上の人間にはなれない。だからできるだけ大きな夢を描いた」といった挨拶文にあるように、自由でおおらかな、まさに“夢と希望”が詰まったものであった。30余年後の現在、答申書をめくると「高齢化社会」「少子化問題」「国際化の進展」「高度情報化社会」「新しい世代の人材育成」等について言及しており、21世紀の金庫が抱える課題を見事に予見していることに驚かされる。金融自由化等で業界が混迷の時代を迎えるなか、夢があふれる答申書に多くの職員が共感を覚えた。



21世紀委員会のメンバー（写真上）と答申書『夢と希望の提言』

挑戦の百年

#3

若手職員が躍動する
企業イメージが定着



地域に大きなインパクトを与えた「ジュニア21」



「ぼくらの街はぼくらがおもしろくする」をテーマに開催された『ベイサイドルネサンス』

平成3（1991）年に始動した「ジュニア21」は、21世紀委員会が描いた未来像に少しでも近づきたいと、入庫1・2年目の若手職員で構成された実践部隊だ。その活動は金庫内にとどまらず、街に出かけて若者の意識調査を行ったり、キャンペーン企画の提案に取り組んだり、新しい視点で若者らしいイメージ発信に努めた。

なかでも注目を集めた活動が、平成4（1992）年から9回にわたって毎年夏に開催された「ベイサイドルネサンス」だ。地元タウン誌と地域の若者を交えて企画した本イベントは、夜の西大分港を借り切って開催。フリーマーケット、ストリートパフォーマンス、オールナイトシネマ、アジア屋台など、当時の大分では斬新だったコンテンツが若者の心を魅了し、初回から5千人もの入場者を動員した。平成6（1994）年以降は別府国際観光港も会場に加わり、文字通り“大分と別府を結ぶ”ビッグイベントへと発展していった。その反響は大きく、大分市から「活き粋大分づくり運動特別賞」、全国信用金庫協会から「第一回信用金庫社会貢献賞 Face to Face 賞」を受賞するに至った。

商品開発にも取り組んだ。別信杉の子会を現代の若者トレンドに合わせた顧客組織「M's CLUB」としてリニューアルさせ、総合口座・カードローン・積立定期・クレジットカードなどを自由にチョイスできる商品構成とした。

このような彼らの活躍が貢献したのか、平成12（2000）年「学生による県内人気企業ランキング」で第1位（大分合同新聞社調べ）に輝いている。



BMX フリースタイルのパフォーマンス



留学生も参加したアジア屋台



大分市のまちづくり活性化協力賞表彰式



地元タウン誌で連載コーナーも企画していた



洒落たデザインの「M's CLUB」の商品



活動を応援してくれた高橋理事長との懇談会も実施



話題となったジュニア21参加のキャンペーンポスター

なお、キックオフ直後は“CI”という耳慣れない言葉にピンと来ない職員も多く、合併に伴う現場作業に忙殺されたことは否めない。しかし合併後の反響に手応えを感じ、全役職員のベクトルがひとつになって新しい金庫づくりに邁進することができたのは、BCIに頼るところが大きい。BCIの詳しい内容は次頁に譲るが、経営理念の再構築から改名に至るまで、金庫が丸丸となって膨大なエネルギーを費やした結果、大きな収穫を手にすることが出来た。



大分みらいへ羽ばたく

別府信用金庫が自ら「大分みらい」を切り拓く。

別府信用金庫が自ら「大分みらい」として、この地域（まろ）に根ざし、未来・あすを牽引する。県内一店舗で新たなスタートを切った。金庫の活性化を図るべく、

別府信用金庫 名称変更スタート

午前八時三十分、別府市駅前本町の本店と分支部の前で行われた看板の除幕式があった。

本店頭では門金庫役員あいこ。

高松。衣替えと
正と
に身と

有校の除毒をする関係者(上)
と業務に取りかかる職員

続い、高松市東区 膳内
一生活館、江馬屋 一宮豊本木
店部長、理事 坂田 富雄、大分支
会会長、顧問代表の中村紀子
さん(右)の五人が総務部の
除毒、「大分めんたい酒」用金
庫の格好が見える、出
席者員から大きな拍手が
起こった。

須原の引出しに本店に
てきた別所川島川の小
田登喜蔵さんと「三ツレ
ビ」やオオデの信が行き
届いたという、名称が変
わることは知っていたが、
別所の文字もなくなる
のは意外だ。でも聞かれ
ば、いい名前だと思うと
話し、窓口で、新しいデザ
インの通帳を受け取って
いた。

大分支店でも、支店職員
をばいり、金庫開保者が皆
揃ひに並ぶ中、高橋新一会
長がはいさつした後、生野
雄一郎ササン通り商店街
会長、黒玉朝子サイクルン

ヨブコジ、落着、みらい
便益か、今晩食、割罪野
生落着、今本勝大分支店
長が看板に掲がついてた飾
を撤去した。大分支店店
口には、行員らが新たな文
字で対していたが、大分
市の商業社中連合会、大分
県は、「新しい未来に挑
戦しよう」とであり、
イメージアップに役立っ
ているのか、より地域へ密
着し、ますます私たちが
ではいかなる価値になら
うといふ、期許を寄せて
いる。

除毒の後の記者会見
で、高松理事長は大分縣
の自然を保護するため、利
便の一部を、環境推進機
構に寄付する「みらいク
リッ一口座」と、六月日
かは「〇〇一年三百七十
万円から七百万」を補
いに、ポータを含め、毎月
一定額を積立てる「積立定
金の取り扱い」を始めとし
と発表された。

このほか、六月十日に
は分文化会館で、又文化
演会・講師陣機微物美術
の活用で知れる比喩的な
意味大数説、を開くこと
記念企画と行事を打ち出し

共感の百年 #3

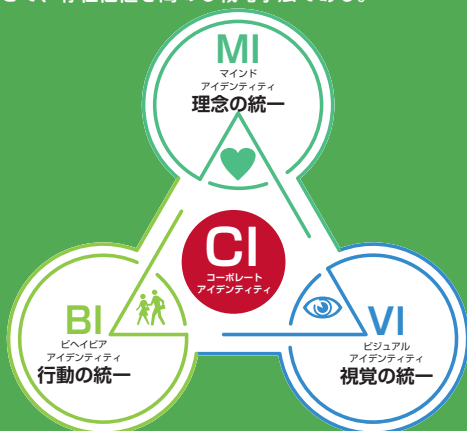
地域・金庫・職員の未来をBCIでひとつにする



経営理念の再構築から着手

創立以来の大事業となるBCIは、合併とQSK移行を3ヶ月後に控えた平成4（1992）年2月13日、別府市中央公民館で開催された全職員参加の第1回BCI全体会で、本格的にスタートした。

CI（コーポレート・アイデンティティ）は、「MI（マインド・アイデンティティ＝理念の統一）」、「BI（ビヘイビア・アイデンティティ＝行動の統一）」、「VI（ビジュアル・アイデンティティ＝視覚の統一）」で構成される。わかりやすく言えば企業の「考え方」「振る舞い」「見た目」を整理して、そこから導き出された個性（ブランド）を統一的に社会へ発信することで、存在価値を高める戦略手法である。



CIは「MI」「BI」「VI」で構成される

BCI実行委員会は、まずは「MI」の再構築から着手した。外部委託会社も交え、トップヒアリングから階層別グループインタビュー、全職員アンケート、さらには取引の有無に関わらず707人の地域住民アンケート、メディアや外部オピニオンリーダーへのヒアリング等、別信に関する意識調査を行った。そこから「事業領域」「企業力」「組織・風土」「行動様式」「職員満足度」「別信に対するイメージ」等を分析し、地域が別信に期待していることを確認。時代にふさわしい理想像を描きながら、目指すべき方向を探った。

そのうえで慎重に「言葉」を精査し、紡ぎ出された経営理念が「この地域に根ざし、未来を拓く」である。これに付随して、信用金庫人としての誇りと情熱を表明する「みらい宣言」、行動を起こすうえでの心構えを標した「行動の指針」も加えた。

これまでの「基本方針・三原則」に代わるものとして、当金庫の哲学・信条・ビジョン・文化等の一切を集約し、導き出された「MI」が、ここに明文化されたのだ。

経営理念

この地域に根ざし、未来を拓く

みらい宣言

信用金庫だから、地域の人々の希望と信頼にお応えします。
信用金庫だから、チャレンジする起業家を応援します。
信用金庫だから、世界に学び、地域の明日を担います。
信用金庫だから、誇り高くいきいきした職場をつくります。
信用金庫だから、地域と共に生き続けます。

行動の指針

志は高く、行動は遅しく

感謝

私たちは、感謝とまごころをもって、謙虚にたくましく行動します。

奉仕

私たちは、明るく豊かな生活創造のパートナーになります。

挑戦

私たちは、仕事に誇りと目標を持ち、進んで経営に参画します。

人間

私たちは、よく遊びよく学び、心豊かな人間をめざします。

大分みらい信用金庫へ改名

金庫名を改名するかどうかは、以前から幾度となく議論が繰り返されてきた。とりわけ発祥の地となる“別府”の名を外すことは、地元取引先からの抵抗があった。しかし合併後に県都・大分市の拠点が増えたことで違和感を覚える声が届くようになり、BCIの結果と将来の営業展開も踏まえながら地名にこだわらない改名を模索した。

その後、職員から金庫名を募集したところ1208もの案が寄せられ、そこから「豊の国信用金庫」「大分中央信用金庫」「別府ベイ信用金庫」「花の木信用金庫」「みらい信用金庫」等に絞り込まれた。初回の職員アンケートでは、「豊の国信用金庫」が圧倒的に人気が高かったという。

結果的に「大分みらい信用金庫」になったが、実は直前までまったく違う金庫名になる方向で進められていた。しかし金庫の中堅職員数名が理事長宅へ直談判に押しかけ、「庫名そのものに力をもった言葉を入れるべきだ」「“未来”であれば営業トークに使える!」「金庫の未来は私たちがつくる!」と訴えたところ、理事長の心を動かし、「大分みらい信用金庫」に決定した。

いかにも当金庫らしいエピソードである。

BCIニュース



進行状況は逐次「BCI ニュース」で全職員に報じられた

 “みらい”の名にふさわしいBCI展開



ダイナミックで暖かい筆づかいのシンボルマークは、MIRAIの「M」をモチーフに、地域の皆さまとお取引先、役職員が共に手を取り合って深く結び付くさまと、大分の豊かな自然を組み合わせでシンボライズしている。右上に伸びたフォルムは地域の発展性と金庫の先進性をイメージさせ、コーポレートカラーの赤は「情熱」「愛」「パワー」、黒は「知性」「気品」「伝統」を表現している。

「VI」の基本となるシンボルマークは、縁あってフランスのカレノアル社に依頼した。同社はミシュランのブランディング、ミッテラン元大統領の紋章等の実績がある世界的デザイン会社として知られる。当時は企業名に「未来」「みらい」を冠する国内企業は珍しかったが、提案された数案のデザインは、いずれも素晴らしいものであった。その中からヒューマンタッチの洗練されたデザインが、新しい金庫像に合致するのではないかと、いう結論に辿り着き、採用に至った。

広告展開も注目を集めた。人気コピーライターの吉田寛氏が提案したキャッチコピー「よい子の未来は、よい未来。」と、レトロな“よい子”人形をメインビジュアルに起用した広告展開が多くの共感を集め、広告業界からも注目された。

このほか改名記念商品として「みらいグリーン口座」「積立定期 2001 年未来の旅」が発売され、比嘉照夫・琉球大学教授の記念講演会『地球を救う大変革』も行われた。

一方、金庫職員からは“未来”をテーマにした「未来論文」を募集し、作品集を発行して職員が描く未来像を共有した。

改名直前となる平成6（1994）年4月の創立記念式典ではBCI全体会が開催され、高松実行委員長からBCI全体を総括する説明があり、新たな出発の宣言が行われた。その後は各部室店の代表がステージで「経営理念」「みらい宣言」「行動の指針」を読み上げ、全役職員と共に唱和して力強いスタートを印象づけた。後日、理念手帳が各自に届けられ、役席以上を対象にした理念浸透会も行われ、約3年半・1,278日に及んだBCIの全行程は終了した。



全職員が集う最後の「BCI全体会」で新しい経営理念等を唱和した



わかりやすいコピー
と、意外性のあるレ
トロなよい子人形の
シンプルなビジュアル
が反響を呼んだ



注目される「大分みらい信用金庫」のCI展開。

信用金庫のPR機関誌のほか、「日経デザイン」等の業界誌でも記事としてBCIが報道された。

「世界に学ぶ」「誇り高い魂をもつくる」「地域とともに生きる」の3項目を設計した。また日本の国字(国字はKANA)のMをモチーフに、縦線、横線、斜線をそれぞれで表して連なる10個の動物の足跡がデザインで、JICAの国字の造り方、JICAの造り方を表している。

10個の動物の足跡は、それぞれ動物の足跡をそれぞれに表している。動物の足跡は、それぞれ動物の足跡をそれぞれに表している。



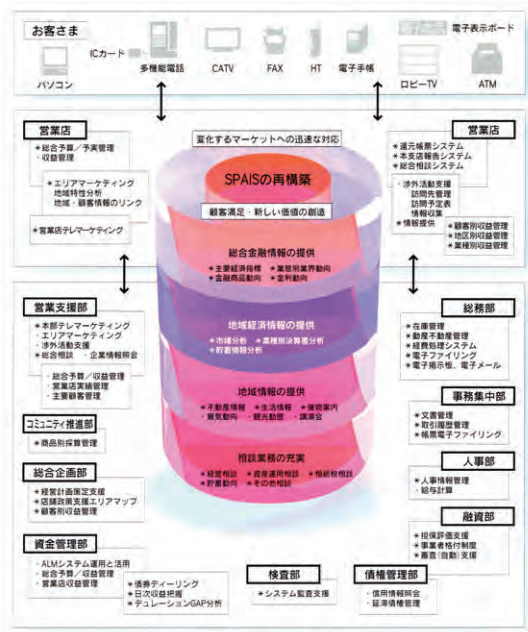
「みらいグリーン□座」と「2001 年未来の旅」のチラシ



講演会「地球を救う大変革」チラシ



職員から「未来論文」を公募



インテリジェント信金のイメージ図

■ 金庫の未来図を投影した長期総合計画

みらいしんきん誕生前後の日本経済はバブル崩壊の後遺症が深刻化し、平成10(1998)年には戦後初のデフレ経済に突入した。「失われた10年」と呼ばれる長期にわたる低迷期の始まりである。

それでも大分県経済は、この時期にいくつかの光明が射し込んでいた。たとえば大分自動車道全線開通に伴い別府・湯布院等への県外観光客が急増し、別府ビーコンプラザやオアシスひろば21等の大型公共施設のオープン、大分県立看護科学大学ならびに立命館アジア太平洋大学の開学、さらには大分キャンノンマテリアルの操業開始と明るいニュースが飛び交った。

金融業界に目を向けると、Free(市場原理が働く自由な市場)、Fair(透明で信頼できる市場)、Global(国際的で時代を先取りする市場)の三原則の下、日本版金融ビッグバンがスタートし、大規模な金融制度改革が行われた。これにより銀行・証券・保険の垣根が無くなり、特に都市部の信用金庫では競争の激化と経営の効率化が求められるようになっていた。

一方、信用金庫の特性である相互扶助を目的とした地域

密着型金融サービスは、これまで培ってきたコミュニティ型サービスの提供も相まって都銀・地銀との差別化に繋がり、その存在感を発揮していた。

平成7(1995)年11月に発表した「長期総合計画～未来に向かって～」は、生まれ変わった金庫の経営理念「この地域に根



長期総合計画～未来に向かって～



信金業界では全国2番目の公開となった初期のホームページ

ざし、未来を拓く」を体现することを目指し、10年後の金庫像を描いた羅針盤的存在として全職員に向けてリリースされたものである。計画には「全信連による経営診断」「金庫プロジェクトチームによる将来構想答申」「役員による経営課題研究」が集約され、「店舗戦略」「営業戦略」「組織戦略」「人事戦略」等の具体的な戦略がまとめられている。

■ インテリジェント信金構想でDX時代の到来を予測

その中には、来るべき情報化社会を予見する「インテリジェント信金構想」も提言されていた。この年はWindows95がリリースされたばかりで、インターネットも黎明期に過ぎない時期である。DX時代となった今、この提言を読み返すと情報ツールやIT関連用語などの新語が生まれており隔世の感は否めないが、「SPAIS」を生かしたマーケティング戦略の未来図を細部にわたり描いており、その意気込みが伝わってくる。もともと進取の気性に富んだ企業風土を持ち、顧客目線に立ったサービス提供に積極的であった金庫が、急速に進化する情報通信技術に着目するのは自然の流れだったといえよう。

それを体现するかの如く、構想発表の翌年には収益管理システムを始めとする各種業務システムの導入に着手し、庫内グループウェア「みんと」の稼働を開始。平成9(1997)年9月には全店のパソコンを結ぶネットワーク構築を完了させ、ペーパーレス時代の先駆けとなる体制を作った。

顧客サービスとしては、平成8(1996)年2月に信金業界で全国2番目となるホームページの開設。さらに平成10(1998)年2月には県内金融機関で初めてインターネットバンキング開始と、時代を先取りした取り組みとスピード感あふれる展開が注目を集めた。



前年にオープンした別府ビーコンプラザで開催された「'96 ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSYU」



常陸宮正仁親王、同妃殿下もご臨席された



ヤングコア版ベイサイドルネサンス



信用金庫らしく町づくりに関する意見を交わした



南九州各地のお祭りで会場を賑わせた



現代美術家の山出淳也氏が実験的なインスタレーションを披露したオープニングセレモニー

■ ヤングコアフェスタで見た若さあふれる底力

引き続き顧客との絆を深める取り組みにも力を入れた。別信同友会あらため「みらいしんきん同友会」では、経営者スクール、みらいVネット、ホームページ「e-DoYou!」の開設等に取り組み、経営者向けサービスを強化した。出資会員を対象にした「MIRAI 感謝の集い」の開催、信寿会会員向け機関誌『楽々』創刊、さうるす会員向けイベント等も盛んに実施している。

さらにジュニア21の企画・提案により商品化された「M's CLUB (エムズクラブ)」は、別信杉の子会に代わって若者を組織化し、府内戦紙への参加やスキーツアー等のイベントを行い、若者世代の顧客拡大に貢献した。

大きな反響を呼んだのが、平成8(1996)年10月に開館もない別府ビーコンプラザで2日間にわたって開催された「ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSYU」である。当金庫が主担当金庫となり南九州8金庫協力の下、各種企画を立案。フェスタ初日は町づくりをテーマにしたバトルトーク「かたらんか!」、「ビーコン版・ベイサイドルネサンス」等で盛り上がった。2日目の式典では常陸宮殿下、同妃殿下がご臨席され、式典後のアトラクションで披露された南九州各地の伝統芸能が3,800人の観客を魅了した。これらの模様は業界初となるインターネット中継で世界にも発信されている。このビッグイベントに携わった当時の職員は、いずれも「自信と誇りに繋がった」と口を揃える。

挑戦の百年 #4

業界に新風を吹き込む 広告展開に挑戦



📖 訴求力を高める斬新なアイデア
シンボルフラワーにアイリスを起用したブランディング展開をはじめ、先進的なコミュニケーション戦略が定着していた金庫では、限られた予算の範囲内で思いきった広告を実践してきた。

こども預金「さうるす」では、発売前の商品情報を断片的に見せていく「ティーザー手法」を用いた発信を行い、子どもたちの関心を集めた。

また、「信用金庫PRコンクール」では、斬新なアイデアを注いだカレンダーが同コンクール開始後初の2年連続最優秀賞獲得を果たし、全国の信金広報担当者を驚かせた。

型抜きを施した洒落たデザインが若い女性や学生たちの人気を集め、全店から追加オーダーが殺到した。平成3年度信金PRコンクール最優秀賞作品



ティーザー手法を取り入れた「さうるす」預金。店頭ポスターと新聞広告を月替りで発信していき、さらに子どもたちから誕生後の予想図を募集することで注目を集めた



府内信金との合併もイメージした「Kissカレンダー」。中央にミシン目がありKissの相手が変わっていく。平成4年度信金PRコンクール最優秀賞作品

■ 中津信金・佐賀関信金の事業を譲受

創立 80 周年を翌年に控えた平成 13 (2001) 年冬、再び金庫は大きな決断を迫られる。同年 11 月 16 日に中津信用金庫、佐賀関信用金庫、臼杵信用金庫が金融庁へ破綻処理申請をする事態に陥ったのだ (12 月 28 日には佐伯信用金庫も破綻)。翌年 4 月のペイオフ解禁を前に、不良債権処理が進まなかった金融機関の破綻が全国的に進むなか、いよいよ大分にもその波が押し寄せてきた。

当時の金融事情を振り返ると、急速に金融制度改革が進展したことで中小企業融資に対する姿勢が厳しくなり、一部では「貸し渋り」や「貸し剥がし」が社会問題化する事態に陥っていた。これは平成 11 (1999) 年に導入の金融検査マニュアルが、都銀から地銀、信金まで規模や営業地域に関わらず、一律の自己査定基準に基づいた融資先の評価を求められていたことに起因する。もともと信用金庫は、利益至上主義とは一線を画し、地域と運命共同体の関係にある協同組織金融機関であり、なかなかフィットしづらい基準になっていたと言えよう。これを是正するため、金融庁は平成 14 (2002) 年に「中小企業融資編」を策定して中小零細企業に対する柔軟な対応を促すことになったが、この当時、全国で金融機関の経営破綻が相次いだ。

12 月 4 日、金庫は中津信金と佐賀関信金との事業譲渡基本合意書を締結。平成 14 (2002) 年 3 月末の譲渡完了を目指すことを発表した。県下トップの業容を持つ当金庫

であるが、中津・宇佐・豊後高田を主とする県北エリア、佐賀関方面は未知の地であり、人縁も薄い地域であった。しかし、それぞれの地域で育てられてきた“信用金庫の灯”を消してはならないとの強い思いで、事業譲受契約を交わした。

■ 創立80周年記念誌制作と油屋熊八像の寄贈

事業譲受完了後の平成 14 (2002) 年 4 月 12 日、みらいしんきんは創立 80 周年を迎えた。金融業界においてはパラダイムシフトともいうべき定期性預金のペイオフ解禁が行われたが、国内経済は同年 2 月から緩やかな景気回復が始まり、戦後最長となる「いざなぎ景気」に突入していた。大分県でもサッカーワールドカップ大分大会が開催され、県内観光地も賑わいを取り戻しつつあった。

金庫は創立 80 周年企画として、地域の歴史・文化を未来に伝えることを目的にした記念誌『ふるさとの遺産』を発刊。金庫史をまとめた「ふりかえって未来」に加え、「別府・近代の宝庫」「別府・温泉読本」「別府湾の恵み」「大分川へ行こう」の 5 分冊を 1 セットにした記念誌を制作して、地域の図書館や学校へ寄贈した。

また、前述の 70 周年事業で寄贈した別府駅前通りシンボルロード構想がまとまり、平成 19 (2007) 年 11 月に創立 80 周年事業として JR 別府駅前に日出町在住の彫刻家・辻畑隆子氏作の油屋熊八像を設置した。



事業譲渡契約を報じた平成13(2001)年12月5日付の大分合同新聞朝刊



別府観光の記念写真スポットとして定着した油屋熊八像



事業譲渡直前の中津信用金庫(写真左)と佐賀関信用金庫(写真右)

■「2&3プラン」のスタートと原理事長就任

一方、事業譲渡から1年後の平成15（2003）年、金庫は5年間にわたる長期計画「2&3プラン」を始動した。この年、金融庁は中小企業向け金融政策として「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」を打ち出したが、それは図らずも金庫が先立って示していた方向性と合致するものであった。

「2&3プラン」では、そのビジョンとして「取引先の課題解決能力を備えた身近な金融機関」の実現を掲げている。これにより他の金融機関との差別化に加え、取引先・金庫・役職員がWin-Winの関係を構築することを明示している。とりわけ従来の営業スタイルを大きく変革する「新営業態

勢への転換」は、その布石として大きく位置付けられた。金庫の新たな挑戦の始まりである。

そして「2&3プラン」に着手してから4年目となる平成18（2006）年7月、九代目理事長に原好信が就任し、高松右門は会長に就任した。

原はBCIや各種経営計画立案をはじめ、金庫のマネジメント部門で優れた手腕を発揮してきた実務型経営者。理事長就任にあたり、高松会長と二人三脚で金庫の舵取りをしていく旨を誓った。就任翌月からは別府、大分、県北の3地区で理事長交代に伴うIR（Investor Relations = インベスター・リレーションズ）を実施し、その経緯と新理事長が描く未来への抱負を全役職員に伝えた。



金庫のマネジメント部門を支えてきた原好信理事長



2006年7月22日に行われた理事長交代に伴う全役職員IRの様子

感謝の百年 #4 メセナ活動を通じて潤いのあるまちづくりを



■地域の芸術文化振興に感謝の気持ちを注ぐ

芸術文化事業を支援する企業メセナ活動には、長年にわたり積極的な支援を行ってきた。地元作家の作品を紹介するストリートギャラリー「MIRAI GALLERY」、別府アルゲリッチ音楽祭や BEPPU PROJECTのアート事業の協賛、地域に根ざした伝統文化の保存、身近なところでは店内ロビー展など、様々な形で“潤いのあるまちづくり”に貢献している。



旧本店時代から実施していた「MIRAI GALLERY」



旧別府商業高校の「別府のびのび音楽祭」を支援



現代美術家・山出淳也氏の作品を全店舗で展示



第1回から協賛をしている別府アルゲリッチ音楽祭



創立80周年記念誌「ふるさとの遺産」



JR別府駅前に設置された油屋熊八像の除幕式

挑戦期

平成21年～令和4年
2009—2022

※平成23(2011)年から、部長会メンバーの投票による「みらいしんきん10大ニュース」を行っています。
52頁から掲載していますので、併せてご覧ください。

戦後最長と言われながらも実感に乏しい「いざなぎ景気」が平成20(2008)年2月で終わりを告げると、同年9月には米国でリーマンショックが発生し、日本経済も深刻な打撃を受ける。輸出の急減、企業収益の悪化、デフレ経済の進行等に伴い、さらなる金融機関の再編や統合が進んだ。その一方で相次ぐ企業の不祥事が表面化し、企業に対する社会的責任やコンプライアンスがより強く求められる時代になっていた。

■ ビジネス交流会で中小企業同士の縁結び

平成20(2008)年2月6日、大分みらい信用金庫とみらいしんきん同友会は別府ビーコンプラザで「みらいビジネス交流会2008」を開催した。

前年に続く2回目の開催となったが、当日は県外の信用金庫取引先も含め全127社が参加し、大手企業バイヤー4社による商談会のほか400を超える商談が行われた。九州経済産業局をはじめとする経営支援機関や県内大学等による情報提供ブースも設けられ、非常に有意義な商談会が実現したと参加企業・団体から喜ばれた。

この商談会は九州管内の信用金庫にも刺激を与え、翌年には福岡ひびき信用金庫が同様のビジネスフェアを北九州市で開催。2010年には大分県と大分県産業創造機構が主催する「ものづくり王国総合展」に金庫が共催するなど、広がりを見せている。



みらいビジネス交流会2008の模様



イベント開会前に本事業の意義を伝える原理事長



■ 「ミッション・ポッシブル3カ年計画」実施

同じく平成20年の7月、長年にわたり経営の中枢に携わってきた高松会長が、2&3プランの終了を見届けるタイミングで会長職を退任した。

原理事長は、あらためて金庫の使命(ミッション)を遂行し、顧客からの信頼構築に努めるべきと考え、新中期計画「ミッション・ポッシブル3カ年計画」に着手した。計画では、二つの柱として「内部管理態勢の強化」「地域密着型金融の深化」を掲げ、コンプライアンス遵守と新営業態勢の定着に力を注いだ。

なお、平成20年は新築オープンした石垣支店の上層階に、事務センターを本店ビルから移転した年でもある。事務部とBSSが集中したことにより業務が大幅に効率化され、コンピュータールームのセキュリティ強化とシステムリスク等の軽減に繋がった。



石垣支店の新築に伴い事務センターも移転した



熱心に商談を進める参加企業



九州管内の信用金庫取引先も含め、全127社が参加した

■ 関理事長就任。心に響いた「3つの約束」

平成22（2010）年6月、関啓二が第10代理事長に就任する。本店営業部の得意先係に始まり、別府、大分、湯布院、日出、そして県北担当理事と、金庫の全エリアで営業の現場と向き合ってきた叩き上げのトップである。

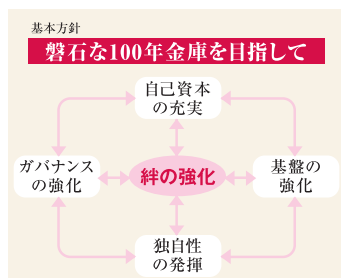


営業の現場で培った実績を活かし「お客様目線」の徹底を促した関啓二理事長

就任して早々、関理事長は職員へ向けて「3つの約束」を伝えた。「3つ」とは、金庫・職員・顧客の関係を深める「絆の強化」、CSの視点に立った「お客さま目線」、そして一見すると異彩を放っているのが「スピード」だ。長きにわたり現場で経験を積んできた関理事長の持論は、「スピードは金利に勝る」である。たとえば融資案件で他の金融機関と競合する場合、顧客は金利よりもまずは審査の可否を知りたいというのだ。融資だけでなく各種事務処理やサービスの提供も、迅速な対応が満足度に影響を与える。金庫が抱える経営課題に対しても、早期にメスを入れることで結果も変わってくる。

このわかりやすいメッセージが、現場の職員に響いた。単に融資の決裁が早まっただけでなく、7部門にわたる経営課題を解決するプロジェクトチームが発足。活発な討議が交わされた末に導かれた答申は、平成23（2011）年度から令和元（2019）年度まで3次にわたる中長期事業計画「絆の強化」3カ年計画に反映された。

■ 磐石な100年金庫を目指して



地域に根ざし、継続的に発展する信用金庫」である。事業計画においては、「磐石な100年金庫」を構成する要素は「ガバナンスの強化」「自己資本の充実」「基盤の強化」「独自性の発揮」であり、それを具現化するために必要不可欠な要素が「絆の強化」であると明記している。

■ みらいしんきんブランド「しんきんかん」

金庫の未来を担う22名の中堅職員で組織されたプロジェクトが「みらいプロジェクト33」だ。創立100周年に向けた「10年後のみらいしんきんを考える」をテーマにスタートした本プロジェクトは、メンバーが描く夢を語り合うことからスタートし、お互いの考えを共有。最終答申「情熱と絆で地域に愛を！感動を!!」では22の戦略を掲げ、100周年への決意を新たに示した。

そのうえで結成された「磐石な100年金庫プロジェクト」は、平成24（2012）年の創立90周年式典で「預金残高4,000億円・貸出金残高2,000億円・定期積金先数3万先」と、具体的な数値目標を提示した。ここで注目すべきは定期積金の先数目標をあらためて掲げたことである。信用金庫営業の原点である定期積金は新規開拓や長期にわたる関係性構築に貢献してきた地域密着型商品だが、コスト面の課題が常に語られてきた。当金庫も「100万円定期積金・貯五郎^{ためごろう}」キャンペーン等で業績を伸ばした時期もあったが、営業エリア拡大や顧客ニーズの変化にどう対応するかが度々議論されてきた。本プロジェクトの答申では、定期積金が「磐石な100年金庫」を目指すうえで必要な戦略商品という点が、あらためて明示された。

その後、「第2次絆の強化3カ年計画」が始まった平成26（2014）年の創立記念式典での公開パネルディスカッション「みらいシンポジウム ～みらいブランドについて考える～」を経て、同年9月に「みらいブランドプロジェクト」が始動。そこで提言されたブランド・コンセプトが、信用金庫業界が長年発信し続けてきた共有ワード「しんきんかん」である。プロジェクトでは、「しんきんかん」を「地域の人々が幸せに暮らすためのお手伝いをするので、お客さまに抱いていただける感情」と定義している。



記念式典の壇上で発表する「みらいブランドプロジェクト」のメンバー

「しんきんかん」を金庫独自の「みらいブランド」として確立させる第二次プロジェクトも平成27（2015）年11月に発足。「働きやすい環境づくり」「知ってもらい環境づくり」「相談しやすい環境づくり」と、役職員自身が「しんきんかん」を発揮する施策について考えた。

このように若手職員がリレー形式で討議してきたプロセスは、参画経営が定着しているみらいしんきんならではの「伝統ブランド」である。

■ 地域活性化に全力を尽くす



平成29(2017)年9月に大分大学と連携して「地域イノベーション研究会」を発足

平成が終わりを告げようとした頃の日本経済は、アベノミクス政策の三本の柱「金融緩和」「財政出動」「成長戦略」が次第に効果を表し、個人消費や設備投資は底堅く推移していた。一方で平成 28 (2016) 年 1 月に日本銀行が導入したマイナス金利政策は、金融機関の収益環境に苦境をもたらした。平成 30 (2018) 年には金融庁が金融デジタル化の本格推進を呼びかけ、フィンテック技術やキャッシュレス決済の普及など、金融業界は新たなステージに踏み込んだ。

大分県経済に目を向けると平成 27 (2015) 年の東九州自動車道全線開通、大分駅の全面高架開業、大分県立美術館 (OPAM) 開館等が観光業界の活性化をもたらし、インバウンド客も急増。平成 28 (2016) 年 4 月の熊本・大分地震、翌年 7 月の九州北部豪雨など自然災害の影響で一時的に

的に経済が停滞したが、当金庫をはじめ金融機関の継続的支援により回復は進んだ。

少子高齢化や地方都市の人口減少問題が盛んに報道されはじめたのもこの時期で、金庫では自治体や大学との包括連携協定を積極的に締結し、地域活性化に向けた協力体制を作った。また、同じく地方創生の実現化に向けた取り組みとして、平成 29 (2017) 年には全国の信用金庫で初めて学校寄附型私募債「しんきん CSR 私募債『輝く未来』」を引き受けた。

■ 創立 100 周年を前に森田理事長就任



来るべき創立100周年事業の重責を担って就任した森田展弘理事長

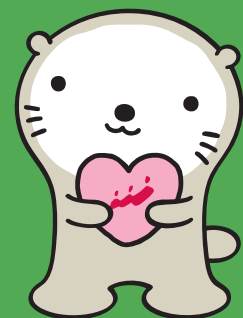
平成 30 (2018) 年 6 月、第 11 代理事長に森田展弘が就任した。前任理事長の関と同じく生粋の営業畑からのトップ就任である。山本眞郎副理事長と嵩地秀雄専務理事によるトライアングル体制を組み、来るべき創立 100 周年に備えた。

共感の百年 #4 オリジナルキャラクター「みらっこ」誕生

■ 公募形式で決定した独自のキャラクター

関理事長就任と同時に発表されたのが、金庫のキャラクター「みらっこ」だ。

これまで信金共通の「信ちゃん」、子ども預金専用の「ぎょうす」を起用したイメージ発信は行われてきたが、金庫全体のキャラクターは作られていなかった。制作にあたり顧客の考えを取り入れようとインターネットも含めた公募形式で募集したところ、図案 609 点、愛称 820 点の応募作品が寄せられ、専門家の意見も交えて選考した結果、「みらっこ」に決定した。同時に地元シンガーソングライター・今成佳奈さんによるイメージソング「MI・RA・I」も決定し、CM や営業店ロビーの BGM として起用。金庫のオリジナルキャラクターとして、広く親しまれている。



イメージキャラクター「みらっこ」



豊後高田出身の今成佳奈さんの作詞・作曲による「MI・RA・I」



多彩なみらっこグッズも作られ、人気を博している

森田理事長は就任と同時に「地域の皆さまから笑顔をいただける信用金庫を目指す」というスローガンと、「笑顔を咲かせるための6つのポイント」を役員員に向けて発信した。地域金融機関としては基本的な心構えを記した内容だが、あらためて襟を正し、金庫がひとつになって「磐石な100年金庫」を迎えることを呼びかけたメッセージでもあった。

地域の皆さまから 笑顔をいただける 信用金庫を目指す

笑顔を咲かせるための6つのポイント

- 1 明るい挨拶
- 2 笑顔
- 3 約束事の励行
時間・要望事項へのスピーディーな対応等
- 4 気持ちのいい返事
- 5 丁寧かつやさしい言葉づかい
- 6 身だしなみ 清潔感

■ コロナ禍で問われる信用金庫の存在意義

ところが令和2(2020)年、世界を揺るがす想定外の事態が巻き起こる。同年1月30日、世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を発表し、3月11日には世界的大流行(パンデミック)の認識を表明した。4月になると日本も緊急事態宣言を発令し、経済活動が大きく停滞。企業もリモートワークを導入するなど、新しい働き方や生活様式に戸惑う取引先も多かった。金庫の対応は早かった。2月25日には経営相談窓口を設置し、いち早く緊急対応融資の取り扱いを開始して、取引先の資金繰りや本業支援に奔走した。なかにはリモートワークの導入やオンラインショップの開始、業態の転換に至るまで様々な相談もあり、誠意をもって応じた。

一方でコロナ禍により地域経済が大きなダメージを受けることを想定し、地域を守るために将来予測に基づく厳格な自己査定の実施により29億円に及ぶ貸倒引当金を計上し、大幅な赤字決算を断行した。

このほか少しでも飲食業の支援につながればと、同年6月に「#みらいエール飯」を実施。テイクアウト商品をドライブスルー形式で販売を行い、参加店から感謝された。地域に根ざした信用金庫だからできることを、金庫ぐるみで知恵を出し合い、行動に移した施策のひとつであった。



地域の人たちの協力も得て実現した「#みらいエール飯」に参加した金庫職員たち

■ SDGs 宣言でみらいしんきんの使命を再確認

令和2(2020)年9月1日、金庫は「みらいしんきんSDGs宣言」を発表した。かねてから「SDGsの理念は信用金庫の存在意義と重複する」と考えていた金庫は、発表に至るまで様々な角度から研究を重ねてきた。

その最中にコロナ禍という未曾有の危機に直面し、あらためて従来のCSR活動(企業の社会的責任)を見直し、満を辞して具体的なSDGsの17目標を宣言。長期的な視点で社会的・経済的発展に寄与することを誓った。直前の8月28日には老朽化した本店ビルの建て替えが発表されたが、「地域、職員に長く親しまれる本店」というコンセプトの背景には、SDGsの理念も含まれている。



新本店ビルは別府市と「災害時における施設等の提供協力に関する協定」を締結している

■ 創立100年を迎え、新たな一歩に踏み出す



創立100周年前年となる令和3(2021)年4月、金庫は次の時代を見据えた10カ年長期事業計画を発表し、「第1次シンカへの挑戦3カ年計画」をスタートさせた。計画には「MIRAI KIZUNAプロジェクト」「POST 100プロジェクト」の答申を受け、10年後に目指すビジョン「Heart to Heart ～あなたがいちばんに相談したい金融機関～」が掲げられ、3つのフェーズに分けた計画が明示されている。

職員からの公募により決まった創立100周年記念スローガンは「みらいにトライ ～笑顔でつむぐ百年金庫～」。

次の100年に向けた挑戦は、既に始まっている。



2011

平成 23 年



1 位

絆の強化3カ年計画スタート

2 位

エリア担当制への移行と定期積金の推進

3 位

野球部
南九州地区信用金庫大会準優勝

4 位

「プロジェクト33」答申

5 位

90周年記念事業スタート

6 位

事業仕分けスタート
「ムダ・ムラ・ムリ」アンケートの実施

7 位

大地みらい信用金庫との交流活発化

8 位

野球部
大分県信用金庫大会優勝

9 位

金融円滑化再延長決定

10 位

節電対策実施

2012

平成 24 年



1 位

90周年各種記念事業の実施

2 位

パート職員による不祥事件公表

3 位

新営業支援システム全店導入

4 位

府内戦紙一等賞

5 位

金融庁検査受検

6 位

創立記念式典で
「磐石な100年金庫プロジェクト」答申

7 位

8年ぶりにロールプレイング大会開催
大地みらい信金様も参加

8 位

同友会設立35周年記念
「わらび座ミュージカル稲穂堂物語」開催

9 位

役職員全員による
ポスティング活動の実施

10 位

節電(計画停電準備)の
夏が始まった

2013

平成 25 年



1 位

今津、せきしんの店舗統廃合実施

2 位

業務改善命令解除

3 位

9月末貸出金の対期首増加

4 位

日銀考査受検

5 位

「出雲大社、萩の旅」地元信金様の
協力で好評

6 位

ホームページをリニューアル

7 位

みらい感謝の集い
「小椋佳」コンサートに申込者殺到

8 位

経費削減プロジェクト推進の結果
19百万円の削減実現

9 位

金融円滑化法が終了

10 位

福岡ひびき信金様、西中国各信金様と
大規模災害発生時の相互応援に関する
覚書締結

「みらいしんきん10大ニュース」は、毎年の年末に
部長会メンバーによる投票により決定しています

2014
平成 26 年



1 位

ライフサポートチーム発足、活躍奮闘

2 位

上期貸出金残高約20億円増加
期末の27億円射程距離

3 位

初の県下信用金庫統一
「マイカーローン特別キャンペーン」開始

4 位

地域支援部門 企業サポート部の新設

5 位

「第2次『絆の強化』3カ年計画」スタート

6 位

県下信金野球大会で優勝
南九州信用金庫野球大会が別府で開催され、
県代表として出場

7 位

みらい感謝の集い
「トワ・エ・モワ」コンサート実施

8 位

「みらいブランドプロジェクト」立ち上げ
20名の若手の奮闘に期待

9 位

不動産担保評価システムの更改

10 位

日銀の異次元金融緩和で長期金利低下
債券価格の上昇により債券評価益上昇

2015
平成 27 年



1 位

各市町村と地方創生に関する
包括連携協定を締結

2 位

鉄輪支店、向原支店新築工事スタート

同 率 3 位

大分県中小企業家同友会と
大分県信用金庫協会業務提携

同 率 3 位

金融庁検査受検

5 位

「地方創生プロジェクト」取り組み本格化

6 位

全国的にIB不正送金多発
当金庫でも発生し、法人IB強化
初の顧客向けセミナーも!

7 位

「第2次みらいブランドプロジェクト」始動

8 位

マイナンバー制度への対応開始

9 位

「みらいしんきん職域サポート契約」
取扱開始

10 位

安藤監事ご逝去

2016
平成 28 年



1 位

熊本・大分地震により被災
災害復旧融資・条件変更に対応し、
「特別相談窓口」を設置

2 位

鉄輪支店、向原支店 新築オープン

3 位

春木出張所を上人支店へ統廃合

4 位

日銀によるマイナス金利政策の導入

5 位

「ローンプラザ別府」オープン

6 位

「金融行政方針」
「金融仲介機能のベンチマーク」導入

7 位

「みらいブランドプロジェクトII」による
「しんきんかん」施策の答申

8 位

自己査定、信用格付、融資管理、
信用情報システムの移行

9 位

新TVCM「しんきんCan!」スタート

10 位

「収益力強化プロジェクト」「次期3ヵ年
計画策定プロジェクト」の発足



2017
平成 29 年



1 位

日出支店新築移転オープン

2 位

「第3次『絆の強化』3か年計画」スタート

3 位

大分大学と
「地域イノベーション研究会」発足

4 位

別府市の「湯～園地計画」支援（ボランティア参加、応援定期預金、寄付金贈呈）

5 位

フラ部主導により
「フラフェスティバルin別府」開催

同 率 6 位

JR大分駅コンコースにATM新設
（みらっこイラストでアピール）

同 率 6 位

みらいビジネスマッチングをスタート
30件成約！

8 位

しんきんCSR私募債「輝く未来」引受

9 位

みらいしんきん職域サポート契約
3000先突破！

10 位

しんきんCan!シート
（事業性評価シート）運用開始

2018
平成 30 年



1 位

8年ぶりトップ交代。森田理事長・
時枝副理事長体制スタート

2 位

キャッシュレス決済「Origami Pay」と提携
スタートダッシュで200件突破

3 位

5年ぶりに制服更改。新制服ポスターでPR

4 位

5年ぶりに日銀考査受検

5 位

8年ぶりに共同センター基幹システム更改

同 率 6 位

関相談役の旭日双光章受章

同 率 6 位

しんきんかん運動スタート。新スローガンは
「地域の皆さまから笑顔をいただける
信用金庫を目指す」に

8 位

新営業システム（タブレット端末）開始

同 率 9 位

本店ギャラリーに観光マップ設置ならびに
ラグビー関連グッズ展示

同 率 9 位

「第2回フラフェスin別府」盛大に開催
別府が再びハワイに

2019
令和元年



1 位

津留支店を東大分支店へ統合

2 位

ラグビーワールドカップ開催
（各種支援活動で大分・別府は大盛況）

3 位

「みらいお宝発掘プロジェクト」始動

4 位

改元・10連休対応

5 位

「MIRAI KIZUNA Project」始動

同 率 6 位

子育てサポート企業として
「くるみん認定」を取得

同 率 6 位

テレビ会議システム導入

同 率 8 位

「Origami Pay」口座連携による
即時決済開始

同 率 8 位

豪華客船飛鳥IIで巡る
しんきんリレクルーズ実施

10 位

出資証券ペーパーレス化開始

2020

令和 2 年



1 位

新本店新築開始(本部・BSSの引越し、
本店営業部仮店舗営業開始)

2 位

新型コロナウイルス感染症対策および
資金支援、補助金・助成金手続き支援

3 位

コロナ禍による営業活動の自粛とイベント
中止相次ぐ(温泉祭り、会員大会・・・)

4 位

「# みらいエール飯」開催

5 位

預金4,000億円、貸出金2,000億円突破
緊急対応融資200億円超

6 位

みらいしんきんSDGs宣言

7 位

「10カ年長期計画構想プロジェクト」
発会と中間発表

8 位

SAYONARA本店FINALイベント開催
(ありがとう56年間!)

9 位

「MIRAI KIZUNA Project」
最終答申

10 位

本店営業部野口出張所および石垣支店
境川出張所の統合決定

2021

令和 3 年



1 位

金庫で初めて店舗内店舗を実施
(大分・府内中央、宇佐中央・高田)

2 位

将来予測を織り込んだ自己査定を実施し
23億円の赤字決算へ

3 位

新本店ビル新築工事着工
(起工式開催・本店解体)

4 位

「みらいハートプラザ別府」オープン

5 位

創立100周年記念スローガン・ロゴの決定

6 位

「10カ年長期事業計画」
「第1次『シンカ』への挑戦」3カ年計画」
スタート

7 位

DX化
(ペーパーレス会議・Web会議の導入・本
部各部および全店へタブレット端末装備)

8 位

野口出張所を本店営業部へ統合
境川出張所を石垣支店へ統合

9 位

コロナ第5波への対応継続
(飲食の規制、営業活動や各種行事の自粛、
資金支援、補助金・助成金手続き支援)

10 位

営業エリアである6市1町の子ども食堂に
「お米とお米券」を寄贈。
社会福祉協議会より表彰

2022

令和 4 年



1 位

新本店ビル竣工
12月19日、本店営業部と
「みらいハートプラザ別府」移転オープン

2 位

当金庫創立100周年

3 位

「みらいハートプラザ大分」オープン

4 位

創立100周年記念
大分県と6市1町へ
児童図書購入資金を寄附

5 位

創立100周年記念
「しんきんイノベーションプロジェクトin別府」
開催

6 位

創立100周年記念
特別祝い金支給

同 率 7 位

役職員の新型コロナウイルス感染者急増

同 率 7 位

融資稟議システム
「電子稟議」テスト運用開始

9 位

創立100周年記念
フードドライブ・絵本ドライブで
子ども食堂を応援

10 位

21年度決算でV字回復! 当期純利益
628百万円



先人の“志”を 未来永劫に

く大分みらい信用金庫OB会のご紹介く

こころひとつに 101 年目を祝う

令和 5 (2023) 年 5 月 28 日 (日)、ホテル別府パストラルで大分みらい信用金庫 OB 会「創立 101 周年を祝う会」を開催しました。懐かしい顔ぶれと久しぶりの再会に、みらいしんきんでつながった絆の深さを感じていました。



みらいの「絆」を深める集い

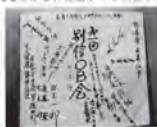


平成 9 年 10 月 22・23 日、黒川温泉・五馬高原へのバス旅行の写真

みらいしんきん OB 会は、昭和 46 (1971) 年 7 月 14 日に結成されました。
以来、慰安旅行や親睦会などを重ねており、金庫の思い出話に花を咲かせています。

別信退職者の集いがありました

野田理事さん村上一郎さんら 5 人が発起人となって去る 7 月 14 日の夜、中東町の若葉食堂でありました。17 人が参加され別信より理事長、中島理事、広石副長が出席しました。安東さん、松尾さん、五島さんといったなつかしいお顔がめられました。皆さんはそれぞれお勤めや、ご商売をされていて元気で嬉しいのが様子でなによりでした。今夜もこういった会をもち、同じ業のめしを吸った仲間として、永とおつきあいをしたいというのが趣意であります。さへに報道記事 (写真は当夜の皆さんの写真です)



庫内報「別信」、昭和 46 年 7 月発行号に掲載されていた、OB 会結成当時の記事

感謝

新本店ビルの竣工を記念して、OB 会の皆さまから竹のオブジェ「みらいのタマゴ」をご寄贈いただきました。





みらいしんきんが歩んだ100年の歴史の中で、カタチに残っている品々を集めてみました。ひとつひとつを目にすると、あの日の思い出が甦ってきませんか。

表彰楯「種播く人」

鉄輪支店が「国民貯蓄運動」優秀店舗として、昭和29(1954)年3月に大蔵大臣と日本銀行総裁からいただいた表彰楯です。図版はミレーの『種を播く人』から。「よく土地を耕し、適切な播きどきに、正しく播く。そうしてこそ、芽が萌え、花が咲き、実は結ぶ。貯蓄実践の組織を育成し、その組織を活かして、日本経済の正常化につとめる努力ぶりを表現しているものである」という解説文が添えられています。



信用金庫社会貢献賞 ブロンズ像・盾

全国信用金庫協会では、地域に生まれ、地域とともに歩む信用金庫の原点を踏まえた社会貢献活動に対し、平成9(1997)年度より「信用金庫社会貢献賞」を創設しました。大分みらい信用金庫は、その記念すべき第一回に“地域活性化イベント ペイサイドルネサンス”で「Face to Face」賞を、第十回に“こどもたちが安心して安全に暮らせる地域づくり”で「特別賞」を受賞しています。



億台替りの記録帳

金融機関の業績を表す、わかりやすい指標が預金量、融資量です。各店舗では目標を達成した日に、億台帳に記帳することを楽しみにしていました。写真は本店営業部の億台帳。預金量1億円を突破した昭和33年12月10日の記帳に加え（当時は駅通支店）、昭和38年10月14日の「貯蓄の日」に一日理事長を務めた荒金啓治別府市長（当時）の記帳。



1億円突破の記帳。当時は廣石清二支店長



一日理事長を務めた荒金啓治市長の記帳



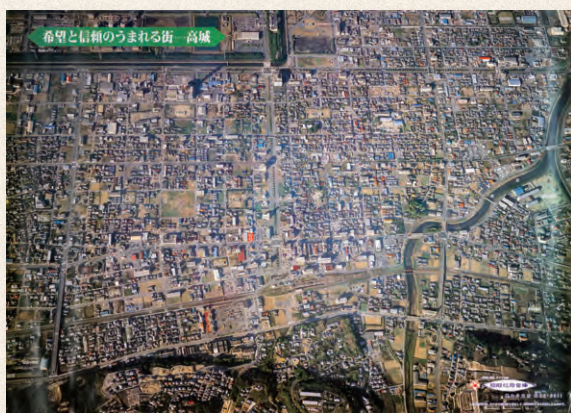
昭和39年2月に別府駅前通りに本店が移転した時に落成式典で配布された記念のお盆



取引先に配布されていた卵型ライター(中田忠光様提供)



店外に掲示されていた「大蔵省認可両替商」金属プレート



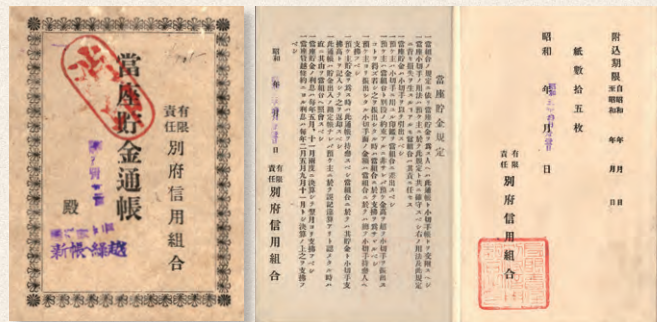
東大分支店開設時に制作された地域の航空写真ポスター



創立80周年記念誌「ふるさとの遺産」



創立100周年記念の予告ポスター



昭和初期の別府信用組合 当座預金通帳



別府信用組合 出資証券



別府信用金庫 出資証券



定期預金証書



自由金利型定期預金証書(スーパー定期)



期日指定定期預金証書



定期積金証書



レディスプラン「デュエット」定期積金証書(表面)



レディスプラン「デュエット」定期積金証書(裏面)



「寿」定期積金証書100万円コース(表面)



「寿」定期積金証書100万円コース(裏面)



小切手



約束手形



アイリス積金



信ちゃん預金通帳



別信杉の子預金通帳



普通預金通帳



普通預金通帳



べっしん総合口座通帳



アイリスカードローン通帳



新型5年定期積金通帳「歓」



積金ファンド通帳「がんばる家族」



ベっしん こどもよきん「さうるす」通帳



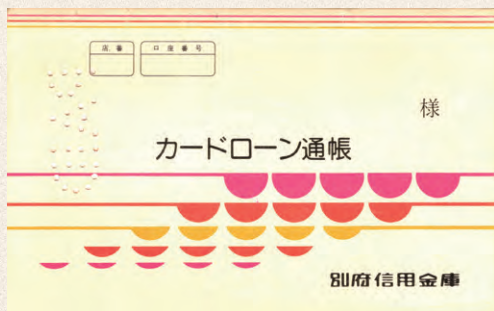
各種キャッシュカード・提携クレジットカード



レディースプラン「デュエット」総合口座通帳



年金受取専用口座・総合口座通帳「ゆとり」



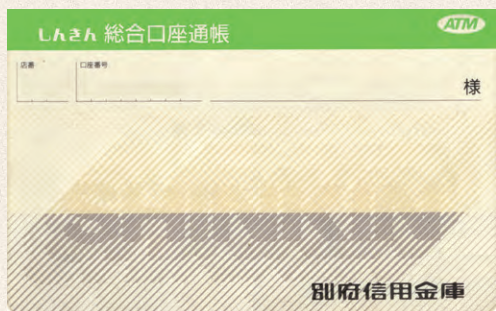
カードローン通帳



ベっしんカードローン通帳



しんきん 普通預金通帳 (QSK移行直後)



しんきん 総合口座通帳 (QSK移行直後)



「M's CLUB」総合口座通帳



「M's CLUB」積立定期預金通帳



昭和37年 高崎山より別府をのぞむ(別府市・安部浩之様提供)



昭和39年 夕暮れの別府市街地(別府市・安部浩之様提供)



昭和52年 アイリス



昭和53年 別府・大分の古地図



昭和54年 鶴見岳



昭和58年 スペースシャトル



昭和59年 コンピュータグラフィックス



昭和60年 アニマルワールド



平成8年 ポケット付カレンダー



平成9年 英国人イラストレーターが描いた大分



平成25年 迷路、間違い探しなどクイズが満載



庫外報「アリス」昭和41年9月発行、第1期・第7号。本誌は昭和40年6月に創刊し、昭和45年3月まで季刊で第1期・全25号を発行。昭和52年5月に再刊し、平成4年5月・第51号まで発行



昭和53年4月・第5号



昭和54年4月・第9号



昭和54年7月・第10号



昭和55年7月・第14号



昭和55年10月・第15号



昭和56年7月・第18号



昭和57年7月・第22号



昭和58年1月・第24号



昭和59年10月・第31号



昭和55年10月・第15号



昭和63年5月・第41号



平成元年11月・第45号



平成2年6月・第47号

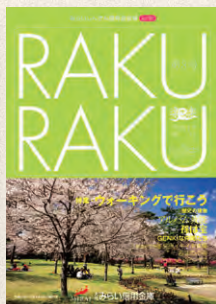


平成3年11月・第50号。「学ぶ」をテーマに若手職員が取材

みらいしんきん信寿会会報「楽楽」は、平成13年春・創刊から平成19年春・第13号まで発行



平成13年春・創刊号



平成14年春・第3号



平成11年8月・創刊号



平成29年3月・第61号



Webサイト「e-DoYou!」



平成2年度より毎年発行



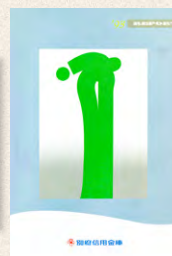
平成2年度



平成3年度



平成4年度



平成5年度



平成6年度



平成7年度



平成8年度



平成9年度



平成10年度



平成11年度



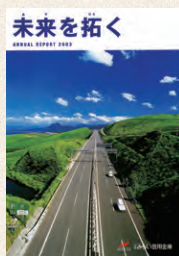
平成12年度



平成13年度



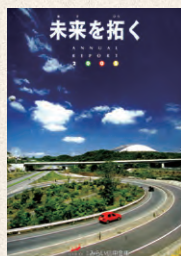
平成14年度



平成15年度



平成16年度



平成17年度



平成18年度



平成19年度



平成20年度



平成21年度



平成22年度



平成23年度



平成24年度



平成25年度



平成26年度



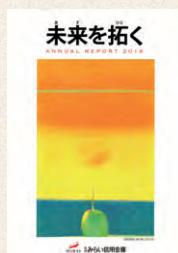
平成27年度



平成28年度



平成29年度



平成30年度



令和元年度



令和2年度



令和3年度



令和4年度



令和5年度



令和6年度



平成10年度



平成11年度



平成13年度



平成14年度



平成15年度



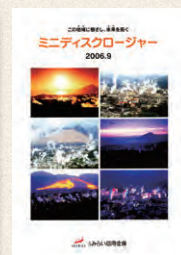
平成15年9月度



平成16年9月度



平成17年9月度



平成18年9月度



平成19年9月度



平成20年9月度



平成21年9月度



平成22年9月度



平成23年9月度



平成24年9月度



平成25年9月度



平成26年9月度



平成27年9月度



平成28年9月度



平成29年9月度



平成30年9月度



令和元年9月度



令和2年9月度



令和3年9月度



令和4年9月度



令和5年9月度



令和6年9月度



ディスクロージャー簡易版となるミニディスクロージャーは平成26年9月度から理事長インタビューや地域活動等をわかりやすく発信することを心がけている



第39期
昭和34年度



第41期
昭和36年度



第42期
昭和37年度



第43期
昭和38年度



第44期
昭和39年度



第45期
昭和40年度



第52期
昭和47年度



第53期
昭和48年度



第54期
昭和49年度



第55期
昭和50年度



第56期
昭和51年度



第57期
昭和52年度



第58期
昭和53年度



第59期
昭和54年度



第60期
昭和55年度



第61期
昭和56年度



第62期
昭和57年度



第63期
昭和58年度



第64期
昭和59年度



第65期
昭和60年度



第66期
昭和61年度



第67期
昭和62年度



第68期
昭和63年度



第69期
平成元年度



第70期
平成2年度



第71期
平成3年度



第72期
平成4年度



第73期
平成5年度



第74期
平成6年度



第75期
平成7年度



第76期
平成8年度



第77期
平成9年度



第78期
平成10年度



第79期
平成11年度



第80期
平成12年度



第81期
平成13年度



第82期
平成14年度



第83期
平成15年度



第84期
平成16年度



第85期
平成17年度



第86期
平成18年度



第87期
平成19年度



第88期
平成20年度



第89期
平成21年度



第90期
平成22年度



第91期
平成23年度



第92期
平成24年度



第93期
平成25年度



第94期
平成26年度



第95期
平成27年度



第96期
平成28年度



第97期
平成29年度



第98期
平成30年度



第99期
令和元年度



第100期
令和2年度



第101期
令和3年度



第102期
令和4年度



第103期
令和5年度



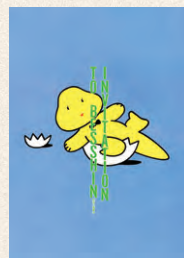
昭和52年度



昭和53年度



平成3年度



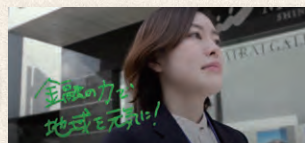
平成5年度



企業説明会参加者へ渡していた
連絡用テレフォンカード



平成6年度



令和4年から配信している
リクルート用動画



新年挨拶用



地域の風景写真シリーズ



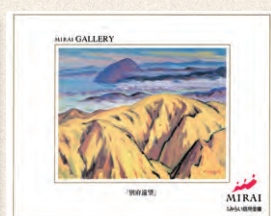
60周年マッチはカレンダーと同じ図柄



年末年始や新店舗開設の
挨拶訪問に持参しました



東大分支店の開設宣伝マッチ



ギャラリー作品シリーズ

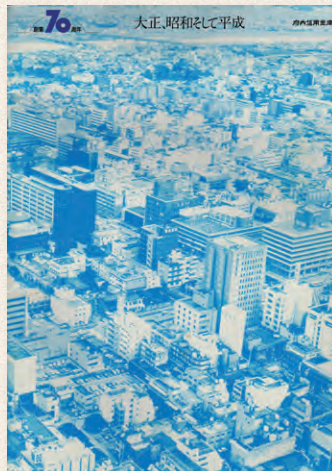


当時の全国信用金庫協会のキャラクターだった宮崎美子さんの
ティッシュ (佐藤和彦様提供)



キャンペーン時に
胸につけてアピール



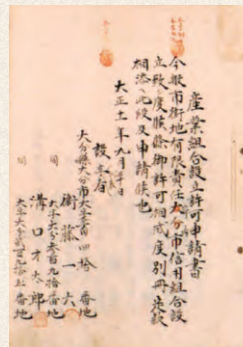


平成4年4月発行『70周年記念誌』

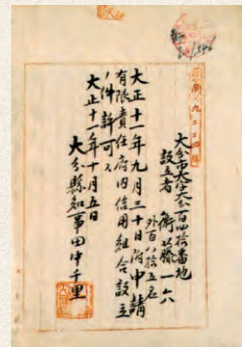
大正11(1922)年10月5日に設立された府内信用金庫は、県都・大分市の中小企業金融機関の要として実績を重ねてきました。別府信用金庫とは平成4(1992)年6月1日に合併しました。



創業当時に使用していた
手提げ金庫



産業組合設立申請書



大正11年10月5日付の設立許可証



別大電車通りに面した旧本店ビル。現在は「みらいハートプラザ大分」が営業中



昭和41年の新本店起工式



昭和41年9月26日に竣工した新本店



大分市内に8店舗のネットワークを展開していた府内信用金庫。写真は左から高城支店、大分支店、春日支店の旧店舗



昭和58年2月発行『なかしん60年の歩み』

大分県北地域のお客さまに親しまれてきた中津信用金庫は、大正12(1923)年2月26日に設立されました。平成14(2002)年3月25日、大分みらい信用金庫へ事業を譲渡しました。



大正12年発行の中津信用組合出資証券



創立30周年の昭和29年に本店新築



新築時の本店。風格のある本店は職員の誇りでした



昭和38年2月24日に中津市公会堂で創立40周年記念式典を開催。続く同年3月17日には松竹スターの鰐淵晴子・山本豊三を招いた会員大会が華やかに行われました



創立50周年式典での永年勤続者表彰

昭和四十九年四月一日

旭九糸表の美奈と社緑の幸福のたのしみ
 新刊 中津信用金庫

列車時間表

信ちゃん預金

日豊線 宇佐駅発 (下り)

07:00	07:10	07:20	07:30	07:40	07:50	08:00	08:10	08:20	08:30	08:40	08:50	09:00	09:10	09:20	09:30	09:40	09:50	10:00	10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10	11:20	11:30	11:40	11:50	12:00	12:10	12:20	12:30	12:40	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50	14:00	14:10	14:20	14:30	14:40	14:50	15:00	15:10	15:20	15:30	15:40	15:50	16:00	16:10	16:20	16:30	16:40	16:50	17:00	17:10	17:20	17:30	17:40	17:50	18:00	18:10	18:20	18:30	18:40	18:50	19:00	19:10	19:20	19:30	19:40	19:50	20:00	20:10	20:20	20:30	20:40	20:50	21:00	21:10	21:20	21:30	21:40	21:50	22:00	22:10	22:20	22:30	22:40	22:50	23:00	23:10	23:20	23:30	23:40	23:50	24:00	24:10	24:20	24:30	24:40	24:50	25:00	25:10	25:20	25:30	25:40	25:50	26:00	26:10	26:20	26:30	26:40	26:50	27:00	27:10	27:20	27:30	27:40	27:50	28:00	28:10	28:20	28:30	28:40	28:50	29:00	29:10	29:20	29:30	29:40	29:50	30:00	30:10	30:20	30:30	30:40	30:50	31:00	31:10	31:20	31:30	31:40	31:50	32:00	32:10	32:20	32:30	32:40	32:50	33:00	33:10	33:20	33:30	33:40	33:50	34:00	34:10	34:20	34:30	34:40	34:50	35:00	35:10	35:20	35:30	35:40	35:50	36:00	36:10	36:20	36:30	36:40	36:50	37:00	37:10	37:20	37:30	37:40	37:50	38:00	38:10	38:20	38:30	38:40	38:50	39:00	39:10	39:20	39:30	39:40	39:50	40:00	40:10	40:20	40:30	40:40	40:50	41:00	41:10	41:20	41:30	41:40	41:50	42:00	42:10	42:20	42:30	42:40	42:50	43:00	43:10	43:20	43:30	43:40	43:50	44:00	44:10	44:20	44:30	44:40	44:50	45:00	45:10	45:20	45:30	45:40	45:50	46:00	46:10	46:20	46:30	46:40	46:50	47:00	47:10	47:20	47:30	47:40	47:50	48:00	48:10	48:20	48:30	48:40	48:50	49:00	49:10	49:20	49:30	49:40	49:50	50:00	50:10	50:20	50:30	50:40	50:50	51:00	51:10	51:20	51:30	51:40	51:50	52:00	52:10	52:20	52:30	52:40	52:50	53:00	53:10	53:20	53:30	53:40	53:50	54:00	54:10	54:20	54:30	54:40	54:50	55:00	55:10	55:20	55:30	55:40	55:50	56:00	56:10	56:20	56:30	56:40	56:50	57:00	57:10	57:20	57:30	57:40	57:50	58:00	58:10	58:20	58:30	58:40	58:50	59:00	59:10	59:20	59:30	59:40	59:50	60:00	60:10	60:20	60:30	60:40	60:50	61:00	61:10	61:20	61:30	61:40	61:50	62:00	62:10	62:20	62:30	62:40	62:50	63:00	63:10	63:20	63:30	63:40	63:50	64:00	64:10	64:20	64:30	64:40	64:50	65:00	65:10	65:20	65:30	65:40	65:50	66:00	66:10	66:20	66:30	66:40	66:50	67:00	67:10	67:20	67:30	67:40	67:50	68:00	68:10	68:20	68:30	68:40	68:50	69:00	69:10	69:20	69:30	69:40	69:50	70:00	70:10	70:20	70:30	70:40	70:50	71:00	71:10	71:20	71:30	71:40	71:50	72:00	72:10	72:20	72:30	72:40	72:50	73:00	73:10	73:20	73:30	73:40	73:50	74:00	74:10	74:20	74:30	74:40	74:50	75:00	75:10	75:20	75:30	75:40	75:50	76:00	76:10	76:20	76:30	76:40	76:50	77:00	77:10	77:20	77:30	77:40	77:50	78:00	78:10	78:20	78:30	78:40	78:50	79:00	79:10	79:20	79:30	79:40	79:50	80:00	80:10	80:20	80:30	80:40	80:50	81:00	81:10	81:20	81:30	81:40	81:50	82:00	82:10	82:20	82:30	82:40	82:50	83:00	83:10	83:20	83:30	83:40	83:50	84:00	84:10	84:20	84:30	84:40	84:50	85:00	85:10	85:20	85:30	85:40	85:50	86:00	86:10	86:20	86:30	86:40	86:50	87:00	87:10	87:20	87:30	87:40	87:50	88:00	88:10	88:20	88:30	88:40	88:50	89:00	89:10	89:20	89:30	89:40	89:50	90:00	90:10	90:20	90:30	90:40	90:50	91:00	91:10	91:20	91:30	91:40	91:50	92:00	92:10	92:20	92:30	92:40	92:50	93:00	93:10	93:20	93:30	93:40	93:50	94:00	94:10	94:20	94:30	94:40	94:50	95:00	95:10	95:20	95:30	95:40	95:50	96:00	96:10	96:20	96:30	96:40	96:50	97:00	97:10	97:20	97:30	97:40	97:50	98:00	98:10	98:20	98:30	98:40	98:50	99:00	99:10	99:20	99:30	99:40	99:50	100:00	100:10	100:20	100:30	100:40	100:50	101:00	101:10	101:20	101:30	101:40	101:50	102:00	102:10	102:20	102:30	102:40	102:50	103:00	103:10	103:20	103:30	103:40	103:50	104:00	104:10	104:20	104:30	104:40	104:50	105:00	105:10	105:20	105:30	105:40	105:50	106:00	106:10	106:20	106:30	106:40	106:50	107:00	107:10	107:20	107:30	107:40	107:50	108:00	108:10	108:20	108:30	108:40	108:50	109:00	109:10	109:20	109:30	109:40	109:50	110:00	110:10	110:20	110:30	110:40	110:50	111:00	111:10	111:20	111:30	111:40	111:50	112:00	112:10	112:20	112:30	112:40	112:50	113:00	113:10	113:20	113:30	113:40	113:50	114:00	114:10	114:20	114:30	114:40	114:50	115:00	115:10	115:20	115:30	115:40	115:50	116:00	116:10	116:20	116:30	116:40	116:50	117:00	117:10	117:20	117:30	117:40	117:50	118:00	118:10	118:20	118:30	118:40	118:50	119:00	119:10	119:20	119:30	119:40	119:50	120:00	120:10	120:20	120:30	120:40	120:50	121:00	121:10	121:20	121:30	121:40	121:50	122:00	122:10	122:20	122:30	122:40	122:50	123:00	123:10	123:20	123:30	123:40	123:50	124:00	124:10	124:20	124:30	124:40	124:50	125:00	125:10	125:20	125:30	125:40	125:50	126:00	126:10	126:20	126:30	126:40	126:50	127:00	127:10	127:20	127:30	127:40	127:50	128:00	128:10	128:20	128:30	128:40	128:50	129:00	129:10	129:20	129:30	129:40	129:50	130:00	130:10	130:20	130:30	130:40	130:50	131:00	131:10	131:20	131:30	131:40	131:50	132:00	132:10	132:20	132:30	132:40	132:50	133:00	133:10	133:20	133:30	133:40	133:50	134:00	134:10	134:20	134:30	134:40	134:50	135:00	135:10	135:20	135:30	135:40	135:50	136:00	136:10	136:20	136:30	136:40	136:50	137:00	137:10	137:20	137:30	137:40	137:50	138:00	138:10	138:20	138:30	138:40	138:50	139:00	139:10	139:20	139:30	139:40	139:50	140:00	140:10	140:20	140:30	140:40	140:50	141:00	141:10	141:20	141:30	141:40	141:50	142:00	142:10	142:20	142:30	142:40	142:50	143:00	143:10	143:20	143:30	143:40	143:50	144:00	144:10	144:20	144:30	144:40	144:50	145:00	145:10	145:20	145:30	145:40	145:50	146:00	146:10	146:20	146:30	146:40	146:50	147:00	147:10	147:20	147:30	147:40	147:50	148:00	148:10	148:20	148:30	148:40	148:50	149:00	149:10	149:20	149:30	149:40	149:50	150:00	150:10	150:20	150:30	150:40	150:50	151:00	151:10	151:20	151:30	151:40	151:50	152:00	152:10	152:20	152:30	152:40	152:50	153:00	153:10	153:20	153:30	153:40	153:50	154:00	154:10	154:20	154:30	154:40	154:50	155:00	155:10	155:20	155:30	155:40	155:50	156:00	156:10	156:20	156:30	156:40	156:50	157:00	157:10	157:20	157:30	157:40	157:50	158:00	158:10	158:20	158:30	158:40	158:50	159:00	159:10	159:20	159:30	159:40	159:50	160:00	160:10	160:20	160:30	160:40	160:50	161:00	161:10	161:20	161:30	161:40	161:50	162:00	162:10	162:20	162:30	162:40	162:50	163:00	163:10	163:20	163:30	163:40	163:50	164:00	164:10	164:20	164:30	164:40	164:50	165:00	165:10	165:20	165:30	165:40	165:50	166:00	166:10	166:20	166:30	166:40	166:50	167:00	167:10	167:20	167:30	167:40	167:50	168:00	168:10	168:20	168:30	168:40	168:50	169:00	169:10	169:20	169:30	169:40	169:50	170:00	170:10	170:20	170:30	170:40	170:50	171:00	171:10	171:20	171:30	171:40	171:50	172:00	172:10	172:20	172:30	172:40	172:50	173:00	173:10	173:20	173:30	173:40	173:50	174:00	174:10	174:20	174:30	174:40	174:50	175:00	175:10	175:20	175:30	175:40	175:50	176:00	176:10	176:20	176:30	176:40	176:50	177:00	177:10	177:20	177:30	177:40	177:50	178:00	178:10	178:20	178:30	178:40	178:50	179:00	179:10	179:20	179:30	179:40	179:50	180:00	180:10	180:20	180:30	180:40	180:50	181:00	181:10	181:20	181:30	181:40	181:50	182:00	182:10	182:20	182:30	182:40	182:50	183:00	183:10	183:20	183:30	183:40	183:50	184:00	184:10	184:20	184:30	184:40	184:50	185:00	185:10	185:20	185:30	185:40	185:50	186:00	186:10	186:20	186:30	186:40	186:50	187:00	187:10	187:20	187:30	187:40	187:50	188:00	188:10	188:20	188:30	188:40	188:50	189:00	189:10	189:20	189:30	189:40	189:50	190:00	190:10	190:20	190:30	190:40	190:50	191:00	191:10	191:20	191:30	191:40	191:50	192:00	192:10	192:20	192:30	192:40	192:50	193:00	193:10	193:20	193:30	193:40	193:50	194:00	194:10	194:20	194:30	194:40	194:50	195:00	195:10	195:20	195:30	195:40	195:50	196:00	196:10	196:20	196:30	196:40	196:50	197:00	197:10	197:20	197:30	197:40	197:50	198:00	198:10	198:20	198:30	198:40	198:50	199:00</
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----------

Performance over 100 Years

100年間の業績実数

期	期末年月日	預金残高 (円)	貸出金残高 (円)	役員員数 (人)	店舗数 (店)	出資金 (円)	会員数 (人)	特 記
	大正 11 年 4 月 12 日	17,799	1,110		1	34,240	380	
1	大正 11 年 12 月 31 日				1			
2	大正 12 年 12 月 31 日				1			
3	大正 13 年 12 月 31 日				1			
4	大正 14 年 12 月 31 日	268,347	295,168		1	71,757		
5	昭和 元年 12 月 3 日	534,774	458,915		1	93,105		
6	昭和 2 年 12 月 31 日	837,657	657,216		1	112,896		
7	昭和 3 年 12 月 31 日	1,168,531	880,225		1	121,733		
8	昭和 4 年 12 月 31 日	1,369,383	926,599		1	125,512		
9	昭和 5 年 12 月 31 日	1,451,382	958,503		1	129,316	1,100	
10	昭和 6 年 12 月 31 日	1,371,650	936,622	14	1	129,806	1,072	
11	昭和 7 年 12 月 31 日	1,187,703	892,405	21	1	127,578	1,038	
12	昭和 8 年 12 月 31 日	1,252,518	834,948	20	1	129,138	1,032	
13	昭和 9 年 12 月 31 日	1,425,717	809,260	20	1	147,125	1,034	
14	昭和 10 年 12 月 31 日	1,465,034	766,843	20	1	149,548	1,033	
15	昭和 11 年 12 月 31 日	1,497,314	741,272	20	1	154,312	1,038	
16	昭和 12 年 12 月 31 日	1,613,202	705,759	20	1	153,150	1,034	
17	昭和 13 年 12 月 31 日	1,776,680	680,612	16	1	156,472	1,048	
18	昭和 14 年 12 月 31 日	2,191,958	659,523	17	1	156,465	1,052	
19	昭和 15 年 12 月 31 日	2,724,290	558,331	16	1	156,195	1,053	
20	昭和 16 年 12 月 31 日	3,356,943	546,164	20	1	157,646	1,032	
21	昭和 17 年 12 月 31 日	4,074,463	566,053	23	1	184,420	1,025	
22	昭和 18 年 3 月 31 日	4,536,797	616,009	29	2	196,492	1,029	事業年度変更
23	昭和 19 年 3 月 31 日	7,048,936	775,928	29	2	230,791	1,047	S18.8.20 市街地信用組合法による改組
24	昭和 20 年 3 月 31 日	10,857,908	1,095,705	32	2	255,228		
25	昭和 21 年 3 月 31 日	16,360,802	1,395,944	27	2	255,252		
26	昭和 21 年 8 月 10 日	15,286,967	1,256,103	24	2	254,862		

期	期末年月日	預金残高 (千円)	貸出金残高 (千円)	役員員数 (人)	店舗数 (店)	出資金 (千円)	会員数 (人)	特 記
27	昭和 23 年 3 月 31 日	16,238	6,435	18	2	264	1,144	新旧勘定併合
28	昭和 24 年 3 月 31 日	24,110	16,856	22	2	1,000	569	
29	昭和 25 年 3 月 31 日	32,785	21,347	22	2	1,479	1,049	
30	昭和 26 年 3 月 31 日	62,640	39,002	32	3	3,242	1,484	S25.4.1 中小企業等協同組合法による改組
31	昭和 27 年 3 月 31 日	132,083	86,810	42	4	6,076	1,871	S26.10.20 有限責任別府信用組合から別府信用金庫に改組
32	昭和 28 年 3 月 31 日	263,539	185,429	51	5	13,448	2,241	
33	昭和 29 年 3 月 31 日	416,657	339,891	62	5	23,293	2,549	
34	昭和 30 年 3 月 31 日	636,379	468,659	75	5	35,693	2,808	
35	昭和 31 年 3 月 31 日	771,675	541,980	85	6	38,988	3,006	
36	昭和 32 年 3 月 31 日	960,885	682,564	95	6	42,155	3,298	
37	昭和 33 年 3 月 31 日	1,066,873	762,456	99	6	55,228	3,732	
38	昭和 34 年 3 月 31 日	1,247,892	838,230	110	6	58,184	4,022	
39	昭和 35 年 3 月 31 日	1,496,082	1,004,019	128	7	61,403	4,552	
40	昭和 36 年 3 月 31 日	2,171,434	1,567,831	139	7	64,673	5,180	
41	昭和 37 年 3 月 31 日	2,859,725	2,224,223	145	7	106,087	5,804	
42	昭和 38 年 3 月 31 日	4,109,795	3,137,070	152	7	118,130	6,185	
43	昭和 39 年 3 月 31 日	5,548,401	4,425,162	165	7	132,749	6,691	
44	昭和 40 年 3 月 31 日	7,090,914	5,474,430	189	8	146,541	7,148	
45	昭和 41 年 3 月 31 日	8,601,051	7,205,753	207	8	186,541	7,873	
46	昭和 42 年 3 月 31 日	10,770,986	9,156,717	240	9	216,873	8,970	S41.11.24 預金量 100 億円達成
47	昭和 43 年 3 月 31 日	12,133,702	10,382,491	254	9	235,167	10,207	
48	昭和 44 年 3 月 31 日	14,664,244	12,456,781	269	10	254,019	11,301	
49	昭和 45 年 3 月 31 日	17,984,927	15,292,454	280	10	263,461	11,736	
50	昭和 46 年 3 月 31 日	20,318,281	16,129,424	283	11	269,809	11,914	
51	昭和 47 年 3 月 31 日	24,395,350	18,868,818	317	11	276,313	11,784	
52	昭和 48 年 3 月 31 日	28,799,110	24,121,295	336	11	289,534	12,788	S47.4.12 別府信用金庫創立 50 周年
53	昭和 49 年 3 月 31 日	35,412,507	30,167,047	339	11	298,538	13,360	

期	期末年月日	預金残高 (千円)	貸出金残高 (千円)	役員員数 (人)	店舗数 (店)	出資金 (千円)	会員数 (人)	特 記
54	昭和 50 年 3 月 31 日	41,568,067	32,987,359	333	12	305,339	13,841	
55	昭和 51 年 3 月 31 日	47,881,258	36,869,010	347	12	313,534	14,590	
56	昭和 52 年 3 月 31 日	54,505,841	44,789,948	349	12	323,924	15,381	
57	昭和 53 年 3 月 31 日	61,000,433	50,260,336	365	12	333,869	15,947	
58	昭和 54 年 3 月 31 日	68,236,458	57,059,389	383	13	344,167	16,485	
59	昭和 55 年 3 月 31 日	76,748,840	65,744,408	389	13	351,235	17,096	
60	昭和 56 年 3 月 31 日	82,119,200	69,761,842	387	14	356,130	17,369	
61	昭和 57 年 3 月 31 日	90,745,521	73,468,572	387	15	361,310	17,573	
62	昭和 58 年 3 月 31 日	101,006,094	77,385,406	398	15	366,279	17,793	S57.12.22 預金量 1,000 億円達成
63	昭和 59 年 3 月 31 日	105,468,213	82,536,191	401	17	370,856	18,065	
64	昭和 60 年 3 月 31 日	113,599,594	86,465,215	393	18	375,298	18,227	
65	昭和 61 年 3 月 31 日	116,805,366	85,900,008	404	20	379,805	18,419	
66	昭和 62 年 3 月 31 日	122,087,474	89,360,910	397	20	387,214	18,823	
67	昭和 63 年 3 月 31 日	126,887,987	92,241,006	390	21	397,474	19,227	
68	平成 元年 3 月 31 日	133,961,926	96,911,752	399	21	404,083	19,525	S63.12.24 貸出金量 1,000 億円達成
69	平成 2 年 3 月 31 日	150,044,294	104,125,279	387	21	412,477	19,846	
70	平成 3 年 3 月 31 日	161,522,495	113,055,405	390	22	419,202	20,159	
71	平成 4 年 3 月 31 日	171,341,305	121,882,392	403	23	423,291	20,318	
72	平成 5 年 3 月 31 日	202,363,752	148,765,172	496	31	667,637	26,059	H4.6.1 府内信用金庫と合併
73	平成 6 年 3 月 31 日	212,290,459	161,448,003	494	31	673,220	26,379	
74	平成 7 年 3 月 31 日	221,492,150	175,592,736	495	31	682,163	26,876	
75	平成 8 年 3 月 31 日	228,744,987	176,879,950	490	31	692,850	27,507	
76	平成 9 年 3 月 31 日	236,795,263	175,293,660	489	32	702,989	27,975	
77	平成 10 年 3 月 31 日	242,524,912	171,276,981	470	32	709,837	28,354	
78	平成 11 年 3 月 31 日	249,078,770	172,883,384	467	33	726,423	28,903	

100 年間の業績実数

Performance over 100 Years

期	期末年月日	預金残高 (千円)	貸出金残高 (千円)	役員員数 (人)	店舗数 (店)	出資金 (千円)	会員数 (人)	特 記
79	平成 12 年 3 月 31 日	252,135,861	170,424,433	464	33	1,029,293	31,389	
80	平成 13 年 3 月 31 日	253,763,407	161,819,155	444	33	1,110,897	32,326	
81	平成 14 年 3 月 31 日	327,688,660	199,775,214	539	45	1,260,419	35,610	H14.3.31 中津信金、佐賀関信金を事業譲受
82	平成 15 年 3 月 31 日	328,892,617	196,993,895	515	45	1,422,285	41,844	
83	平成 16 年 3 月 31 日	333,162,283	194,347,726	495	42	1,435,493	42,244	
84	平成 17 年 3 月 31 日	332,331,056	190,749,164	481	41	1,435,009	42,357	
85	平成 18 年 3 月 31 日	332,725,242	193,643,906	467	41	1,435,700	42,335	
86	平成 19 年 3 月 31 日	330,485,045	187,429,547	463	41	1,436,937	42,286	
87	平成 20 年 3 月 31 日	329,681,261	180,201,838	445	41	1,433,999	42,123	
88	平成 21 年 3 月 31 日	330,570,748	180,939,685	439	38	1,426,165	41,765	
89	平成 22 年 3 月 31 日	332,693,477	174,068,458	436	36	1,421,284	41,506	
90	平成 23 年 3 月 31 日	336,295,196	174,324,280	442	36	1,407,475	40,813	
91	平成 24 年 3 月 31 日	339,139,756	173,430,603	434	36	1,401,779	40,634	
92	平成 25 年 3 月 31 日	344,505,023	173,159,583	429	36	1,397,701	40,676	
93	平成 26 年 3 月 31 日	350,171,285	175,818,042	417	34	1,400,414	40,750	
94	平成 27 年 3 月 31 日	360,518,283	178,970,093	409	34	1,405,070	40,879	
95	平成 28 年 3 月 31 日	365,602,670	185,667,408	398	34	1,413,578	41,003	
96	平成 29 年 3 月 31 日	374,301,537	191,204,318	397	33	1,425,590	41,229	
97	平成 30 年 3 月 31 日	381,360,398	193,640,613	396	33	1,445,195	41,699	
98	平成 31 年 3 月 31 日	388,293,474	196,111,613	397	33	1,464,755	42,161	
99	令和 2 年 3 月 31 日	392,637,722	197,740,457	391	32	1,476,261	42,406	
100	令和 3 年 3 月 31 日	422,421,060	208,206,565	382	31	1,497,497	42,755	
101	令和 4 年 3 月 31 日	427,632,191	208,841,939	386	30	1,503,570	42,762	
102	令和 5 年 3 月 31 日	434,655,282	210,531,063	382	30	1,513,231	42,853	R4.4.12 大分みらい信用金庫創立 100 周年
103	令和 6 年 3 月 31 日	436,491,521	210,445,983	371	30	1,506,984	42,571	

大分みらい信用金庫 100年の軌跡

当金庫の出来事

1922

大正11年

- 1月30日 別府町第二代目町長の吉田嘉一郎他76名が、信用組合設立許可申請書を大分県へ提出
- 4月12日 **大分県知事 田中千里氏より有限責任別府信用組合設立許可**
※産業組合法市街地信用組合制度による
初代組合長 吉田嘉一郎 就任
- 6月10日 登記 事務所 大分県速見郡別府町大字別府1929番地2
- 7月6日 **第二代組合長 永井次郎 就任**

1923

大正12年

- 8月20日 事務所移転 別府町大字別府2269番地
※現在の別府市末広町2番3号(河村観三理事の自宅。現・末広郵便局)

1924

大正13年

- 3月7日 事務所移転 別府町大字別府280番地2
※現在の別府市楠町1番32号(当時の別府町役場前)

1925

大正14年

- 2月26日 **第三代組合長 河村観三 就任**

1926

大正15年

- 9月23日 事務所移転 別府市大字別府97番地1
※現在の別府市千代町11番15号(現・南支店)

1928

昭和3年

1929

昭和4年

1930

昭和5年

1932

昭和7年

1936

昭和11年

1938

昭和14年

- 1月18日 地区拡張 速見郡石垣村のうち大字南石垣、南立石を拡張
- 11月12日 創立10周年。記念品を組合員に配布
- 1月23日 **第四代組合長 和田嘉七 就任**
- 3月9日 行政区変更による区域変更
別府市のうち大字別府、浜脇、南立石、南石垣が営業地区となる

1939

昭和14年

1941

昭和16年

1942

昭和17年

- 3月1日 庶民金融公庫代理業務取扱開始
- 12月26日 大分県経済部長通牒にて存続期限廃止
- 1月24日 第20期総会の決議 定款変更「存続期限20年」削除
- 4月26日 組合長 和田嘉七逝去
- 5月2日 創立20周年。記念品を組合員に配布
- 5月6日 **第五代組合長 西原左太郎 就任**
- 10月1日 **野口支所開店** 別府市大字別府1080番地 ※現在の別府市野口元町6番3号
- 11月12日 創立20周年を記念し、1万円国防献金

1943

昭和18年

- 3月11日 市街地信用組合法公布(産業組合法から独立分離)
- 3月31日 事業年度変更 第22期昭和18年1月1月から18年3月31日まで
以降4月1日から翌年3月31日までが事業年度となる
- 8月20日 市街地信用組合法による組織変更 地区は別府市一円に拡張

1944

昭和19年

- 4月30日 **流川支所開店** ※別府市流川2丁目(現在の別府市楠町11番8号)
終戦直前まで建物疎開により事務所を閉鎖。閉鎖年月日は不明

社会の出来事

- 1月20日 普通選挙促進演説会(別府・松涛館)
- 2月6日 ワシントン会議で海軍軍縮条約締結
- 6月24日 シベリア出兵
- 12月19日 **大分銀行別府支店が取り付け騒動で休業**
- 9月1日 関東大震災
- 12月15日 **日豊本線全線開通**
- 4月1日 **別府市制施行**
- 3月 普通選挙法・治安維持法成立
- 12月25日 大正天皇崩御
- 1月10日 地獄めぐりバス運行開始
- 4月20日 中津市制施行
- 9月3日 別府遊園(ラクテンチ)開業
- 10月24日 世界恐慌始まる
- 12月1日 **別府ゴルフ倶楽部開場**
- 5月15日 五・一五事件
- 2月26日 二・二六事件
- 4月1日 国家総動員法公布
- 10月23日 ヒットラーユーゲント来別
- 12月15日 **大分海軍航空隊開隊**
- 9月1日 第二次世界大戦勃発
- 12月8日 太平洋戦争勃発
- 1月1日 連合国26ヵ国が日本とドイツに単独不講和宣言
- 2月24日 日本銀行法公布
- 3月5日 東京で初の空襲警報
- 4月3日 **大分合同新聞社設立**
- 6月5日 ミッドウェー海戦
- 3月1日 **大分市・一丸デパートとトキハデパートが合併**
- 3月11日 市街地信用組合法公布
- 3月31日 金融機関の決算期変更
- 6月19日 マリアナ沖海戦

1922 - 1956 / T11 - S31

当金庫の出来事

社会の出来事

1945
昭和20年1946
昭和21年1947
昭和22年1948
昭和23年1949
昭和24年1950
昭和25年1951
昭和26年1952
昭和27年1953
昭和28年1954
昭和29年1955
昭和30年1956
昭和31年

- 2月17日 インフレ防止のため金融緊急措置令、日本銀行券預入令公布施行(旧円封鎖、新円交換)に伴い預貯金の封鎖、新円発行
封鎖預金引き出しを毎月世帯主 300円、家族1人 100円に制限
8月11日 金融緊急措置令施行規則改正に伴い資産および負債につき新勘定、旧勘定設定
- 7月2日 **第六代組合長 高橋豊之進 就任**
- 3月31日 最終処理決算を実施し、旧勘定を封鎖
4月1日 金融機関再建整備法による発足
定款変更。出資1口 50円 全額払込
- 6月1日 国民金融公庫 代理業務契約
- 4月1日 **中小企業等協同組合法による信用組合に改組。別府信用組合と呼称**
駅前支店開店 別府市大字別府764番地10
※現在の別府市北浜1丁目2番14号
- 8月4日 **鉄輪支店開店** 別府市大字鉄輪298番地
9月10日 野口支所が野口支店に昇格
9月26日 **預金1億円達成**
10月20日 **信用金庫法による信用金庫に改組。別府信用金庫と呼称**
理事長 高橋豊之進
- 9月20日 **亀川支店開店** 別府市大字内竈998番地1
※現在の別府市亀川浜田町1番8号
- 11月4日 中小企業金融公庫と代理業務契約締結
- 1月4日 円未満端数整理の実施
3月1日 職員親睦会「信友会」発足。会長は高橋豊之進理事長
3月10日 鉄輪支店、大蔵大臣より優良店舗として表彰される
4月1日 地区拡張 速見郡豊岡町、日出町、南端村、大分郡湯布院町、石城川村、由布川村
5月10日 全国信用金庫連合会の集中決済制度による信用金庫内国為替業務開始
5月28日 **預金5億円達成**
- 1月17日 駅前支店位置変更 別府市大字別府774番地1
※現在の別府市北浜2丁目1番26号
8月10日 信友会誌「信友会会誌」創刊
10月11日 住宅金融公庫と住宅金融保険契約締結
- 3月1日 地区拡張 大分郡湯布院町のうち、旧・湯の平村を含めた湯布院町一円
湯布院支店開店 大分郡湯布院町大字川上3731番地11
※仮事務所にて営業開始
5月2日 創立35周年事業として、別府市にミュージックサイレンを寄贈
※市民から曲目を募集し、朝「さくらさくら」、昼「菩提樹」、夜「荒城の月」に決定。昭和32年4月5日の市議事堂竣工後に吹鳴式を挙行
6月15日 大分手形交換所代理交換参加。親銀行は大分銀行
7月19日 湯布院支店新築移転 大分郡湯布院町大字川上3730番地9

7月16日 **大分市大空襲**
8月15日 太平洋戦争終戦2月17日 金融緊急措置令等施行
10月30日 金融機関再建整備法施行
11月3日 日本国憲法公布
12月15日 **チッカマウガ兵舎完工**
(別府市野口原)

5月3日 日本国憲法施行

1月26日 帝銀事件
7月21日 第1封鎖預金を解除し
新円に一本化

7月1日 中小企業等協同組合施行

6月25日 朝鮮戦争勃発
7月18日 **「別府国際観光温泉文化都市建設法」公布**9月8日 対日平和条約(サンフランシスコ講和条約)、並びに
日米安保条約調印
10月3日 別府国際観光港起工式
10月14日 ルース台風が県下を横断1月20日 **第1回別府大分毎日マラソン開催**1月1日 **大分合同銀行が大分銀行に改名**

5月1日 信用金庫が内国為替業務を開始

5月20日 **大分市・昭和井路通水**
5月31日 **豊後高田市市制施行**7月1日 自衛隊発足
11月3日 東宝映画「ゴジラ」公開
12月 神武景気(1957年6月まで)

電気洗濯機、電気冷蔵庫、テレビが「三種の神器」と呼ばれる

2月1日 **由布院町と湯平村が合併し湯布院町が発足**

2月6日 日本で初の週刊誌となる「週刊新潮」創刊

7月17日 経済企画庁・経済白書「もはや戦後ではない」

8月27日 **別府市営温泉プール完成**
10月19日 日ソ国交回復12月18日 日本の国連加盟可決
12月20日 NHKカラー放送開始

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

1957
昭和32年

- 4月1日 全国信用金庫拡充3カ年計画策定
別府信用金庫も初の長期計画「別信3カ年計画」を策定
- 5月 全店にスクーター1台ずつ配備
- 6月6日 湯布院支店社宅取得
大分郡湯布院町大字川上3079番地の1
- 6月24日 鉄輪支店移転 別府市大字鉄輪293番地の8
- 8月23日 預金10億円達成

1958
昭和33年

- 4月1日 本部制実施
- 11月15日 年末特別短期融資取扱開始(1億円)

1959
昭和34年

- 1月31日 調整勘定閉鎖。利益金分配事務開始
- 2月18日 初の理事長車購入
- 2月25日 自動継続定期預金取扱開始
- 5月15日 高橋新一 常務理事就任
- 9月7日 駅前支店にテラシステム採用
- 9月22日 山の手支店開店
別府市大字別府 2436番地1
※現在の別府市青山町1番1号
- 10月1日 テレビ融資取扱
- 10月31日 中小企業退職金共済事業団代理業務契約締結
- 11月5日 セールス訓練実施
- 11月18日 大蔵大臣および日本銀行総裁より国民貯蓄運動推進協力につき、感謝状を贈られる

1960
昭和35年

- 4月28日 日本不動産銀行 代理業務契約締結
- 5月20日 別府市の市税収納事務取扱開始
- 7月20日 日本勧業銀行 株式払込取次契約締結
- 12月19日 野口支店位置変更 別府市大字別府 1082番地4

1961
昭和36年

- 2月9日 別府信用金庫「基本方針」「三原則」制定
- 3月31日 大分県税収納代理事務契約締結
- 6月27日 納税貯蓄組合法施行10周年につき、別府県税事務所長より功労表彰
- 7月2日 高橋豊之進理事長、世界一周産業経済金融事情視察旅行に参加
- 8月15日 貸出金業務にジーマーク作表機導入。事務機械化第一歩
- 10月21日 大分県知事より母子福祉事業協力功績で感謝状授受
- 12月5日 本店、駅前支店 NCR42による普通預金事務処理を開始

1962
昭和37年

- 2月16日 住宅金融公庫代理業務契約締結
- 4月8日 創立40周年記念行事。会員大会・職員家族大会実施
～4月15日 別府駅伝競技大会を開催
※以後、毎年実施。1971年以降は交通事情を考慮し中止
- 4月25日 本店(現・南支店)、駅前支店を除く全店でF250による普通預金事務処理開始
- 5月 高橋豊之進理事長 全国信用金庫協会理事に就任

1963
昭和38年

- 2月16日 新本店新築工事地鎮祭
- 4月20日 庫内報「別信」創刊
- 6月1日 シンボルフラワー「アイリス」を決定
- 6月10日 金庫初の「マイカー・ローン」をトヨタ自動車と締結以降、他メーカーとも順次契約
- 7月1日 日本長期信用銀行代理業務契約締結

別信3カ年計画

自
S 32年4月1日
S 35年3月31日
S 34年3月31日
至
S 35年3月31日
S 36年3月31日

別信強化3カ年計画

自
S 34年4月1日
S 37年3月31日
S 36年3月31日
至
S 37年3月31日
S 38年3月31日

第2次別信強化3カ年計画

自
S 36年4月1日
S 39年3月31日
S 38年3月31日
至
S 39年3月31日
S 40年3月31日

- 1月29日 南極に昭和基地開設
- 3月10日 大分空港開港
- 3月20日 別府温泉観光産業大博覧会開催(5月20日まで)
- 3月25日 米軍キャンプ接収解除
- 5月10日 別府タワー竣工
- 7月 なべ底不況(1958年6月まで)

- 4月1日 新大分駅竣工
- 7月 岩戸景気(1961年12月まで)

- 3月17日 国内初の漫画週刊誌「少年マガジン」「少年サンデー」が同時創刊
- 4月10日 皇太子殿下(後の第125代天皇陛下)と美智子様ご成婚

- 8月24日 NHK大分放送局がテレビ放送開始

- 9月26日 伊勢湾台風
- 10月1日 OBS大分放送開局
- 11月 別府市石垣土地区画整理事業着工
- 12月15日 第1回日本レコード大賞

- 1月19日 日米安全保障条約締結
- 5月12日 大分市・市内大橋開通
- 7月27日 経済協力開発機構創設
- 12月27日 国民所得倍増計画

- 4月12日 ソ連が人類初の有人宇宙飛行に成功

- 4月13日 大分県立芸術短期大学開学

- 6月3日 ウィーン会談
- 7月7日 別府近鉄百貨店開業
- 8月13日 東西ベルリン境界封鎖
- 10月26日 集中豪雨で仏崎で別大電車埋没事故

- 9月26日 若戸大橋開通(北九州)
- 10月5日 全国総合開発計画決定
- 10月15日 キューバ危機
- 11月12日 九州石油起工式
- 11月29日 新大分県庁舎開庁
- 12月21日 別府ロープウェイが鶴見岳山頂駅運行開始

- 1月1日 初の国産アニメとなる「鉄腕アトム」放映開始
- 3月10日 6市町村合併により新大分市発足
- 4月1日 マル優制度創設
- 4月1日 別府国際観光会館落成

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

1963

昭和38年

- 10月1日 「信ちゃん預金」取扱開始
 10月5日 日本興業銀行代理業務契約締結
 10月31日 新本店定礎式
 11月29日 預金50億円達成

1964

昭和39年

- 2月13日～2月23日 新本店落成行事
 竣工式・落成式・会員大会・役職員家族祝賀会
 2月17日 新本店開店 別府市大字別府765番地の1
 ※現在の別府市駅前本町1番31号
 本店移転に伴い、従来の本店は南支店として発足
 駅前支店は従来の本店跡に位置変更して名称変更
 4月20日 富士見支店開店
 別府市大字別府 1243番地1
 ※現在の別府市弓ヶ浜1番23号
 6月1日 本店で貸金庫取扱開始。テレックス稼動開始
 7月28日 地区拡張。大分市が追加
 8月25日 第一回「信ちゃんクラブの集い」開催
 以降、毎年夏休みと冬休みの年二回開催
 9月1日 カシオリレー計算機による普通預金利息算出開始
 12月1日 「アイリス積金」取扱開始
 12月31日 「日野ローン(トラック)」契約締結

1965

昭和40年

- 1月30日 別府市内金融機関で預金シェア第1位となる
 2月28日 第1回市内小中学生珠算競技大会に協賛。以降、毎年開催
 4月1日 別府市開発公社指定収納取扱金融機関に指定される
 5月21日 別府税務署国税自動振替契約締結
 6月25日 庫外報「アイリス」創刊
 7月20日 別府電報電話局と電信電話料自動振替契約締結
 (別府市と湯布院町)
 9月7日 安田火災海上保険株式会社と自動車損害賠償責任保険
 料収納事務取扱契約締結
 10月1日 電子会計機E2000稼動開始
 11月3日 高橋豊之進理事長が大分合同新聞文化賞産業部門受賞
 12月1日 小規模企業共済事業団代理業務契約締結
 統一手形用紙制度採用
 別府信用金庫のロゴタイプ決定

1966

昭和41年

- 4月1日 大分支店開店 大分市府内町1丁目2番11号
 雇用促進事業団代理業務契約締結
 5月23日 亀川支店位置変更 別府市亀川東町26番11号
 7月26日 研修所併設の職員寮「別信寮」竣工 別府市京町1番13号
 7月30日 金庫初の電化ローン契約締結(松下電器)
 10月20日 大分電話局電信電話料金自動振替契約締結
 11月23日 高橋豊之進理事長、中小企業金融に永年の貢献に対し
 大分県知事表彰を受ける
 11月24日 預金100億円達成
 11月 高橋豊之進理事長 南九州信用金庫協会会長に就任

1967

昭和42年

- 1月 全国信用金庫厚生年金基金に加入
 1月5日 別信不動産株式会社を設立
 4月26日 創立45周年記念役職員祝賀会
 8月17日 社会保険料自動振替契約締結
 8月21日 南支店新築のため仮事務所に移転 別府市立田町1番36号
 10月2日 全店電信が替取扱開始

別信強化5カ年計画

自S38年4月1日
至S43年3月31日をS42年3月31日に

- 6月5日 黒部ダム完成
 11月1日 国民宿舎・由布山荘開設
 11月22日 米・ケネディ大統領
 暗殺事件

- 1月30日 鶴崎臨海工業地帯が
 新産業都市指定
 2月27日 大分空港で富士航空
 機墜落事故
 4月1日 日本がIMF8条国に移行
 4月28日 経済協力開発機構
 (OECD)に加盟
 6月16日 新潟大地震
 6月25日 別府阿蘇道路が共有
 開始。後に九州横断
 道路となる
 7月1日 別府国際ゴルフ場完成
 10月31日 大分生体水族館
 マリーンパレス開館
 10月1日 東海道新幹線開通
 10月10日 東京オリンピック開催

- 2月7日 米国が北ベトナム爆撃開始
 7月1日 初の国産旅客機YS-11が
 就航開始
 6月22日 日韓基本条約調印
 7月1日 名神高速道路全線開通
 7月16日 大分市宮陸上競技場
 完成
 7月20日 大分交通宇佐参宮線
 廃止
 9月24日 国鉄がみとりの窓口開設
 10月5日 別府に社会福祉施設
 「太陽の家」開所
 11月 いざなぎ景気が始まる
 (1970年まで)

- 3月31日 日本の人口が一億人突破
 6月29日 ザ・ビートルズ来日
 7月1日 大分県立図書館開館
 7月17日 「ウルトラマン」放映開始
 9月18日 大分国体開催
 9月18日 別府国際観光港の
 第1・2埠頭が完成
 10月12日 大分文化会館落成
 カラーテレビ・クーラー・カー
 (車)の3Cが新三種の神器へ

- 4月1日 宇佐市制施行
 4月7日 春の甲子園で津久見高校
 が初優勝
 7月1日 ブリュッセル条約
 7月16日 関西汽船が国際観光港
 へ移転

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

1967
昭和42年

- 11月1日 住宅ローン取扱開始
12月25日 山の手支店改築開店(位置は変わらず)

1968
昭和43年

- 2月1日 環境衛生金融公庫代理業務契約締結
4月15日 南支店新築開店。旧位置に戻る。外壁に電光時計設置
別府市水道局 水道料金自動振替契約締結
7月1日 NHK放送受信料自動振替契約締結
8月28日 湯布院支店職員寮新築竣工
9月11日 シンボルキャラクター「イリスちゃん」誕生
10月7日 信用金庫法の一部改正に伴う定款および業務方法書変更
11月1日 別信杉の子会 会員募集開始
11月11日 上人支店開店 別府市上人南町16組

1969
昭和44年

- 3月1日 「交通安全定期預金」取扱開始
4月1日 湯布院支店 県税収納事務取扱開始
退職金制度発足
4月29日 高橋豊之進理事長 勲五等双光旭日章授与
5月 高橋豊之進理事長 全国信用金庫連合会理事に就任
7月25日 別信杉の子会 第1回レクリエーション
9月8日 電子計算機 NEAC1210による割引手形集中処理開始
10月1日 貸出金利年利建採用
11月4日 富士見支店位置変更 別府市弓ヶ浜4番32号
12月8日 鉄輪支店位置変更 別府市大字鉄輪273番地4
※現在の別府市鉄輪御幸2組
12月15日 日本銀行大分支店の当座取引開始

1970
昭和45年

- 3月2日 大分手形交換所加盟
3月 定積旅行「大阪万博旅行」へ順次出発
4月1日 預金利率年利建採用
7月1日 地区拡張。杵築市、日田市、大分郡、速見郡、東国東郡、玖珠郡、日田郡を追加
11月26日 本店、日本銀行歳入代理店事務取扱開始
11月27日 公害防止事業団代理業務契約締結
12月28日 預金200億円達成

1971
昭和46年

- 1月16日 月賦証書貸付集中処理開始
3月8日 南大分支店開店 大分市大字奥田 692番地4
※現在の大分市二又町3組3
3月26日 日本勧業銀行と私立大学学費納付金の取次契約を締結
4月1日 都市銀行と為替取引開始
4月28日 大分瓦斯とガス料金自動振替契約締結
6月16日 日本銀行準備預金制度適用される
7月8日 本店北側駐車場完成
8月23日 地区拡張。臼杵市、津久見市、竹田市、北海部郡、大野郡、直入郡を追加
8月27日 高橋新一専務理事が吹米人材開発視察旅行に参加
9月1日 郵便局と預金取引開始
10月20日 信用金庫20周年記念全国大会で20年以上在任理事長として高橋豊之進理事長が表彰される

1972
昭和47年

- 4月12日 別府信用金庫創立50周年
4月29日 高橋新一専務理事 藍綬褒章授与
5月30日 預金250億円達成
7月10日 50周年記念定積旅行「ヨーロッパ旅行」出発

別信強化第2次5カ年計画
自S42年4月1日
至S47年3月31日をS44年3月31日に

別信躍進5カ年計画

自S44年4月1日
至S49年3月31日をS48年3月31日に

10月1日 別府市で城島モートピアランド開園

1月1日 別府市民憲章制定
4月24日 東洋陶器中津工場竣工
4月25日 東名高速道路開通
7月1日 郵便番号制度開始
7月19日 志高ユートピア開園
10月17日 川端康成が日本人初のノーベル文学賞
10月23日 明治百年記念式典
12月16日 元横綱・双葉山逝去

1月18日 東大安田講堂事件
4月1日 大分大学経済学部が旦野原キャンパスへ移転
4月6日 国道九四フェリー開通
4月25日 新大道トンネル竣工
6月10日 GNP世界第2位を発表
7月20日 米・アポロ11号が人類初の月面着陸
10月4日 TBSが「8時だヨ! 全員集合」放送開始
12月1日 住友銀行が日本初のCD機を設置

2月26日 広別汽船設立
3月14日 日本万国博覧会開幕(9月13日まで)
3月31日 よと号ハイジャック事件
4月1日 TOSテレビ大分局開局
7月11日 東芝大分工場操業
10月9日 大分臨海産業道路(40メートル道路)開通

4月1日 預金保険法公布
4月28日 長崎屋開店
5月10日 東陶大分工場竣工
6月1日 新日鐵大分製鐵所発足
6月17日 沖縄返還協定調印
6月30日 実相寺球場竣工
7月1日 環境庁設置
8月16日 ニクソン・ドルショック
9月23日 大分西鉄グランドホテル開業
10月1日 第一銀行と日本勧業銀行合併で、国内第1位の都銀・第一勧業銀行発足
10月16日 新大分空港開港

2月3日 札幌オリンピック開催
2月19日 連合赤軍浅間山荘事件
4月4日 別大電車の運行廃止
6月11日 「日本列島改造論」発表

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

1972

昭和47年

- 7月12日 コンピューター導入委員会設置
10月31日 電子計算機パロースB3500購入契約締結
11月12日 全国杉の子会参加（名古屋）

1973

昭和48年

- 2月6日 電子計算機用端末機TC700による 普通預金記帳事務を
大分支店より開始。同年4月中に全店設置
3月1日 公庫住宅融資保証協会業務委託契約締結
4月2日 利払式自動継続定期預金取扱開始

1974

昭和49年

- 4月1日 荘園支店開店 別府市東荘園3丁目4番40号
10月7日 普通預金オンライン移行開通式挙行政
11月6日 別府市学校給食費口座振替事務取扱開始
11月29日 預金量400億円達成

1975

昭和50年

- 2月1日 普通預金オンラインネットサービス開始
5月1日 第七代理事長 高橋新一 就任。会長 高橋豊之進 就任
5月20日 定期預金コンピューター処理開始
5月27日 「ご相談お問い合わせ窓口」を全店設置
6月23日 福祉定期預金取扱開始
6月28日 本店増築工事完成
7月14日 年金福祉事業団と代理店契約締結
11月1日 全国しんきん保証付ローン取扱開始
11月9日 別府市南九州杉の子大会開催
11月29日 給与振込事務取扱開始
12月20日 本店営業部 預金100億円達成

1976

昭和51年

- 4月27日 西日本建設業保証株式会社の前払金預託取扱開始
5月29日 預金500億円達成
6月30日 全国信用金庫預金残高20兆円達成
9月1日 住友クレジットカード取扱開始
9月19日 別信杉の子会 大運動会開催
10月18日 しんきん為替オンライン処理開始
11月17日 「別信同友会」発会式 糸川英夫氏の記念講演会を開催

1977

昭和52年

- 1月17日 テレファックスによる庫内データ通信取扱開始
3月5日 磁気テープによる電話料の口座振替事務取扱開始
7月1日 医療金融公庫取扱開始
8月1日 現金自動支払機によるキャッシュサービス開始
貸出金のオンライン事務取扱開始
9月1日 生命保険付交通安全定期預金取扱開始
10月1日 九州電力電気料金の口座振替収納取扱開始
11月1日 「がん保険付定期預金」取扱開始
12月19日 預金量600億円達成

1978

昭和53年

- 2月1日 定期預金、定期積金、通知預金オンライン事務取扱開始
しんきん教育ローン取扱開始
8月7日 石垣支店開店 別府市石垣西7丁目1番1号
8月21日 大分支店新築移転開店 大分市府内町1丁目2番8号
10月9日 電算機パロースB3700デュプレックスシステム稼動
11月7日 第1回別信同友会ゴルフコンペ実施。以降、毎年開催

1979

昭和54年

- 1月13日 本店機械室、車庫、食堂、会議室、更衣室増築
2月13日 全国銀行内国為替制度為替オンライン開始
8月11日 JCBカード取扱開始

別信躍進第2次3カ年計画

自S48年4月1日
至S51年3月31日

地域共栄5カ年計画

自S51年4月1日
至S56年3月31日
をS54年3月31日に

- 6月17日 ウォーターゲート事件
8月23日 津久見高校が夏の甲子園で初優勝

- 2月14日 円の変動相場制移行
3月3日・ジャスコ、9月28日・ニチイ、
11月16日・ダイエーが大分市に開店
10月 第一次石油ショック

- 2月15日 日豊海岸が国定公園に決定

- 6月27日 大口融資規制方針決定
10月14日 巨人・長嶋茂雄選手引退

- 2月26日 広別汽船設立
2月27日 大分市中央卸売市場が
建設工事着工

- 3月10日 博多まで新幹線開通
4月21日 大分県中部地震
4月30日 ベトナム戦争終結
5月7日 エリザベス女王来日
6月1日 第1回フェスピック開催
7月 湯布院で辻馬車運行開始
7月20日 沖縄海洋博覧会開催
9月30日 耶馬溪鉄道廃止

- 2月4日 ロッキード事件表面化
2月24日 白坂トンネル貫通式
5月29日 アフリカサファリ開園
6月19日 宇佐市が文化財保護
都市宣言
7月2日 南北ベトナム統一
8月19日 第1回湯布院映画祭

- 4月1日 別府公園が天皇陛下御
在位50年記念公園指定
6月1日 中津駅高架が完成
6月24日 九電・八丁原発電所操業
7月17日 キャンディーズ解散宣言
9月16日 第1回全国育樹祭が
志高湖畔で開催
9月25日 大分県立芸術会館開館
カラオケブーム到来

- 4月1日 大分医科大学が開学
5月20日 成田新国際空港開港
6月15日 富貴寺の壁画が重要
文化財に認定
8月12日 日中平和友好条約調印
11月14日 白坂バイパス開通

- 1月13日 初の共通一次試験
1月17日 第二次オイルショック
5月4日 サッチャー英国首相誕生

当金庫の出来事

- 1979**
昭和54年
- 10月28日 杉の子会・同友会合同大運動会
11月13日 別信同友会優良企業見学(松山市)。以降随時実施
12月1日 積立定期預金「しあわせ」取扱開始
- 1980**
昭和55年
- 6月2日 「べっしん総合口座」取扱開始
7月1日 別段預金、仮勘定、損益勘定等のオンライン事務開始
8月4日 鶴見支店開店 別府市大畑町1組2
日計、総勘定元帳オンライン事務開始
12月1日 本店営業部CD機の稼働時間延長(平日6時まで)
- 1981**
昭和56年
- 3月31日 高橋豊之進会長退任
5月6日 湯布院支店移転開店 湯布院町川上3048番地の4
6月1日 新型期日指定定期預金取扱開始
9月28日 年金受給者旅行「ハワイ旅行」出発
12月14日 豊岡支店開店 速見郡日出町豊岡西の3
- 1982**
昭和57年
- 3月19日 別信同友会講演会(金子信一氏)
4月1日 両替商業業務開始
5月1日 創立60周年記念祝賀会(日名子サンホール)
5月22日 創立60周年記念役職員、退職者合同祝賀会
(杉の井コンベンションホール)
6月21日 別信同友会・別府振興シンポジウム基調講演会
(西堀栄三郎氏)
7月19日 全国しんきんネット・キャッシュサービス取扱開始
10月12日 亀川支店新築移転 別府市亀川中央町2番11号
11月1日 「アイリス・カードローン」取扱開始
12月1日 創立60周年記念事業 別府振興シンポジウム
「まちづくり懇談会 知事とべっぶを語ろう」開催
12月22日 預金量1000億円達成
- 1983**
昭和58年
- 6月1日 国債等の窓口販売業務開始
6月15日 アイリス・スピードローン取扱開始
7月1日 新種定積「長寿」「繁盛」「パレレディ」と旅行定積「東京
ディズニーランド」「ソウルオリンピック」取扱開始
9月1日 別信マイホーム・改善ローン取扱開始
9月13日 大分県市町村職員共済組合年金の取扱開始
10月11日 春木支店開店 別府市石垣西10丁目6番2号
11月1日 別信国債定期口座「ホープ」取扱開始
12月2日 公設市場支店開店 別府市古市町881番地81
- 1984**
昭和59年
- 2月20日 別信「スウィング口座」取扱開始
7月11日 新種定積3コース取扱開始
(福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石の各コース)
7月16日 新端末機(UBT)稼働
10月1日 個人信用情報センター業務取扱開始
11月26日 扇山支店開店 別府市鶴見町5組2
- 1985**
昭和60年
- 3月1日 積金ファンド「がんばる家族」、新5年定積「歓」取扱開始
4月29日 高橋新一理事長 勲五等双光旭日章授与
5月8日 ATMサービスを本店、南支店でスタート
6月10日 東大分支店開店 大分市日吉町12番21号
11月25日 境川支店開店 別府市天満町12番36号

長期計画のあゆみ

第2次地域共栄3カ年計画

至 自
S 54
57 年
3 月
31 日

体質強化3カ年計画

至 自
S 60
67 年
3 月
31 日

社会の出来事

- 3月10日 大洲総合体育館完成
11月26日 平松守彦県知事が
一村一品運動提唱
- 1月25日 大野川大橋開通
6月14日 新大分球場完成
9月20日 イラン・イラク戦争突入
12月12日 日本の自動車生産台数
が世界第一位となる
- 3月20日 神戸ポートピア博開幕
4月12日 スペースシャトル初飛行
5月25日 新銀行法成立
11月1日 第1回大分国際車いす
マラソン開催
- 2月9日 日本航空350便墜落事故
3月3日 大分県マリノポリス基本
構想策定
6月23日 東北新幹線開業
10月1日 改正商法施行
10月4日 「笑っていいとも!」が
放送開始
11月3日 画家の高山辰雄氏が
文化勲章受賞
11月15日 上越新幹線開業
12月4日 映画「E.T.」日本公開
12月6日 大分キャンノが安岐町で
操業開始
- 3月31日 別府公園オープン
4月13日 東京ディズニーランド
開園
6月6日 国債発行100兆円突破
7月15日 任天堂ファミコン発売
8月13日 金融機関の第2土曜日
週休開始
11月8日 日本テキサスインスツル
メンツ杵築工場起工式
- 3月12日 別府市公設地方卸売市
場が亀川で業務開始
3月18日 グリコ・森永事件
7月20日 別府スバビーチ完成
11月1日 福澤諭吉の肖像による
新一万円札発行
- 3月25日 別府市役所の新庁舎
が完成
8月12日 御巣鷹山で日本航空機
が墜落
4月1日 電電公社がNTTへ、
専売公社がJTへ民営化

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

1986
昭和61年

- 1月1日 新マル優制度スタート
- 1月4日 ベっしん資金総合口座 (BMA)取扱い開始
- 5月19日 福祉定期預金取扱開始
- 6月2日 「しんきん安心定期預金」「ファミリー交通安全定期預金」取扱開始
- 7月16日 別信同友会創立10周年謝恩合同幹事会
- 7月29日 本店営業部ATM機稼動時間延長(平日午後7時まで)
- 8月16日 第3土曜休業日のキャッシュサービス開始
- 11月1日 女性専用口座レディスプラン「デュエット」取扱開始

1987
昭和62年

- 5月6日 コンピューターを富士通 M340Sに変更
「自由金利定期預金」取扱開始
- 5月18日 「べっしんマイカーローン」取扱開始
- 8月1日 「国信付アイリス住宅ローン」取扱開始
- 10月1日 「大分地域CDネットサービス」取扱開始
- 10月18日 第20回全国杉の子大会へ参加(熊本)
- 10月29日 第1回「信寿会会長杯ゲートボール大会」開催
※以降、2006年まで毎年開催
- 10月30日 年金受取専用口座「ゆとり」取扱開始
- 12月14日 日出支店開店 速見郡日出町仲ノ丁

1988
昭和63年

- 3月1日 「変動金利型住宅ローン」「べっしんカードローン」
「べっしん事業者カードローン」取扱開始
- 6月1日 「べっしん年金保険ローン」取扱開始
- 9月3日 BBF「べっしんビジネスフォーラム」設立
- 10月1日 「経営者年金制度」取扱開始
- 11月1日 BVC「べっしんビデオセンター」開設

1989
昭和64年
平成元年

- 2月1日 全土曜休業日のATM稼動開始
- 3月25日 第1回別信同友会ビジネススクール「新入社員研修」開催
※以後、現在まで毎年開催
- 6月5日 「スーパーMMC」取扱開始
- 6月15日 期日指定定期積金「そなえちゃん」取扱開始
- 11月24日 全営業店にパソコン導入完了
- 11月27日 「べっしんクイックローン当座貸越根保証」取扱開始

1990
平成2年

- 4月2日 「スーパーMMC100万円」取扱開始
- 6月1日 べっしんギャラリー開設
- 8月31日 会員数2万人突破
- 10月15日 荘園支店、石垣支店にてハンディ端末機利用開始
- 11月5日 「スーパー MMC300万円」取扱開始
- 11月23日 第1回「別府のびのび音楽祭」開催。1993年まで毎年開催
- 12月2日 本店・石垣支店で県下初のサンデーバンキング開始
- 12月3日 浜脇支店開店 別府市浜脇1丁目8番20号

1991
平成3年

- 1月4日 こどもよきん「さうす通帳」取扱開始
- 3月13日 本店営業部に手話相談コーナー設置
- 5月2日 第10回信用金庫PRコンクール「カレンダー部門」最優秀賞
- 5月8日 府内信用金庫と合併に関する協定書調印
中津信用金庫と業務提携に関する協定書調印
- 6月24日 バンクPOS大分地区取扱開始
- 8月1日 アイリス保険ローン「大黒柱」取扱開始
- 8月23日 さうすくらぶ「親子ワープロ教室」開催。以降随時開催
- 9月17日 府内信用金庫と合併契約書調印

金融自由化対応3カ年計画

至 自
S 63年3月31日
S 60年4月1日

第2次金融自由化対応3カ年計画

至 自
H 3年3月31日
S 63年4月1日至 自
H 6年3月31日
S 63年4月1日
SPA計画 21

- 3月21日 中津大博覧会開催
- 3月24日 別府やまなみ地区が
国際観光モデル地区へ
- 4月1日 男女雇用機会均等法施行
- 4月25日 大在公共埠頭完成
- 5月8日 英チャールズ皇太子と
ダイアナ妃が来日
- 6月7日 大分市・コンパルホール開館
バブル景気始まる

- 2月6日 九州横断自動車道・別府
明礬橋開通
- 2月9日 NTT株上場
- 3月9日 別府大学駅と日出湯谷駅
開業
- 4月1日 国鉄分割民営化
- 8月1日 別府国際観光港にオリ
アナ号が係留開業
- 10月19日 ニューヨーク証券取引
所でブラックマンデー

- 3月18日 東京ドームオープン
- 4月10日 瀬戸大橋開通
- 6月18日 リクルート事件
- 10月8日 別府コスモピア、トキハ
別府店開業
- 東証平均株価が初の3万円台

- 2月1日 豊和相互銀行が豊和銀行へ
- 4月1日 消費税法施行
- 7月20日 大分自動車道の別府
一湯病院間が開通
- 10月3日 別府くじゅうリゾート開発
構想が承認
- 11月9日 ベルリンの壁崩壊

- 3月26日 湯病院健康温泉館開館
- 4月4日 平和市民公園能楽堂開館
- 6月29日 秋篠宮様、紀子様ご結婚
- 10月1日 FM大分開局
- 10月3日 東西ドイツ統一
- 10月27日 オートポリス開業
- 11月1日 第1回豊の国ねんりん
ピック開催

- 1月17日 湾岸戦争勃発
- 2月28日 別府市石垣地区土地
区画整理事業完了
- 4月1日 八千代信金が普銀転換
- 4月1日 別府レンガホール(現・別
府市児童館)開設
- 4月26日 ハーモニールランド開園
- 5月31日 ジュリアナ東京オープン
- 6月3日 雲仙・普賢岳で大火砕流

当金庫の出来事

1991
平成3年

12月9日 津留支店開店 大分市今津留3丁目4番25号
12月10日 府内信用金庫との合併内許可書受理
12月18日 合併に伴う臨時総代会

1992
平成4年

4月10日 創立70周年記念事業で海岸・海浜清掃車「ザウルス号」を別府市へ寄贈。併せて別府駅前通り活性化に資する寄附金委託(後の別府駅前の油屋熊八ブロンズ像建立資金へ)
5月2日 第11回信用金庫PRコンクール「カレンダー部門」最優秀賞受賞。2年連続受賞はコンクール初
5月20日 府内信用金庫との合併本許可書受理
5月24日 第1回「ごうす探検隊」(猪の瀬戸湿原)。以降、随時開催
6月 高橋新一理事長 南九州信用金庫協会監事に就任
6月1日 府内信用金庫と合併。新生・別府信用金庫へ
6月22日 「新型貯蓄預金」「スーパー積金」取扱開始
6月25日 合併披露会、創立70周年謝恩会(トキハ会館)
7月5日 海岸・海浜清掃機「ザウルス号」披露式(SPAビーチ)
7月11日 創立70周年 別信同友会謝恩の集い(杉乃井ホール)
8月1日 開催予定の第1回「ベイサイドルネサンス」が嵐で中止
8月29日 第1回「ベイサイドルネサンス」開催(西大分港)
※以降、2000年まで毎年開催
10月22日 創立70周年記念「別信同友会ゴルフコンペ」開催
10月28日 「大分交響楽団定期演奏会」協賛。1995年まで毎年協賛
11月8日 ざうるすくらぶ「熱気球試乗会」(野口原総合グラウンド)開催
11月26日 映画試写会「モスラ対ゴジラ」協賛。以降、随時協賛
12月14日 春日支店新築オープン 大分市王子北町1番7号

1993
平成5年

4月12日 全信連による経営診断開始
5月 高橋新一理事長 全国信用金庫連合会理事に就任
5月1日 第八代理事長 高松右門就任 会長 高橋新一就任
6月20日 「ごうすイン・ハーモニーランド」開催。
※以降、1995年まで毎年開催
10月 新「経営理念」制定

1994
平成6年

1月30日 第1回「テラーコンクール」開催。1998年まで毎年開催
2月20日 地球村ホワイトパーティー参加(別府公園)
3月1日 第百別信ビル竣工(現「いちご・みらい信金ビル」)
3月4日 研修所「遊心饗」竣工
3月22日 府内中央支店新装オープン
5月9日 「大分みらい信用金庫」へ改名
「みらいグリーン口座」「2001年未来の旅」取扱開始
5月 プロジェクトチーム「みらいしんきん将来構想」答申
6月 経営理念手帳配布
6月11日 文化講演会「みらいを救う大変革」(大分文化会館)開催
7月8日 理念浸透会実施(部室店長、主任担当役席対象)
8月 数班に分かれ「高橋新一会長との夜なべ放談会」実施
10月17日 中津・昭和の両信用金庫合併し中津信用金庫がスタート
12月 役員による「経営課題研究会」実施

1995
平成7年

2月 ブロック別に職員と「理事長を囲む懇談会」実施
3月6日 南大分支店改装オープン
5月 本店営業部敷地内に「みらいポケット」開設
9月20日 「ロンドン・ローマ・スイスアルプス・パリの旅」出発
9月25日 東大分支店新築移転 大分市新栄町1番3号
10月9日 本店改装オープン

長期計画のあゆみ

SPA計画 21

至 自
H 6 年 3 月 31 日
H 3 年 4 月 1 日

みらい創造3カ年計画

至 自
H 9 年 3 月 31 日
H 6 年 4 月 1 日

社会の出来事

7月17日 湯都ピア浜脇 開設
11月25日 大分空港道路開通
12月21日 ソビエト連邦崩壊

バブル景気が終結

2月13日 東京佐川急便事件
3月1日 暴力団対策法施行
3月25日 ハウスステンボス開業
4月1日 育児休業法施行
4月1日 大分ケーブルテレビ開局
4月6日 大分・ソウル間の国際定期航空路開設
4月25日 大分県マリンカルチャーセンター開館
6月15日 PKO協力法成立
7月15日 JR九州「つばめ」が運行開始
8月21日 県立病院が新築移転
9月12日 学校週5日制スタート
10月 有効求人倍率が1.0を下まわり就職氷河期へ突入
12月3日 大分自動車道の別府-大分間が開通
小室哲哉、小林武史、つんく♂等によるJ-POPブーム到来

3月16日 宇佐道路開通
5月15日 Jリーグ開幕
6月1日 定期預金金利が完全自由化
6月9日 皇太子と雅子さまご結婚
10月1日 OAB大分朝日放送開局

3月10日 ガレリア竹町オープン
4月1日 府内五番街オープン
4月8日 大分フットボールクラブ(大分トリニータ)設立
6月27日 別府市竹細工伝統産業会館開館
6月27日 松本サリン事件
6月29日 村山富市内閣誕生
10月17日 流動性預金金利自由化で金利自由化完了
11月7日 城南信用金庫が懸賞金付き定期預金を発売
11月24日 銀行と証券の相互乗入れ本格化

1月17日 阪神・淡路大震災
2月28日 新県立図書館、先哲資料館、公文書館開館
3月4日 別府ビーコンプラザ開館
3月20日 地下鉄サリン事件
7月1日 製造物責任法(PL法)施行

当金庫の出来事

1995
平成7年

10月13日 「'95ヤングコア in 岐阜」へ参加し、翌年開催の「ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSHU」をPR

1996
平成8年

1月15日 ホリデーバンキングスタート
 2月6日 インターネットホームページ開設
 2月16日 M'sCLUB「SKI 1996 ツアー」出発。以降、随時開催
5月16日 高橋新一会長退任
 8月3～5日 「ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSHU」プレイベント
 現代アート展「THE NAME Inner Promotion」全店実施
 10月 TOSテレビ大分で提供番組「しんきんかんTV」放映開始
 10月2日 みらいしんきん同友会20周年記念ゴルフ大会
10月7日 鶴崎森町支店開店 大分市大字森町499番地-1
 10月19～20日 「ヤングコアフェスタ in BEPPU KYUSHU」開催
 11月15日 みらいしんきん同友会創立20周年記念祝賀会(杉乃井ホテル)

1997
平成9年

2月2日 第1回「ごうるすスケートランド」開催(城島後樂園)
 7月9日 みらいしんきん同友会誌「Do You!」創刊
 8月1日 大分七夕まつり「府内戦紙」に初参加。以降、毎年参加
 8月3日 マイホームローン日曜相談会スタート
 9月1日 みらいしんきん信寿会誌「もも」創刊
 ビッグバン対応委員会発足
 11月1日 「別府ドリームバル国際仮装ダンスコンテスト」初参加
 以降、2000年まで毎年参加
 11月3日 M's CLUB「M's フェスタ in 城島」開催
 12月8日 石垣支店リニューアルオープン

1998
平成10年

1月24日 「吉本お笑い王国inおいた」協賛(別府ビーコンプラザ)
 2月9日 旅ing倶楽部「さっぽろ雪まつりと小樽 函館の旅」出発
 2月21日 歌舞伎大分公演協賛(別府ビーコンプラザ)
 6月 高松右門理事長 南九州信用金庫協会監事に就任
 6月24日 主催イベント「ベイサイドルネサンス」が
 第1回信用金庫社会貢献賞「Face to Face賞」を受賞
6月26日 南大分支店宗方出張所「みらいポケット」開設
 大分市上宗方南1丁目2番1号
 9月5日 第1回未来経営者スクール開催
 12月1日 投資信託窓販取扱開始

1999
平成11年

2月28日 会員大会「MIRAI感謝の集い」(別府ビーコンプラザ)を
 初開催。以降、2019年まで毎年開催
 3月29日 郵便貯金ATMと相互接続によるキャッシュサービス開始
 4月10日 会員特典イベント「岸恵子の世界」初開催
 (iichikoグランシアタ)。翌年まで開催
 7月 3班に分かれて「新SPAIS導入前研修」実施
 7月12日 みらいベンチャーネットワーク発足講演会開催
 10月31日 大分国際車いすマラソン大会ボランティア活動参加
 以降、毎年参加
 11月2日 みらいVネット発会記念講演会開催(別府ビーコンプラザ)
 12月31日 コンピューター2000年問題対策本部設置

2000
平成12年

3月1日 モバイルバンキング取扱開始
 3月6日 デビットカード取扱開始
 5月9日 本店営業部と野口支店で初の母店制スタート
 6月1日 介護保険関連商品サービス取扱開始
 7月16日 別府市海洋海浜清掃奉仕活動実施

長期計画のあゆみ

みらい創造30年計画

至 自
H 9 年 4 月 1 日
H 12 年 3 月 31 日

金融新時代対応30年計画

— みらいチャレンジ2001 —

至 自
H 12 年 3 月 31 日
H 19 年 4 月 1 日

社会の出来事

11月23日 マイクロソフトが日本版
Windows95の販売開始

2月27日 任天堂「ポケットモンスター」を販売開始

**3月28日 玖珠一湯布院IC開通で
大分自動車道全線開通****3月28日 セントポルタ中央町、サン
サン通りオープン**4月20日 キャナルシティ博多開業
**7月7日 大分香りの森博物館が
野津原町にオープン****12月7日 イオン三光ショッピング
センター開業****1月25日 別府で日韓首脳会談
2月6日 関アジ・関サバ商標登録**

4月1日 消費税5%へ

4月1日 大分市が中核都市指定

7月1日 香港が中国に返還

8月19日 大野町・県央空港開港

11月17日 北海道拓殖銀行破綻

11月24日 山一證券自主廃業

12月11日 京都議定書が採択

12月17日 介護保険法制定

2月7日 長野オリンピック開幕

**4月1日 大分県立科学看護大学
開学****5月29日 ゆめタウン中津開業**

6月22日 金融監督庁発足

9月2日 オアシスひろば21開館**11月23日 第1回アルゲリッチ
音楽祭開催**

12月15日 金融再生委員会設立

1月1日 EU統一通貨・ユーロ誕生

**1月16日 別府出身・秋吉敏子氏
国際ジャズ名誉殿堂入り****1月27日 千代大海が大関昇進**

2月12日 日銀がゼロ金利政策決定

2月17日 大分市美術館開館4月8日 金融監督庁が「金融検査
マニュアル」発表**10月2日 第1回県民文化祭開催**12月1日 コンピューターの2000年
問題で全国で厳戒態勢**3月15日 日田市・サッポロビール
新九州工場開業**4月1日 地方分権一括法、民事再
生法、介護保険制度施行4月3日 **立命館アジア太平洋大学**

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

2000

平成12年

- 7月28日 上人支店リニューアルオープン
- 8月 班別に「7つの習慣セミナー」実施
- 9月14日 荘園支店リニューアルオープン
- 9月30日 「スマイルラン・フォー・チルドレン2000」参加
- 10月11日 日経ベンチャー経営セミナー開催
- 11月1日 インターネット仮申込受付開始
- 11月1日 プレプレ80周年記念定積「輝き」取扱開始
- 11月25日 信友会「つなひき大会」開催

2001

平成13年

- 3月1日 保険窓販業務取扱開始
- 4月 確定拠出年金業務取扱開始
- 8月 株式会社エム・アール・シー設立
- 9月1日 みらいポイントカード取扱開始

2002

平成14年

- 3月31日 中津信金・佐賀関信金の事業を譲り受け
- 10月 創立80周年記念式典開催(杉乃井ホール)
- 12月30日 坂ノ市支店新築移転 大分市坂ノ市中央4丁目2-3

2003

平成15年

- 3月24日 中津中央支店移転オープン・中津本部移転
- 中津市豊田町2丁目453-1
- 6月 高松右門理事長 第6回信用金庫社会貢献賞 個人賞受賞
- 創立80周年記念誌「ふるさとの遺産」全国信用金庫PRコンクール特別賞受賞
- 7月7日 野口支店を野口出張所に変更
- 9月1日 豊岡支店を日出支店に統合
- 11月4日 神崎出張所を坂ノ市支店に統合
- 春木支店を春木出張所に変更

2004

平成16年

- 2月2日 公設市場支店を亀川支店に統合
- 3月18日 大分県警より「ことも連絡所・連絡車」指定
- 6月 高松右門理事長 南九州信用金庫協会監事に就任
- 6月1日 みらいしんきん同友会ホームページ「e-DoYou」開設
- 11月1日 高松右門理事長が別府商工会議所会頭就任
- ※2008年10月31日まで

2005

平成17年

- 4月1日 個人情報保護宣言(プライバシーポリシー)公表
- 7月19日 大幡支店新築移転オープン 中津市大幡法705-1
- 11月3日 高松右門理事長 黄綬褒章授与

2006

平成18年

- 3月29日 「みらい創業塾」開講
- 6月 高松右門理事長 南九州信用金庫協会監事に就任
- 7月10日 第九代理事長 原好信就任 会長 高松右門就任
- 7月 理事長交代に伴うIR実施(22日 別府・25日大分・29日県北)
- 11月 みらいしんきん同友会創立30周年式典(杉乃井ホール)

2007

平成19年

- 2月20日 「みらいビジネス交流会2007」開催(別府ビーコンプラザ)
- 6月 第10回信用金庫社会貢献賞「特別賞」受賞
- 大分県内金融機関初のAED(自動体外式除細動器)設置
- 7月20日 「みらいビジネスローン」取扱開始
- 11月1日 創立80周年記念事業「油屋熊八ブロンズ像」寄贈式

2008

平成20年

- 2月6日 「みらいビジネス交流会2008」開催(別府ビーコンプラザ)
- 3月3日 亀川支店 住所移転 別府市亀川浜田町2番3号

金融パラダイムシフト3カ年計画

自 H12 年 4 月 1 日
至 H15 年 3 月 31 日

2 & 3 フラン

自 H15 年 4 月 1 日
至 H20 年 3 月 31 日

開学

- 6月1日 大規模小売店舗立地法施行
- 7月1日 金融監督庁が金融庁へ改組
- 7月2日 田ノ浦ビーチオープン
- 7月19日 二千円札発行
- 11月1日 別府-福岡空港間に直通高速バス運行開始
- 12月1日 BSデジタル放送開始
- 12月2日 トキハわさだタウン開業

5月24日 ビッグアイ完成

- 9月11日 米国で同時多発テロ
- 10月10日 NHK「21世紀に残したい日本の風景」で別府湯けむり第2位

- 4月1日 定期性預金ペイオフ解禁
- 6月 日韓共同開催サッカーW杯
- 12月1日 白坂バイパス無料開放

- 1月6日 金融機関本人確認法施行
- 3月20日 イラク戦争勃発
- 3月21日 大分トリニータJ1初参戦
- 4月1日 豊の国ハイパーネットワーク運用開始
- 4月1日 SARSが新感染症指定
- 10月1日 宇宙航空研究開発機構が発足
- 鳥インフルエンザが発症

- 4月1日 「大分マリーンパレス水族館」が「うみたまご」としてリニューアルオープン
- 10月23日 新潟中越地震発生
- 11月1日 新紙幣発行
- 11月4日 ダイハツ中津工場操業

- 2月16日 京都議定書発効
- 4月25日 JR 福知山線脱線事故
- 平成の大合併が進む

- 1月23日 日本郵政株式会社発足
- 6月14日 金融商品取引法施行
- 10月27日 別府競輪場がリニューアルオープン
- 10月30日 九重「夢」大吊橋開通

- 5月18日 国民投票法成立
- 消えた年金記録問題が発覚
- 10月2日 別府市民球場落成式
- 11月29日 ゆめタウン別府開業
- 12月 米・サブプライム問題

- 7月7日 G8洞爺湖サミット開催
- 7月11日 日本でiPhone発売開始

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

2008

平成20年

- 6月 原好信理事長 全国信用金庫協会理事に就任
6月 原好信理事長 南九州信用金庫協会副会長に就任
6月16日 石垣支店を新築オープン
7月10日 高松右門会長退任
7月22日 事務センターを石垣支店内に新築移転
8月 営業店のインターネット利用開放
10月 「大分県安全・安心まちづくり県民大会」で
大分県防犯協会会長・大分県警察本部長連名表彰を受賞
12月1日 吉富出張所を中津中央支店に統合

2009

平成21年

- 2月 「暮らし安心」ネットワーク運動開始
大分本部(営業推進部・経営監査室)を別府本部に移転
2月23日 浜脇出張所を南支店、富士見出張所を石垣支店に統合
6月 クールビズ導入
10月 がん保険(アフラック)取扱開始
12月 ウォームビズ導入

2010

平成22年

- 2月1日 「金融円滑化管理方針」「金融円滑化管理規程」制定
4月16日 業務改善命令
4月28日 生保窓販「アフラックの夢みることも」の学資保険取扱開始
6月1日 新イメージキャラクター「みらっこ」誕生
イメージソング「MI・RA・I」発表
6月25日 第十代理事長 関啓二就任 原好信理事長退任
8月5日 「経営課題解決研究会」発会
8月9日 「10年後のみらいしんきんを考えるプロジェクト
みらいプロジェクト33」発足
8月11日 営業推進体制の課題解決プロジェクト発足
10月7日 電動スクーター導入
11月8日 「カーボンオフセット通帳」「みらっこ通帳」取扱開始
12月 大地みらい信金との交流開始

2011

平成23年

- 10月31日 「大規模地震に係る業務継続計画」制定
11月 みらいしんきん同友会発足35周年記念式典

2012

平成24年

- 1月31日 宝くじ販売および当せん金支払い業務廃止
2月12日 「他金庫通帳記帳サービス」開始
6月11日 創立90周年記念旅行「感動の北海道 知床半島、納沙布岬
と釧路湿原の旅」出発(全5班)
8月1日 新営業支援システム運用開始
8月3日 大分七夕まつり「第28回府内戦紙」で1等賞受賞
8月18日 創立90周年記念事業「みらいこともスクール」開催
9月3日 「しんきん東日本大震災ことも応援定期積金」取扱開始
10月 エリア制を主体とした営業体制復活
10月15日 みらいしんきん同友会設立35周年記念講演会
(手嶋龍一氏・別府ビーコンプラザ)
11月6日 認知症サポーター取得
11月12日 劇団「わらび座」東日本大震災復興支援ミュージカル
「稲穂堂物語～あなたと生きる街～」開催

2013

平成25年

- 2月1日 「黒田官兵衛記念定期預金」取扱開始
4月9日 「融資統合システム研究」プロジェクト発足
5月17日 業務改善命令解除
8月1日 「しんきん東日本大震災ことも応援定期積金」取扱開始
「教育カードローン」取扱開始

ミッションポッシブル3カ年計画

至 自
H 20
23 年 4
年 月 1
3 日 日

絆の強化3カ年計画

至 自
H 23
26 年 4
年 月 1
3 日 日

- 8月8日 北京オリンピック開催
9月10日 2巡目・大分国体開催
9月15日 リーマンショック
**11月1日 大分トリニータがナビス
コカップで優勝**
12月10日 小林誠氏、益川敏英氏、
下村脩氏、南部陽一郎
氏の4人がノーベル賞
受賞

- 4月11日 第1回別府現代芸術
フェスティバル「混浴温
泉世界」開催**

- 5月21日 裁判員裁判制度開始
9月 日本航空経営危機表面化
11月 新型インフルエンザ猛威

- 3月26日 東九州龍谷高が春高バ
レーで史上初のV3**

- 3月28日 地獄蒸し工房鉄輪開業**
6月13日 小惑星探査機「はやぶ
さ」が地球に帰還

- 7月24日 地上デジタルTV完全
移行

- 9月7日 沖縄県尖閣諸島で中国
漁船衝突事件

- 9月15日 円高で日銀が6年ぶり
に市場介入

- 10月5日 ゼロ金利政策復活
中国が名目GDPで世界2位へ

- 3月11日 東日本大震災

- 4月2日 つくみイルカ島開業**

- 2月1日 別大国道6車線化が完了**

- 3月12日 世界人口が70億人突破

- 3月17日 大分駅が全線高架開業**

- 4月22日 亀川駅東口駅前広場完成**

- 5月12日 東京スカイツリー開業

- 6月15日 「別府の湯けむり・温泉
地」重要文化的景観選定**

- 7月11日 九州北部豪雨**

- 7月24日 欧州債務問題でユーロ
急落

- 8月10日 民主党政権下で消費増
税法が成立

- 10月8日 山中伸弥氏、ノーベル
生理学・医学賞受賞

- 3月15日 TPP協定交渉参加表明

- 3月21日 「別府湾岸・国東半島
海への道」が国交省の
日本風景街道に指定**

- 6月14日 アベノミクス始動

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

2013
平成25年

- 8月29日 みらいビジネス交流会
「第1回しんきん個別商談会 in おおいた」開催
- 11月18日 **今津支店を如水支店に統合**
せきしん支店を坂ノ市支店に統合
- 12月 第33回信用金庫PRコンクールカレンダー部門最優秀賞

2014
平成26年

- 4月 大分県中小企業診断士協会と経営改善センター事業に関する業務提携締結
- 4月18日 「契約書作成支援システム」一部運用開始
- 5月 大分県信用金庫協会、大分県内3信用金庫、商工組合中央金庫大分支店と業務協力に関する覚書締結
- 7月1日 懸賞品付定期預金「ニッポンの贈りもの～大分の味も満載～」取扱開始
- 9月4日 「みらいブランドプロジェクト」発足
- 11月 大分県下信金統一「マイカーローン」キャンペーン実施
- 11月17日 「沸く沸く定期預金～おんせん県おおいた応援企画II」取扱開始

2015
平成27年

- 6月1日 「沸く沸く定期預金～おんせん県おおいた応援企画III」取扱開始
- 7月1日 『しんきんの絆』復興応援定期預金」取扱開始
- 7月20日 「みらいしんきん杯わくわくドリーム将棋大会」開催。以降、毎年開催
- 11月 大分県中小企業家同友会と業務提携に関する覚書締結
- 11月 別府市、宇佐市と地方創生に関する包括連携協定締結
- 12月 大分市と地方創生に関する包括連携協定を締結

2016
平成28年

- 1月 中津市と地方創生に関する包括連携協定を締結
- 2月 豊後高田市、由布市、日出町と地方創生に関する包括連携協定締結
- 2月1日 「みらっこの“ドリー夢”定期預金」取扱開始
- 2月15日 北九州・大分・宮崎の8信金合同企画「東九州自動車道開通記念定期預金」取扱開始
- 3月 学校法人別府大学と連携に関する協定を締結
- 3月 別府竹製品協同組合と業務提携に関する覚書締結
- 4月1日 「女性の活躍推進に向けた行動計画」公表
- 5月11日 全店に「創業支援窓口」を設置
- 5月16日 **境川出張所内に「みらいローンプラザ別府」開設**
- 5月30日 別府市及び由布市に平成28年熊本地震支援金贈呈
- 6月6日 **向原支店新築移転オープン** 由布市挾間町挾間572-1
- 6月27日 大分県よろず支援拠点と合同で復興支援相談会開催
- 7月25日 **鉄輪支店新築オープン**
- 9月24～27日 「留学生ベンチャーサミット」開催(みらいホール)
- 10月3日 「がんばろう大分! おおいた応援定期預金」取扱開始
- 11月14日 **春木出張所を上人支店に店舗統合**

2017
平成29年

- 1月6日 別府市と「地域住民異変情報等の連絡(地域見守り隊)に関する協定」締結
- 1月24日 「日出町認知症高齢者等SOSネットワーク事業」開始
- 1月31日 大分市・大分市特養協議会と「大分あんしんみまもりネットワークに関する協定」を締結
- 2月15日 みらいしんきん同友会設立40周年記念講演会開催(長谷川幸洋氏・ホルトホール大分)
- 4月3日 「湯～園地計画応援しんきんCan!定期預金」取扱開始

第2次絆の強化3カ年計画

至 自
H 26
29 年
年 3 月
31 日 1 日

- 6月30日 昭和通り歩道橋撤去
- 7月2日 大分駅南にホルトホール大分、大分いこいの道開設
- 7月23日 TPP交渉に日本初参加
- 12月6日 特定秘密保護法成立

- 1月5日 NHK大河「軍師官兵衛」放映開始
- 4月1日 消費税8%へ引き上げ
- 7月1日 集団的自衛権行使容認
- 8月20日 広島土砂災害
- 11月1日 「OITAサイクルフェス」開催
- 11月18日 消費税10%引き上げ延期を表明

- インバウンド客急増
- 3月21日 東九州自動車道の県内区間が全線開通
- 4月16日 JRおおいたシティ開業
- 4月24日 大分県立美術館開館
- 8月14日 戦後70年で安倍首相談話
- 9月19日 安全保障関連法成立

- 1月1日 マイナンバー制度開始
- 2月16日 日銀がマイナス金利を初導入
- 3月26日 北海道新幹線開業
- 4月1日 電力小売が完全自由化
- 4月1日 別府市公会堂がリニューアルオープン
- 4月14日 熊本大分地震
- 5月26日 伊勢志摩サミット開催
- 6月23日 英国がEU離脱決定
- 7月22日 ポケモンGO配信開始。全世界で人気
- 7月26日 別府市亀川の亀陽泉がリニューアル
- 8月8日 天皇陛下が生前退位の意向示唆
- 11月4日 地球温暖化対策でパリ協定発効
- 11月5日 別府ONSENアカデミア開催

- 1月19日 東芝の経営危機表面化
- 1月20日 米・TPP離脱
- 1月26日 大分市で「エンジン01文化戦略会議オープンカレッジin大分」開催
- 6月26日 「テロ等準備罪」を新設した改正組織犯罪処罰法が成立

当金庫の出来事

長期計画のあゆみ

社会の出来事

2017
平成29年

- 5月14日 みらいHula部「第1回フラフェスティバル in別府」開催
7月11日 大分労働局と働き方改革等の推進目的に関する包括連携に関する協定書締結
8月9日 「女性起業家地域カンファレンス in Beppu」開催(みらいホール)
9月25～28日 「留学生スタートアップ支援事業集中セミナー」開催(みらいホール)
9月29日 大分大学と「地域イノベーション研究会」発足
11月14日 日出支店新築移転オープン 速見郡日出町3189-1

2018
平成30年

- 1月25日 MIRAI感謝の集い・劇団わらび座「ミュージカルKINJIRO!」開催(ホルトホール大分)
2月26日 中央市場出張所リニューアルオープン
3月20日 大分大学社会イノベーションフォーラムに参加
4月29日 関啓二理事長 旭日双光章授与
6月1日 「しんきんかん!定期預金2018」取扱開始
6月12日 LINEアカウント開設
6月27日 第十一代理事長 森田展弘就任 関啓二理事長退任
7月11日 「しんきんかん災害復旧ローン」取扱開始
11月1日 株式会社OrigamiとQRコード決済提供の業務提携締結
12月13日 大分県と「大分県内におけるキャッシュレス決済の推進に関する協定」締結

2019
平成31年
令和元年

- 4月1日 「しんきんかん!定期預金2019」「定期預金プレミアム口座・トクっこ」取扱開始
5月10日 次世代育成支援認定マーク「くるみん」認定
6月3日 野口、扇山、境川、中央市場各出張所の窓口業務営業時間変更(9時～12時、13時～15時)
7月23日 テレビ会議システム導入
11月11日 津留支店を東大分支店に店舗統合

2020
令和2年

- 1月6日 「後見制度支援預金」取扱開始
2月25日 「新型コロナウイルスに関する経営相談窓口」設置
2月26日 日本財団「わがまち基金」地域創生支援スキーム「みらいお宝発掘プロジェクト」取り組み開始
2月28日 「新型コロナウイルス感染症の影響に対する緊急対応融資」取扱開始
3月21日 新型コロナウイルスに関する休日相談ダイヤル設置
4月1日 「しんきんかん!定期預金2020」取扱開始
4月20日 「おおいた女性活躍推進事業者」で令和元年度表彰企業
5月4～6日 ゴールデンウィーク期間中の新型コロナウイルス感染症対応相談窓口を各地区主要12店舗に設置
6月20日 「#みらいエール飯」開催
8月3日 豪雨被災の湯布院町湯平自治区へ支援物資等を贈呈
9月1日 「みらいしんきんSDGs宣言」制定
9月 大分県内6市1町へ「コロナ対策応援金」贈呈
10月9日 大分県「おおいた働き方改革推進優良企業」を受賞
11月17日 タッチパネル用抗ウイルス・抗菌フィルムをATMと両替機に導入
11月24日 新本店ビル建て替えに伴いトキハ別府店5階に本部移転
12月14日 本店東側駐車場に本店営業部仮店舗を移転

2021
令和3年

- 3月8日 境川出張所を石垣支店へ店舗統合
4月1日 プレ100周年「みらいSDGs定期預金」取扱開始

第3次絆の強化3カ年計画

至 自
R 29年
2 年 4月
年 3月 1日
3月 31日

- 7月5日 九州北部豪雨で中津市が災害救助法適用
7月21日 大相撲横綱・白鵬が通算最多の1,048勝
7月29日 ラクテンチで「別府湯～園地」開催
9月以降 日産自動車、神戸製鋼所、スバル、三菱マテリアル、東レ等で不正発覚
六郷満山開山1300年。国東半島や宇佐神宮で各種行事開催
1月14日 大分市・宗麟大橋開通
4月11日 耶馬溪で土砂災害
6月29日 働き方改革関連法成立
7月31日 日銀が大規模な金融緩和政策を修正
8月15日 尾畠春夫氏、山口県の行方不明男児を発見
10月6日 国民文化祭「大分大茶会」開催
12月8日 改正出入国管理法成立
5月1日 令和へ改元
9月7日 祝祭の広場完成式典
9月20日 ラグビーW杯開幕
10月1日 消費税率10%へ軽減税率導入
11月20日 安倍晋三総理の通算在職日数が歴代最長へ
1月15日 国内初の新型コロナウイルス感染者確認
3月30日 東京オリンピック開催延期を発表
4月1日 大分空港がアジア初の水平型宇宙港に指定
4月7日 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて緊急事態宣言を発令
※コロナ禍の影響でイベント等の開催中止・延期が続く。テレワーク、リモート会議促進へ
※別府市亀川の八幡電門神社が漫画「鬼滅の刃」の聖地とされ、聖地巡礼客で賑わう
7月1日 レジ袋有料化スタート
7月22日 GoTo トラベルキャンペーン開始
10月1日 東京証券取引所で大規模システム障害が発生
2月17日 新型コロナウイルスのワクチン接種開始

2021 - 2023 / R3 - R5

2021

令和3年

- 4月16日 クラウドファンディング業者「マクアケ」及び「CAMP FIRE」と契約締結
- 4月23日 別府市内地区温泉へアルコールジェル寄贈
- 6月14日 **野口出張所を本店営業部へ店舗統合**
- 6月15日 信用金庫法施行70周年記念で県下3金庫合同による「お客様感謝デー」開催
- 7月1日 「みらいローンプラザ別府」を「みらいハートプラザ別府」に名称変更
- 7月1日 「WEBフリーローン」取扱開始
- 7月2日 大分県内6市1町の「子ども食堂」へお米等の食材寄贈
- 7月14日 株式会社みらいワークスと業務提携契約締結
- 8月11日 「イクボス宣言」登録
- 8月16日 「第45回全国育樹祭」に参加
- 9月10日 新本店ビル起工式
- 10月18日 **府内中央支店を大分支店内へ店舗内店舗方式で移転**
- 11月15日 **高田支店を宇佐中央支店内へ店舗内店舗方式で移転**
- 11月15日 大分県と「地方創生に係る包括連携協定書」締結
- 11月15日 日本財団「わがまち基金」地域創生支援スキーム「おおいた県域内観光活性化パッケージプロジェクト」取り組み開始
- 12月1日 「#みらっこ旅」インスタグラムフォトコンテスト実施

2022

令和4年

- 1月14日 公益財団法人産業雇用安定センターと「中小企業支援に関する連携協定」締結
- 4月1日 **旧府内中央支店跡地に「みらいハートプラザ大分」開設**
- 4月4日 リ・バース60「住宅金融支援機構の住宅融資保険付きリバースモーゲージ型住宅ローン」取扱開始
- 4月12日 **創立100周年記念日**
- 6月15日 「信用金庫の日」に県下3金庫合同で「お客様感謝デー」を開催し、花と野菜の種を無料配布。
- 7月13日 大分県地方創生包括連携協定に基づき「OITAえんむす部結婚おうえん団」「おおいた子育て応援パスポート」に登録
- 7月17日 大分県社会福祉協議会を通じて県内6市1町の「子ども食堂」へ寄付金を贈呈
- 10月27日 由布市湯平地区へ台風14号義援金および義援品を寄贈
- 12月1日 **新本店ビル竣工**
- 12月19日 **「本店営業部」「みらいハートプラザ別府」が新築・移転リニューアルオープン**

2023

令和5年

- 3月28日 **新本店ビル グランドオープン**
- 別府市と「災害時における施設等の提供協力に関する協定書」を締結
- 3月31日 「パートナーシップ構築宣言」を公表
- 6月27日 創立101周年記念式典・祝賀会開催
- 7月11日 みらいしんきん同友会設立45周年記念と共催で工藤公康氏の講演会を開催
- 8月1日 大分県地方創生包括連携協定に基づく「おんせん県おおいた おもてなし宣言団体」へ登録
- 10月31日 大分県社会福祉協議会を通じて子ども食堂へ寄付金・食料品を贈呈
- 11月1日 男性職員のネクタイ、女性職員の制服を任意着用へ
- 11月3日 森田展弘理事長 黄綬褒章授与

以上

第1次シンカへの挑戦 3カ年計画

至 自
R6年 3月 1日
R3年 4月 1日

- 2月28日 中津日田道路・耶馬溪道路が一部開通
- 4月1日 春の選抜で明豊高校準優勝
- 4月11日 松山英樹ゴルファーが米マスターズ初優勝
- 4月25日 福島第一原発の汚染水放出計画を発表
- 5月12日 デジタル改革関連法が成立
- 8月10日 九重で山の日記念全国大会開催
- 8月24日 東京オリンピック・パラリンピックを原則無観客で開催。過去最多の58メダル獲得
- 10月1日 大分県が病児保育の広域化・ICT化を開始
- 11月18日 大谷翔平選手が米国大リーグMVP受賞

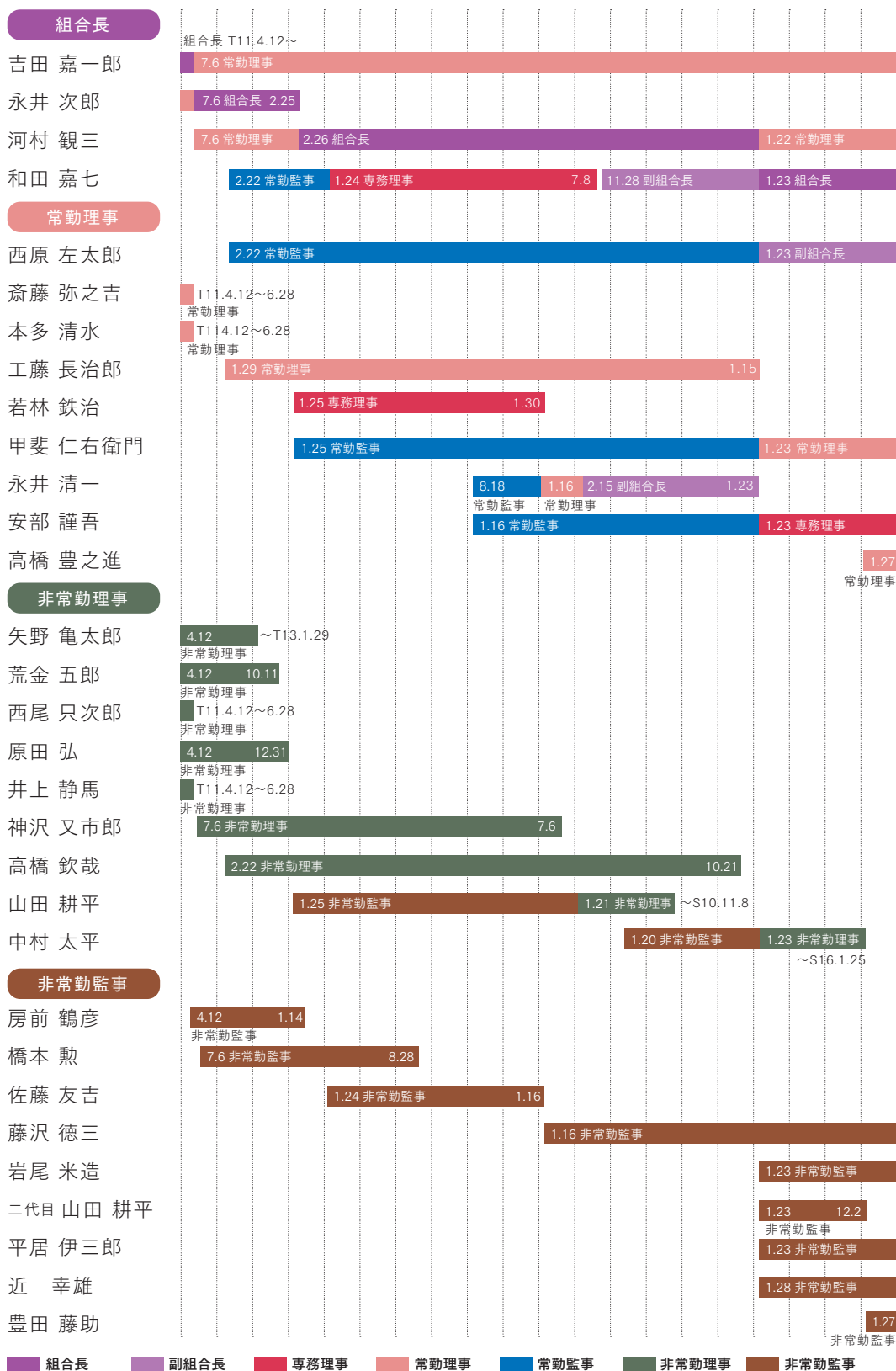
- 2月14日 農水省「つなぐ棚田遺産」で県内10カ所認定
- 2月24日 ロシアがウクライナ侵攻 ※原油・農産物の高騰と円安が重なり値上げラッシュ
- 3月28日 「大分県DX推進戦略」発表
- 5月11日 経済安全保障推進法成立
- 5月22日 「東アジア文化都市 2022大分県」開幕
- 7月8日 安倍晋三総理狙撃事件
- 8月4日 大分七夕まつり3年ぶりに開催。府内戦紙も再開
- 9月8日 エリザベス英女王死去
- 12月「別府竹細工」が地域団体商標に登録

- 1月 チャットGPTが史上最速で1億ユーザー突破
- 1月13日 日本初のLNG燃料フェリー「さんふらわあ くれなゐ」就航開始
- 5月8日 新型コロナウイルス感染症が5類に移行
- 5月19日 広島でG7サミット開催
- 8月25日 復活予定のホーバークラフトが大分港到着
- 10月1日 インボイス制度導入
- 10月11日 将棋の藤井聡太竜王 史上初の全八冠制覇

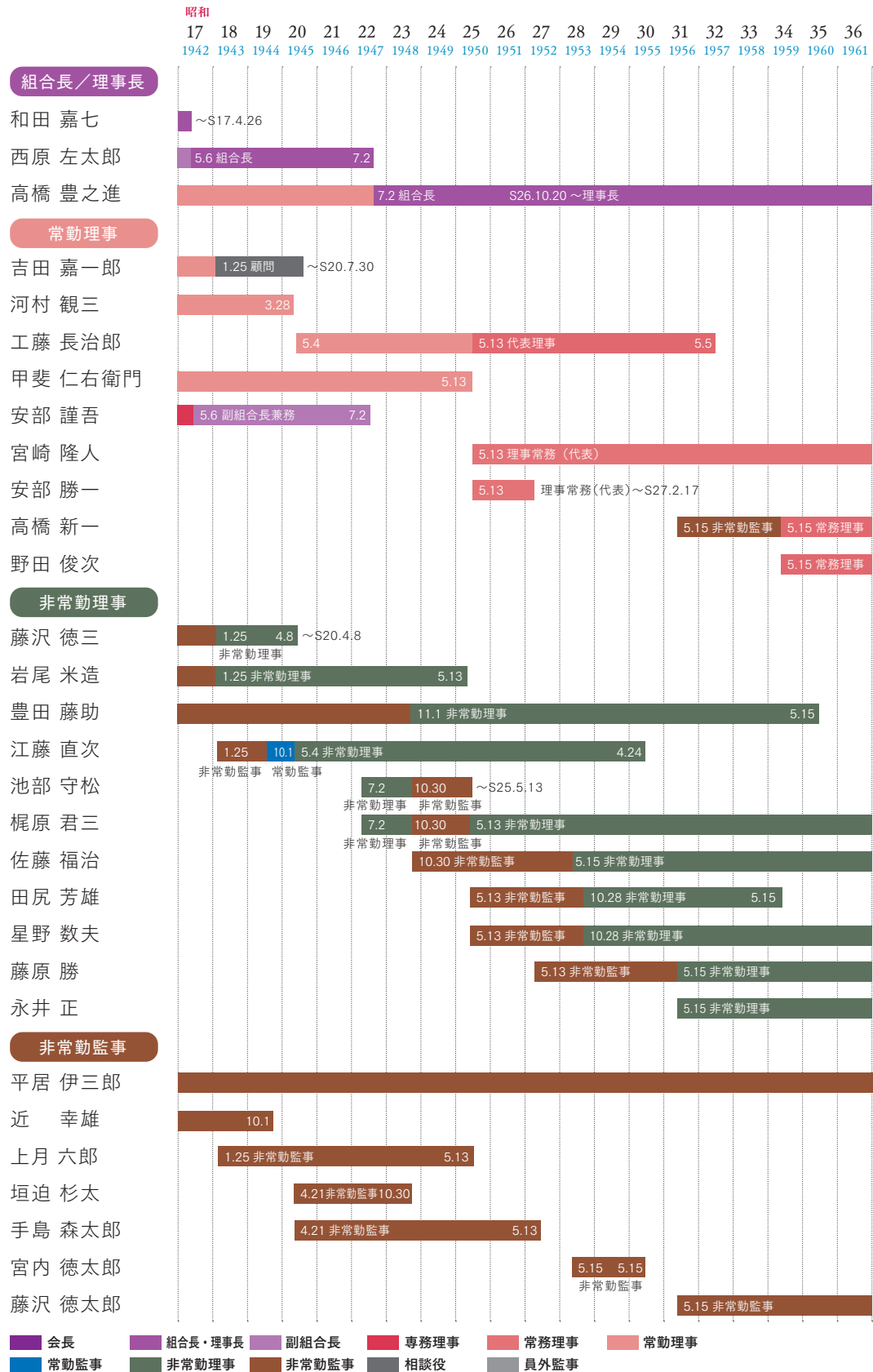
以上

歴代役員在任期間（大正11年～昭和16年／第1期～第20期）

大正 昭和
 11 12 13 14 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
 1922 1923 1924 1925 1926 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935 1936 1937 1938 1939 1940 1941



(昭和17年～昭和36年／第21期～第40期)



組合長／理事長

高橋 新一

常勤理事

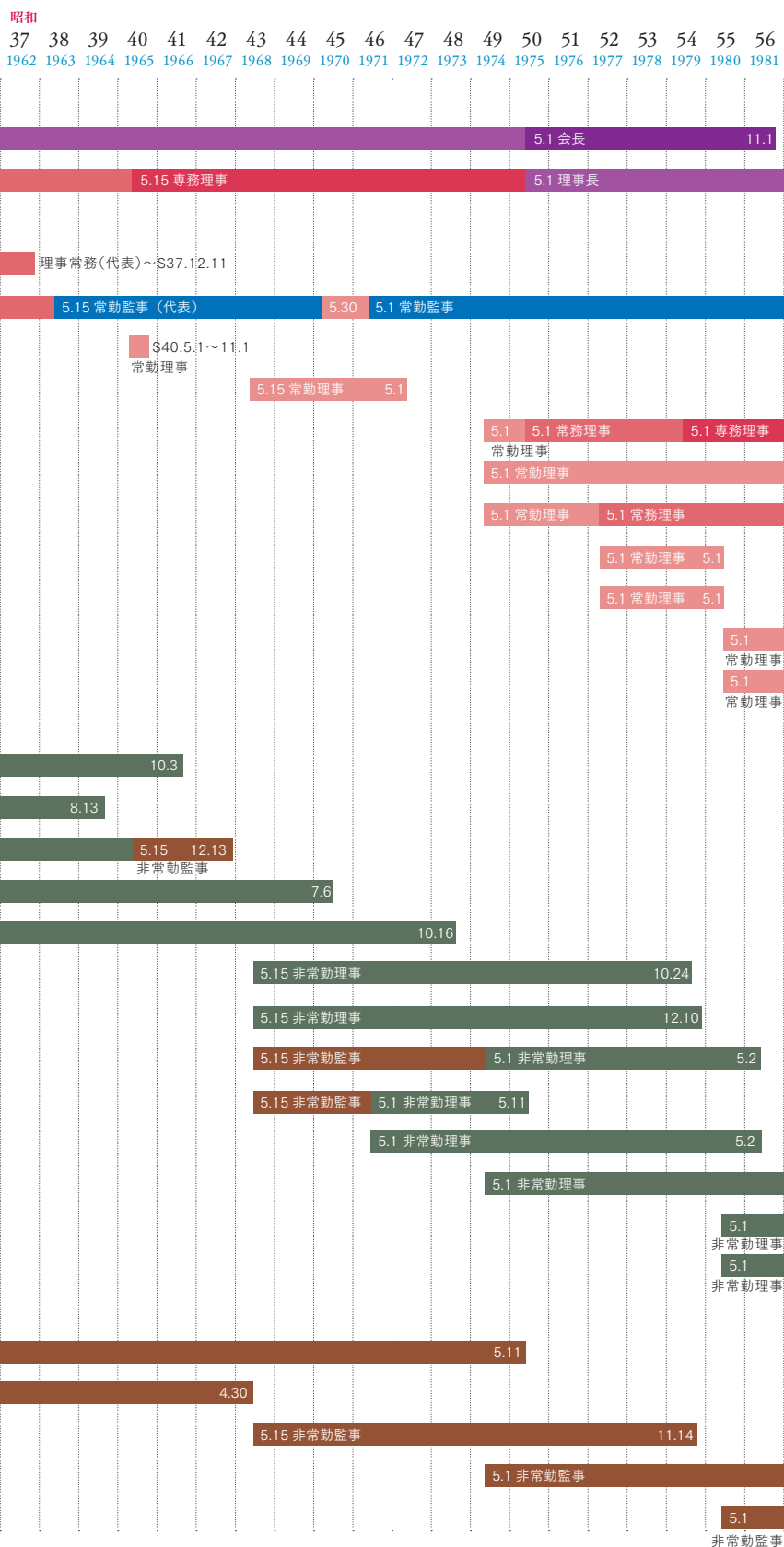
後藤 和夫

非常勤理事

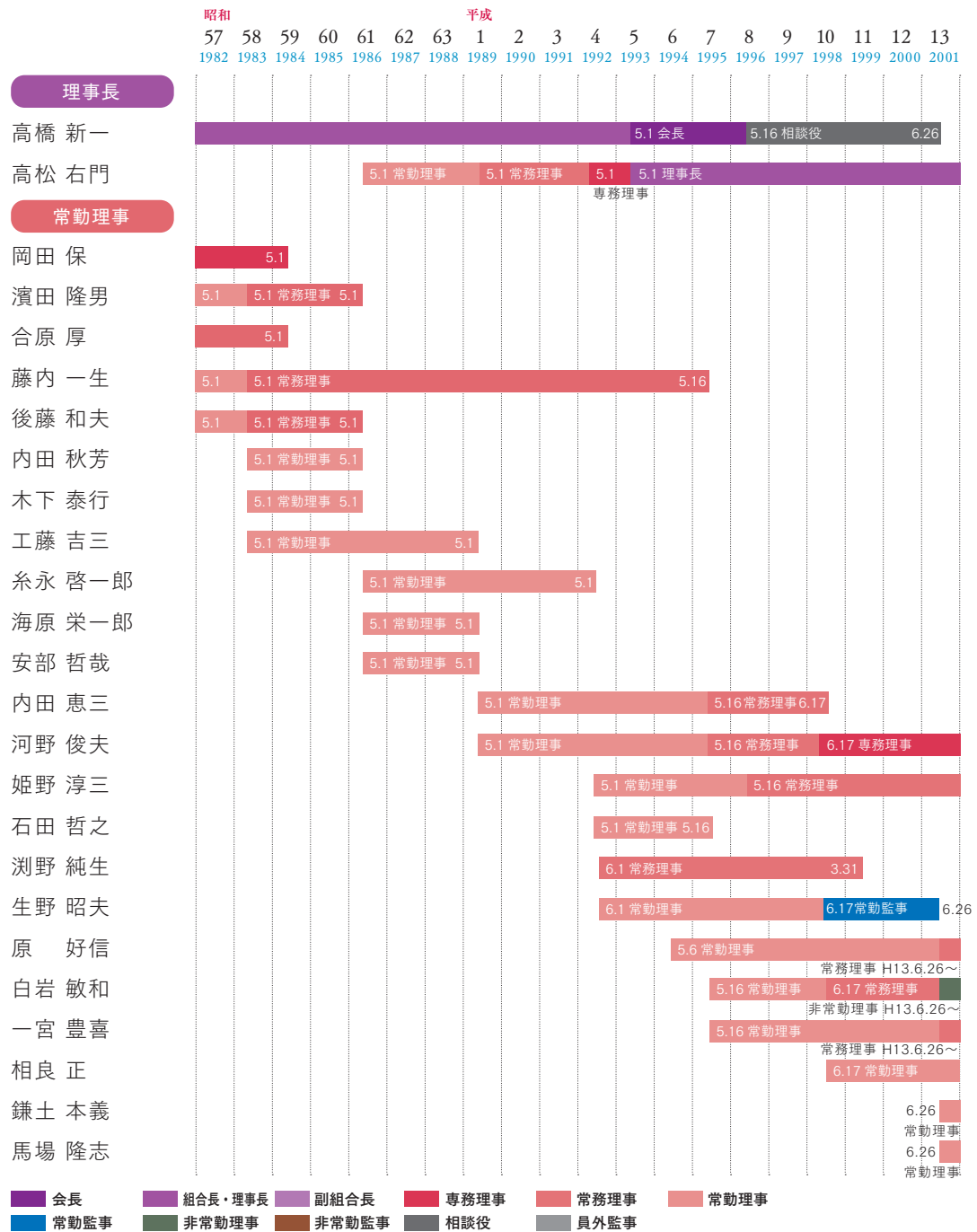
高橋 欽一

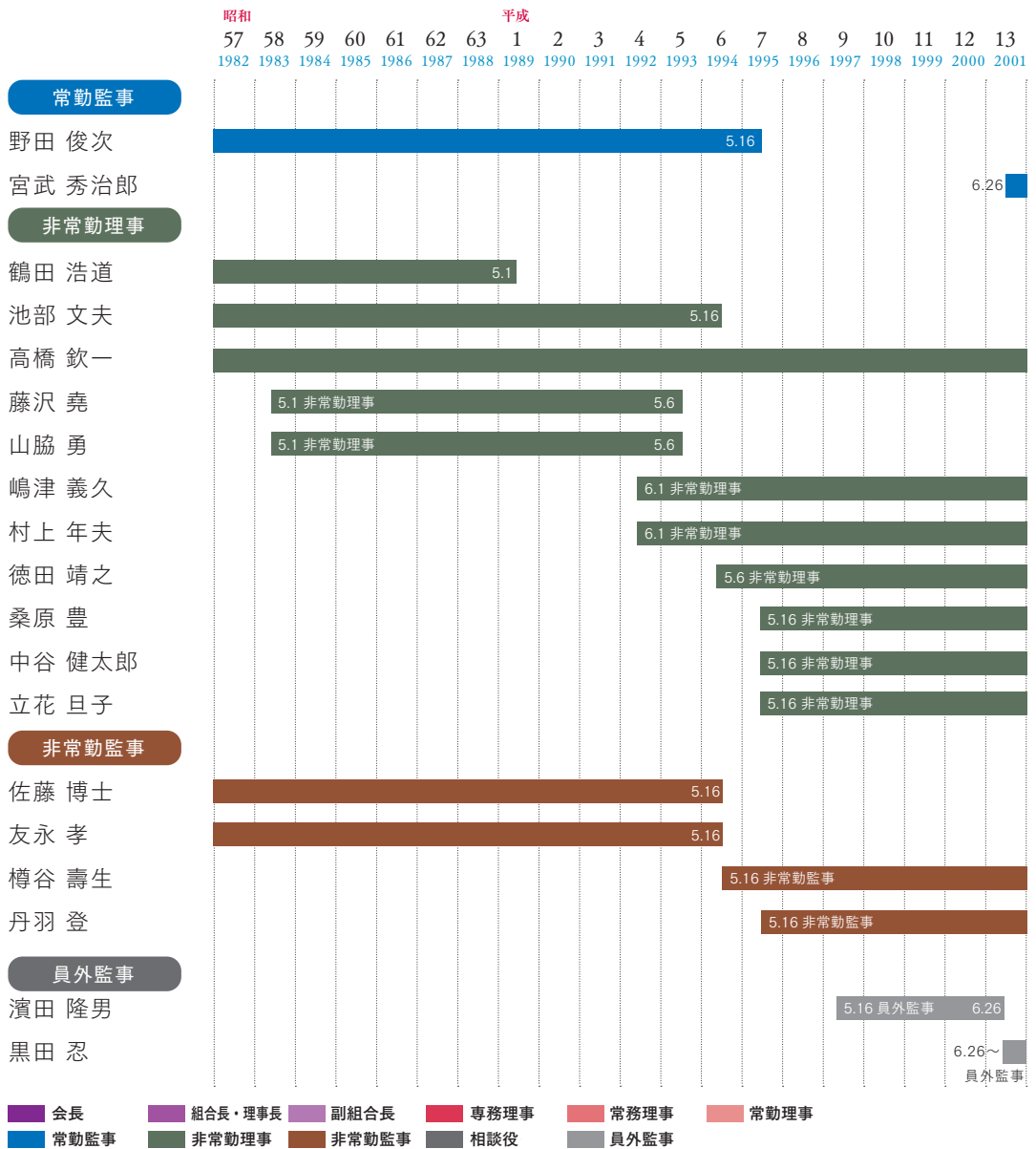
非常勤監事

友永 孝

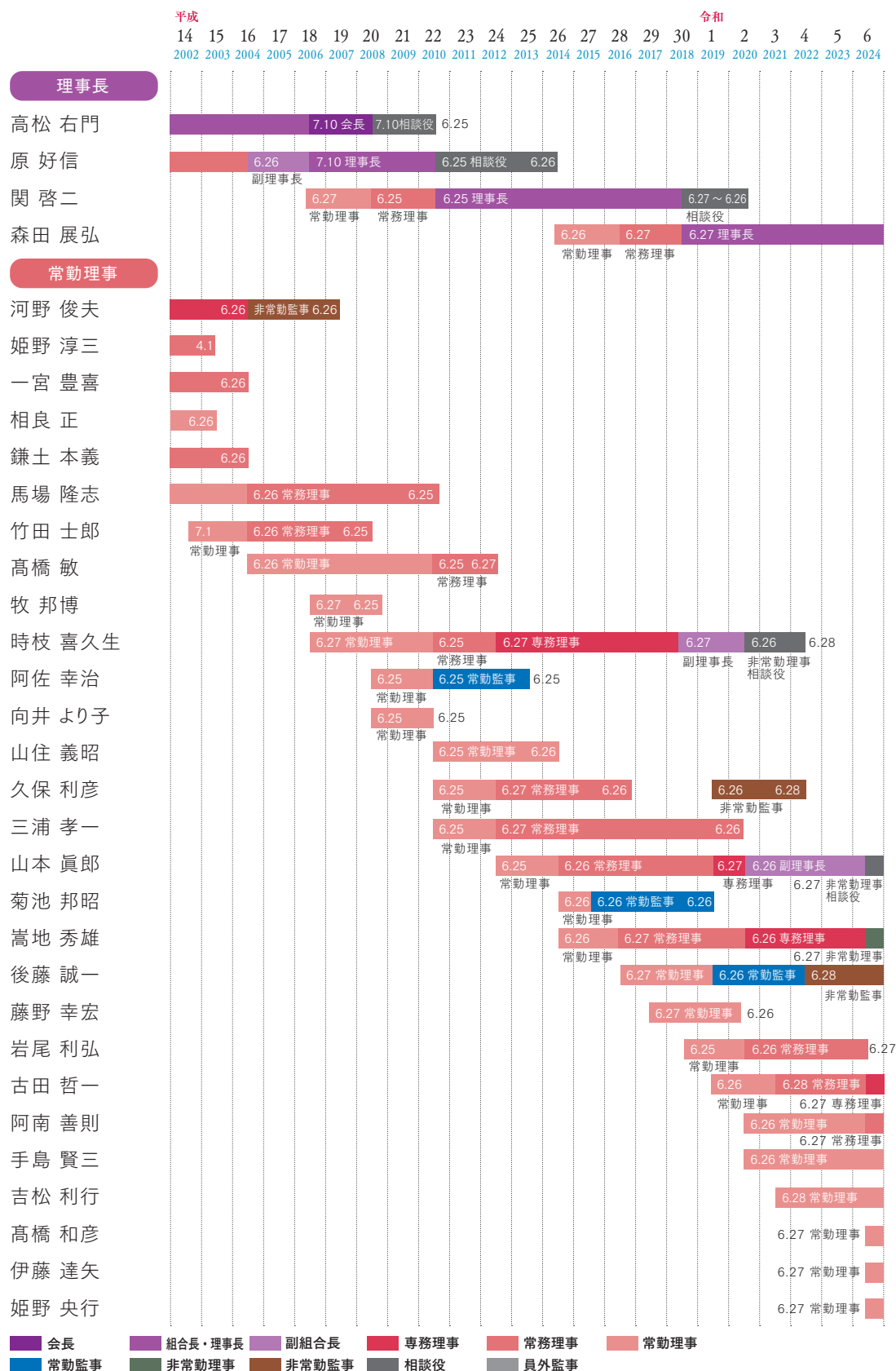


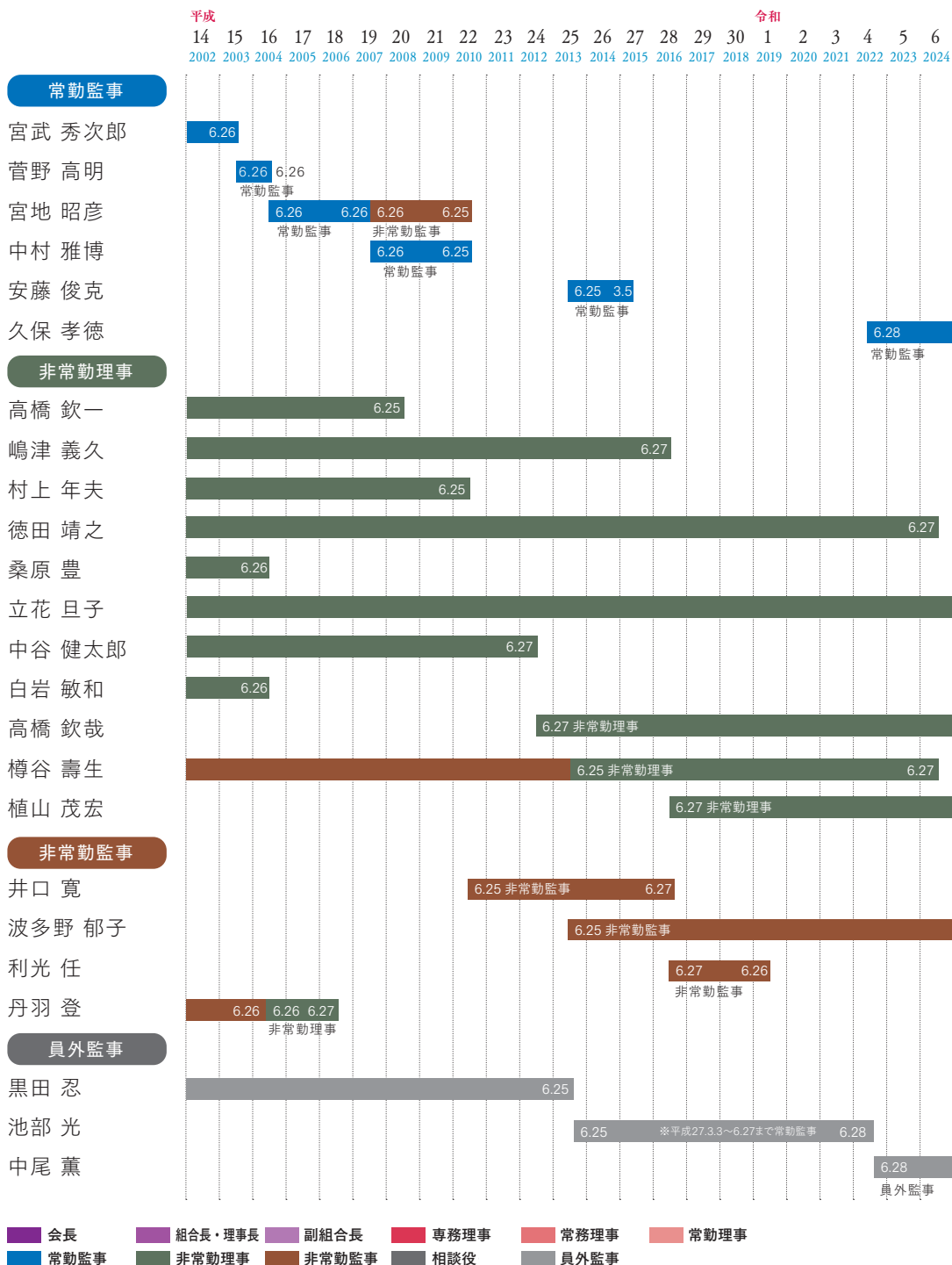
(昭和57年～平成13年／第61期～第80期)





(平成14年～令和6年／第81期～第103期)





歴代営業店長一覧

本店営業部

※昭和39年以前は現・南支店が本店

昭和32年5月～ 十河 浅太郎
昭和34年5月～ 高橋 新一
昭和35年9月～ 宮崎 隆人
昭和36年8月～ 宮崎 光祐
昭和37年9月～ 藤田 舜三
昭和38年2月～ 中島 勤
昭和39年9月～ 合原 厚
昭和40年2月～ 野田 俊次
昭和42年2月～ 合原 厚
昭和43年8月～ 後藤 和男
昭和45年2月～ 内田 秋芳
昭和46年2月～ 合原 厚
昭和50年2月～ 後藤 和男
昭和52年2月～ 長谷尾 正行
昭和56年2月～ 工藤 吉三
昭和61年2月～ 糸永啓一郎
平成元年2月～ 内田 恵三
平成4年2月～ 松隈 陽一
平成6年3月～ 一宮 豊喜
平成11年2月～ 宮地 昭彦
平成13年3月～ 竹田 士郎
平成16年4月～ 牧 邦博
平成18年3月～ 阿佐 幸治
平成22年3月～ 利光 任
平成25年3月～ 森田 展弘
平成27年3月～ 後藤 誠一
平成31年3月～ 阿南 善則
令和4年3月～ 手島 賢三
令和6年4月～ 阿南 亀義

南支店

昭和39年2月17日開店

※令和6年4月から本店営業部と兼務

昭和39年2月～ 中島 勤
昭和40年8月～ 内田 秋芳
昭和44年2月～ 樫山 敬一
昭和45年2月～ 木下 泰行
昭和47年2月～ 工藤 吉三
昭和51年2月～ 藤内 一生
昭和54年4月～ 内田 秋芳
昭和58年4月～ 高松 右門
昭和61年2月～ 黒佐 康二
平成元年2月～ 糸永 政喜
平成4年2月～ 仁科 教博
平成6年3月～ 田原 康彦

平成7年2月～ 平野 公洋
平成9年2月～ 宮武 秀治郎
平成10年3月～ 小林 正則
平成12年4月～ 栗尾 真行
平成13年3月～ 利光 任
平成16年4月～ 桑原 和宏
平成19年3月～ 吉田 正樹
平成22年3月～ 松尾 和博
平成25年3月～ 宮崎 昇
平成27年3月～ 岡本 浩
平成29年3月～ 清田 拓章
令和2年3月～ 大石 正敏
令和5年3月～ 河崎 悦子
令和6年4月～ 阿南 亀義(母店長)

野口支所

昭和17年10月1日開所

※昭和26年9月10日に支店昇格

昭和17年10月～ 亀山 武男

流川支所

昭和19年4月30日開所

※第二次世界大戦終戦直前に閉鎖

昭和19年4月～ 江藤 直次

駅通支店

昭和25年4月1日開店

※昭和39年2月17日統廃合

昭和25年3月～ 宮崎 隆人
昭和35年3月～ 高橋 新一
昭和36年2月～ 合原 厚

野口支店（野口出張所）

昭和26年9月10日開店

※平成15年7月より出張所

※令和3年6月14日統廃合

昭和25年9月～ 越原 敏夫
昭和30年4月～ 遠藤 登
昭和31年2月～ 広石 清二
昭和34年9月～ 宮崎 光祐
昭和35年9月～ 原 興
昭和36年8月～ 木下 泰行
昭和39年2月～ 山田 俊雄
昭和42年1月～ 糸永 啓一郎
昭和44年2月～ 宮崎 光祐

昭和47年3月～ 糸永啓一郎
昭和50年2月～ 樫山 敬一
昭和52年4月～ 内田 秋芳
昭和54年3月～ 山本 哲也
昭和56年2月～ 松隈 陽一
昭和58年4月～ 豊島 英生
昭和60年2月～ 本田 義郎
昭和61年2月～ 朝倉 和正
昭和63年2月～ 西原 光彦
平成元年2月～ 平野 公洋
平成2年2月～ 吉山 雄司
平成5年2月～ 松隈 陽一
平成5年8月～ 東 勝三
平成7年2月～ 黒瀬 正武
平成10年3月～ 石橋喜久男
平成12年4月～ 宮地 昭彦(母店長)
平成13年3月～ 竹田 士郎(母店長)
平成16年4月～ 牧 邦博(母店長)
平成18年3月～ 阿佐 幸治(母店長)
平成22年3月～ 利光 任(母店長)
平成25年3月～ 森田 展弘(母店長)
平成27年3月～ 後藤 誠一(母店長)
平成31年3月～ 阿南 善則(母店長)

鉄輪支店

昭和26年8月4日開店

昭和26年8月～ 大原 勝
昭和34年9月～ 広石 清二
昭和35年9月～ 宮崎 光祐
昭和36年2月～ 村上 一郎
昭和38年8月～ 内田 秋芳
昭和39年2月～ 久保 鉄男
昭和43年2月～ 宮森 智久
昭和45年2月～ 合原 厚
昭和47年2月～ 矢田 次男
昭和49年2月～ 海原 栄一郎
昭和52年4月～ 黒佐 康二
昭和53年4月～ 糸永啓一郎
昭和57年2月～ 黒佐 康二
昭和61年2月～ 姫野 淳三
昭和62年8月～ 相良 正
平成2年2月～ 田原 康彦
平成5年3月～ 太田 尚武
平成7年2月～ 片倉 誠二
平成9年2月～ 衛藤 縣
平成10年3月～ 柚木 義種
平成13年3月～ 栗尾 真行
平成15年2月～ 後藤 康夫

平成 18 年 3 月～ 後藤 誠一
 平成 21 年 3 月～ 岩尾 利弘
 平成 22 年 3 月～ 手島 賢三
 平成 25 年 3 月～ 堀井 壮太
 平成 27 年 3 月～ 桑原 和宏
 平成 29 年 3 月～ 藤原 淳
 平成 31 年 3 月～ 谷 誠
 令和 3 年 3 月～ 酒井 嘉和

亀川支店

昭和27年9月20日開店

昭和 27 年 9 月～ 十河 浅太郎
 昭和 32 年 9 月～ 遠藤 登
 昭和 35 年 9 月～ 中妻 光男
 昭和 36 年 8 月～ 久保 鉄男
 昭和 39 年 1 月～ 木下 泰行
 昭和 44 年 2 月～ 工藤 吉三
 昭和 47 年 2 月～ 内田 秋芳
 昭和 52 年 4 月～ 檜山 敬一
 昭和 55 年 4 月～ 宮森 智久
 昭和 59 年 2 月～ 倉本 安治
 昭和 61 年 2 月～ 甲斐 康弘
 昭和 63 年 2 月～ 鎌土 本義
 平成 2 年 2 月～ 今永 勝英
 平成 5 年 2 月～ 吉山 雄司
 平成 6 年 3 月～ 宮地 昭彦
 平成 9 年 2 月～ 片倉 誠二
 平成 11 年 2 月～ 阿佐 幸治
 平成 14 年 3 月～ 安部 徳之
 平成 16 年 4 月～ 長谷川 誠
 平成 19 年 3 月～ 山上 卓巳
 平成 22 年 3 月～ 宮森 昭尚
 平成 25 年 3 月～ 石津 丈司
 平成 28 年 4 月～ 姫野 央行
 平成 30 年 3 月～ 小林 正和
 令和 3 年 3 月～ 菅田 仁士

山の手支店

昭和34年9月22日開店

※令和6年4月から本店営業部と兼務

昭和 34 年 9 月～ 越原 敏夫
 昭和 36 年 8 月～ 山田 俊雄
 昭和 39 年 1 月～ 宮崎 光祐
 昭和 44 年 2 月～ 安部 哲哉
 昭和 47 年 3 月～ 本田 義郎
 昭和 50 年 2 月～ 長谷尾 正行
 昭和 52 年 4 月～ 石田 哲之

昭和 55 年 4 月～ 仁科 教博
 昭和 58 年 4 月～ 内田 恵三
 昭和 61 年 2 月～ 松隈 陽一
 平成元年 2 月～ 佐々木 省二
 平成 4 年 2 月～ 糸永 政喜
 平成 5 年 2 月～ 金沢 洋志
 平成 7 年 2 月～ 小林 正則
 平成 10 年 3 月～ 佐嶋 浩明
 平成 12 年 4 月～ 山住 義昭
 平成 14 年 3 月～ 井口 寛
 平成 15 年 2 月～ 松本 充弘
 平成 17 年 3 月～ 八坂 克明
 平成 20 年 3 月～ 安藤 俊克
 平成 22 年 3 月～ 橋本 和弘
 平成 25 年 3 月～ 松尾 和博
 平成 28 年 4 月～ 井上 誠司
 平成 30 年 3 月～ 光来出 忠司
 平成 31 年 3 月～ 牧 成秀
 令和 2 年 3 月～ 田村 芳郎
 令和 4 年 3 月～ 鹿子木 敏明
 令和 6 年 4 月～ 阿南 亀義(母店長)

富士見支店 (富士見出張所)

昭和39年4月20日開店

※平成17年3月より出張所
 ※平成21年2月23日統廃合

昭和 39 年 4 月～ 糸永 啓一郎
 昭和 41 年 1 月～ 檜山 敬一
 昭和 44 年 2 月～ 木下 泰行
 昭和 45 年 3 月～ 長谷尾 正行
 昭和 50 年 4 月～ 松隈 陽一
 昭和 53 年 3 月～ 佐々木 省二
 昭和 57 年 2 月～ 衛藤 豊
 昭和 58 年 4 月～ 朝倉 和正
 昭和 61 年 2 月～ 糸永 政喜
 平成元年 2 月～ 太田 尚武
 平成 2 年 2 月～ 平野 公洋
 平成 4 年 2 月～ 武田 恭行
 平成 5 年 2 月～ 阿佐 幸治
 平成 8 年 2 月～ 山縣 正勝
 平成 11 年 2 月～ 安部 徳之
 平成 14 年 3 月～ 五嶋 満雄
 平成 16 年 4 月～ 利光 任
 平成 17 年 3 月～ 利光 任(母店長)
 平成 19 年 3 月～ 橋本 和幸(母店長)

湯布院支店

昭和31年3月1日開店

昭和 31 年 3 月～ 和気 康貞
 昭和 33 年 3 月～ 越原 敏夫
 昭和 34 年 9 月～ 大原 勝
 昭和 35 年 2 月～ 遠藤 登
 昭和 37 年 1 月～ 斉藤 一夫
 昭和 43 年 2 月～ 海原 栄一郎
 昭和 45 年 2 月～ 山田 俊雄
 昭和 49 年 2 月～ 宮森 智久
 昭和 52 年 2 月～ 海原 栄一郎
 昭和 61 年 2 月～ 田原 康彦
 平成 2 年 2 月～ 山本 哲也
 平成 4 年 2 月～ 衛藤 縣
 平成 9 年 2 月～ 宮地 昭彦
 平成 11 年 2 月～ 関 啓二
 平成 14 年 3 月～ 片倉 誠二
 平成 16 年 4 月～ 安部 徳之
 平成 20 年 3 月～ 松尾 正治
 平成 21 年 3 月～ 徳丸 正司
 平成 24 年 3 月～ 後藤 啓夫
 平成 26 年 3 月～ 高橋 和彦
 平成 29 年 3 月～ 牧 裕樹
 平成 31 年 3 月～ 石川 睦
 令和 4 年 3 月～ 堀井 壮太
 令和 6 年 4 月～ 首藤 俊祐

大分支店

昭和41年4月1日開店

※令和3年10月から府内中央支店と兼務

昭和 41 年 4 月～ 合原 厚
 昭和 42 年 2 月～ 藤田 舜三
 昭和 45 年 2 月～ 海原 栄一郎
 昭和 48 年 3 月～ 内田 恵三
 昭和 50 年 3 月～ 黒佐 康二
 昭和 51 年 4 月～ 浜田 隆男
 昭和 53 年 4 月～ 黒佐 康二
 昭和 54 年 3 月～ 本田 義郎
 昭和 56 年 2 月～ 姫野 淳三
 昭和 61 年 2 月～ 仁科 教博
 平成元年 2 月～ 元島 陽一
 平成 5 年 3 月～ 今永 勝英
 平成 7 年 2 月～ 金沢 洋志
 平成 10 年 3 月～ 牧 邦博
 平成 14 年 3 月～ 阿佐 幸治
 平成 18 年 3 月～ 嵩地 秀雄
 平成 21 年 3 月～ 古田 哲一

平成 24 年 3 月～ 五嶋 満雄
平成 26 年 3 月～ 山上 卓巳
平成 28 年 4 月～ 田部 吉夫
平成 30 年 3 月～ 石津 文司
令和 2 年 3 月～ 鳥羽 高広
令和 6 年 4 月～ 細川 浩一

上人支店

昭和43年11月11日開店

昭和 43 年 11 月～ 黒佐 康二
昭和 47 年 2 月～ 宮崎 光祐
昭和 48 年 2 月～ 木下 泰行
昭和 52 年 2 月～ 衛藤 豊
昭和 55 年 4 月～ 石田 哲之
昭和 56 年 2 月～ 本田 義郎
昭和 58 年 4 月～ 山本 哲也
昭和 62 年 2 月～ 佐々木 省二
平成元年 2 月～ 菅野 高明
平成 4 年 2 月～ 朝倉 和正
平成 6 年 4 月～ 上野 美好
平成 7 年 2 月～ 荷宮 司
平成 11 年 2 月～ 高橋 史安
平成 12 年 4 月～ 菊池 邦昭
平成 15 年 2 月～ 木下 正照
平成 16 年 4 月～ 中西 孝次
平成 19 年 3 月～ 桑原 和宏
平成 21 年 3 月～ 山田 恵治
平成 23 年 3 月～ 久保 孝徳
平成 26 年 3 月～ 荒金 敦
平成 29 年 3 月～ 酒井 嘉和
令和 2 年 3 月～ 武宮 真一
令和 4 年 3 月～ 田代 英一郎
令和 4 年 9 月～ 松岡 辰彦
令和 6 年 4 月～ 谷 誠

南大分支店

昭和46年3月8日開店

昭和 46 年 3 月～ 樫山 敬一
昭和 50 年 4 月～ 本田 義郎
昭和 54 年 3 月～ 姫野 淳三
昭和 56 年 2 月～ 早瀬 保
昭和 59 年 2 月～ 宮森 智久
昭和 63 年 2 月～ 本田 義郎
平成 3 年 2 月～ 倉本 安治
平成 5 年 2 月～ 矢野 正二郎
平成 9 年 2 月～ 栗尾 真行

平成 11 年 2 月～ 荷宮 司
平成 14 年 3 月～ 衛藤 建夫
平成 17 年 3 月～ 森田 展弘
平成 19 年 3 月～ 渡辺 政雄
平成 22 年 3 月～ 来嶋 俊弘
平成 25 年 3 月～ 手島 賢三
平成 28 年 4 月～ 尾藤 繁
平成 31 年 3 月～ 佐藤 隆一
令和 3 年 3 月～ 須田 真統
令和 6 年 4 月～ 鹿子木 敏明

荘園支店

昭和49年4月1日開店

昭和 49 年 4 月～ 衛藤 豊
昭和 52 年 4 月～ 宮森 智久
昭和 55 年 4 月～ 河野 俊夫
昭和 58 年 5 月～ 仁科 教博
昭和 61 年 2 月～ 本田 義郎
昭和 63 年 2 月～ 倉本 安治
平成 3 年 2 月～ 甲斐 康弘
平成 5 年 4 月～ 山縣 正勝
平成 8 年 3 月～ 菊池 邦昭
平成 11 年 2 月～ 久保 利彦
平成 14 年 3 月～ 三浦 孝一
平成 15 年 2 月～ 後藤 誠一
平成 18 年 3 月～ 岩尾 利弘
平成 21 年 3 月～ 小坂 吉徳
平成 24 年 3 月～ 藤野 正博
平成 26 年 3 月～ 須田 真統
平成 28 年 4 月～ 赤澤 智視
平成 30 年 3 月～ 井上 浩一
令和 2 年 3 月～ 清田 拓章
令和 5 年 3 月～ 岩本 博史

石垣支店

昭和53年8月7日開店

昭和 53 年 8 月～ 松隈 陽一
昭和 56 年 2 月～ 東 勝三
昭和 58 年 4 月～ 原 好信
昭和 62 年 2 月～ 一宮 豊喜
平成 2 年 2 月～ 金沢 洋志
平成 5 年 2 月～ 田原 康彦
平成 6 年 3 月～ 中村 雅博
平成 9 年 2 月～ 矢野 正二郎
平成 12 年 4 月～ 嵩地 秀雄
平成 16 年 4 月～ 利光 任

平成 19 年 3 月～ 橋本 和幸
平成 21 年 3 月～ 後藤 康夫
平成 24 年 3 月～ 阿南 善則
平成 27 年 3 月～ 古田 哲一
平成 28 年 4 月～ 足立 栄治
平成 30 年 3 月～ 須田 真統
令和 3 年 3 月～ 田中 真明
令和 6 年 4 月～ 帆足 杏一

鶴見支店

昭和55年8月4日開店

昭和 55 年 8 月～ 薬師寺良一
昭和 57 年 8 月～ 糸永 政喜
昭和 61 年 2 月～ 牧 邦博
平成元年 4 月～ 栗尾 真行
平成 3 年 2 月～ 宮地 昭彦
平成 6 年 3 月～ 高橋 敏
平成 7 年 2 月～ 安部 政幸
平成 10 年 3 月～ 衛藤 建夫
平成 12 年 4 月～ 山本 眞郎
平成 15 年 2 月～ 宮本 和明
平成 16 年 4 月～ 五嶋 満雄
平成 18 年 3 月～ 後藤 康夫
平成 21 年 3 月～ 桑原 和宏
平成 22 年 3 月～ 石津 文司
平成 25 年 3 月～ 姫野 央行
平成 28 年 4 月～ 須田 真統
平成 30 年 3 月～ 末永 和人
令和 2 年 3 月～ 藤原 淳
令和 3 年 3 月～ 細川 浩一
令和 6 年 4 月～ 井上 浩一

豊岡支店

昭和56年12月14日開店

※平成15年9月1日統廃合

昭和 56 年 12 月～ 倉本 安治
昭和 59 年 2 月～ 西原 光彦
昭和 62 年 2 月～ 吉山 雄司
昭和 63 年 2 月～ 武田 恭行
平成 2 年 2 月～ 園田 健治
平成 5 年 3 月～ 関 啓二(兼務)
平成 7 年 2 月～ 荒金 武雄(兼務)
平成 8 年 3 月～ 立川 浩男
平成 10 年 3 月～ 梅木 政喜
平成 12 年 4 月～ 安藤 俊克(母店長)
平成 14 年 3 月～ 久保 利彦(母店長)

春木支店 (春木出張所)

昭和58年10月11日開店

※平成15年11月より出張所
※平成28年11月14日統廃合

昭和58年10月～ 甲斐 康弘
昭和61年2月～ 安部 隆三
昭和63年2月～ 堀 将之
平成2年12月～ 東 勝三
平成5年2月～ 丸井 貞男
平成8年3月～ 高橋 史安
平成10年3月～ 太田 尚武
平成12年4月～ 衛藤 建夫
平成14年3月～ 石橋 喜久男
平成15年2月～ 木下 正照
平成15年11月～ 木下 正照 (母店長)
平成16年4月～ 中西 孝次 (母店長)
平成19年3月～ 桑原 和宏 (母店長)
平成21年3月～ 山田 恵治 (母店長)
平成23年3月～ 久保 孝徳 (母店長)
平成26年3月～ 荒金 敦 (母店長)

公設市場支店

昭和58年12月2日開店

※平成16年2月2日統廃合

昭和58年12月～ 安部 隆三
昭和61年2月～ 高橋 友彦
平成元年2月～ 鎌土 本義 (母店長)
平成2年2月～ 今永 勝英 (母店長)
平成5年2月～ 吉山 雄司 (母店長)
平成6年3月～ 宮地 昭彦 (母店長)
平成9年2月～ 片倉 誠二 (母店長)
平成11年2月～ 阿佐 幸治 (母店長)
平成14年3月～ 安部 徳之 (母店長)

扇山支店 (扇山出張所)

昭和59年11月26日開店

※平成17年3月より出張所

昭和59年11月～ 鎌土 本義
昭和63年2月～ 今永 勝英
平成2年2月～ 上野 美好
平成5年2月～ 時枝 喜久生
平成8年3月～ 木下 正照
平成11年2月～ 秀島 博
平成12年4月～ 三浦 孝一
平成14年3月～ 野田 悦孝
平成17年3月～ 五嶋 満雄 (母店長)
平成18年3月～ 後藤 康夫 (母店長)

平成21年3月～ 桑原 和宏 (母店長)
平成22年3月～ 石津 丈司 (母店長)
平成25年3月～ 姫野 央行 (母店長)
平成28年4月～ 須田 真統 (母店長)
平成30年3月～ 末永 和人 (母店長)
令和2年3月～ 藤原 淳 (母店長)
令和3年3月～ 細川 浩一 (母店長)
令和6年4月～ 井上 浩一 (母店長)

東大分支店

昭和60年6月10日開店

昭和60年6月～ 元島 陽一
平成元年2月～ 牧 邦博
平成6年8月～ 宗 武志
平成10年3月～ 豊田 俊一
平成13年3月～ 柚木 義種
平成15年2月～ 徳丸 正司
平成18年3月～ 足立 栄治
平成20年3月～ 田部 吉夫
平成23年3月～ 手島 繁
平成26年3月～ 藤原 淳
平成29年3月～ 鳥羽 高広
令和2年3月～ 井上 浩一
令和6年4月～ 永井 雅充

境川支店 (境川出張所)

昭和60年11月25日開店

※平成17年3月より出張所
※令和3年3月8日統廃合

昭和60年11月～ 宮武 秀治郎
昭和63年2月～ 甲斐 康弘
平成元年2月～ 丸井 貞男
平成3年2月～ 佐嶋 浩明
平成5年2月～ 渡辺 浩
平成9年2月～ 山口 秀明
平成11年2月～ 池田 政治
平成13年3月～ 吉本 哲治
平成16年4月～ 利光 任
平成17年3月～ 利光 任 (母店長)
平成19年3月～ 橋本 和幸 (母店長)
平成21年3月～ 後藤 康夫 (母店長)
平成24年3月～ 阿南 善則 (母店長)
平成27年3月～ 古田 哲一 (母店長)
平成28年4月～ 足立 栄治 (母店長)
平成30年3月～ 須田 真統 (母店長)

日出支店

昭和62年12月14日開店

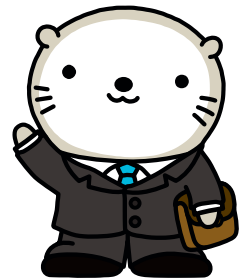
昭和62年12月～ 吉山 雄司 (兼務)
平成元年4月～ 吉山 雄司
平成2年4月～ 武田 恭行
平成4年2月～ 関 啓二
平成7年2月～ 荒金 武雄
平成10年3月～ 宗 武志
平成12年4月～ 安藤 俊克
平成14年3月～ 久保 利彦
平成16年4月～ 池辺 雄二
平成18年3月～ 疋田 隆司
平成20年3月～ 八坂 克明
平成23年3月～ 高橋 和彦
平成26年3月～ 佐藤 隆一
平成28年4月～ 阿南 亀義
平成31年3月～ 田中 真明
令和3年3月～ 永井 雅充
令和6年4月～ 石田 正美

浜脇支店 (浜脇出張所)

平成2年12月3日開店

※平成17年3月より出張所
※平成21年2月23日統廃合

平成2年12月～ 遠藤 隆久
平成6年3月～ 江藤 英昭
平成10年3月～ 利光 任
平成12年4月～ 栗尾 真行 (母店長)
平成13年3月～ 利光 任 (母店長)
平成16年4月～ 桑原 和宏 (母店長)
平成19年3月～ 吉田 正樹 (母店長)



津留支店

平成3年12月9日開店

※令和元年11月1日統廃合

平成3年12月～ 小林 正則
平成7年2月～ 衛藤 建夫
平成10年3月～ 藤井 正通
平成14年3月～ 安藤 俊克
平成16年4月～ 疋田 隆司
平成18年3月～ 橋本 和弘
平成20年3月～ 松尾 和博
平成22年3月～ 山田 眞弓
平成26年3月～ 赤澤 智視
平成28年4月～ 藤原 淳(母店長)
平成29年3月～ 鳥羽 高広(母店長)

府内中央支店

昭和44年4月1日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫本店

※令和3年10月から大分支店と兼務

昭和44年4月～ 西島 治男
昭和48年7月～ 片伯部 公吉
昭和51年1月～ 生野 昭夫
昭和53年9月～ 河野 靖
昭和59年3月～ 首藤 知生
昭和61年3月～ 瀧野 純生
昭和61年12月～ 生野 昭夫
昭和63年4月～ 神志名 章夫
平成4年2月～ 菅野 高明
平成7年4月～ 井口 寛
平成10年3月～ 衛藤 縣
平成13年3月～ 木下 正照
平成15年2月～ 菊池 邦昭
平成18年3月～ 徳丸 正司
平成21年3月～ 都築 史郎
平成23年3月～ 田部 吉夫
平成26年3月～ 久保 孝徳
平成29年3月～ 細川 浩一
平成31年3月～ 杉田 正雄
令和3年10月～ 鳥羽 高広(母店長)
令和6年4月～ 細川 浩一(母店長)

高城支店

昭和37年8月16日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

昭和37年8月～ 竹内 善夫
昭和39年6月～ 森山 平八郎
昭和42年4月～ 片伯部 公吉

昭和44年4月～ 林 茂樹
昭和46年4月～ 河野 靖
昭和51年10月～ 川元 政弘
昭和55年1月～ 藤沢 賢憲
昭和59年3月～ 佐内 利昭
平成2年7月～ 河野 義則
平成6年4月～ 牧 邦博
平成8年3月～ 関 啓二
平成11年2月～ 井口 寛
平成14年3月～ 荷宮 司
平成16年4月～ 渡辺 政雄
平成19年3月～ 園田 啓介
平成21年3月～ 阿南 善則
平成24年3月～ 小坂 吉徳
平成26年3月～ 田部 吉夫
平成28年4月～ 佐藤 隆一
平成31年3月～ 植村 邦宜
令和3年3月～ 石田 正美
令和6年4月～ 友永 賢二

春日支店(春日出張所)

昭和42年11月15日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

※平成17年3月14日より出張所 ※平成21年11月16日統廃合

昭和42年11月～ 生野 昭夫
昭和46年4月～ 川元 政弘
昭和50年1月～ 津高 和夫
昭和53年1月～ 渡辺 信郎
昭和56年3月～ 河野 義則
昭和58年4月～ 児玉 俊弘
昭和61年12月～ 河野 俊行
平成2年7月～ 後藤 義幸
平成3年6月～ 手島 祥之
平成5年4月～ 園田 健治
平成6年3月～ 井口 寛
平成7年2月～ 園田 健治
平成10年3月～ 安部 政幸
平成11年2月～ 五嶋 満雄
平成14年3月～ 中西 孝次
平成16年4月～ 菊池 邦昭
平成17年3月～ 菊池 邦昭(母店長)
平成18年3月～ 徳丸 正司(母店長)
平成21年3月～ 都築 史郎(母店長)

大在支店

昭和46年12月10日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

昭和46年12月～ 生野 昭夫
昭和51年10月～ 河野 靖

昭和53年9月～ 河野 俊行
昭和59年3月～ 丸山 弘之
昭和62年12月～ 津高 和夫
平成2年7月～ 首藤 知生
平成6年2月～ 柚木 義種
平成10年3月～ 渡辺 政雄
平成13年3月～ 豊田 俊一
平成16年4月～ 橋本 和幸
平成19年3月～ 古田 哲一
平成21年3月～ 松尾 正治
平成24年3月～ 池辺 雄二
平成26年3月～ 細川 浩一
平成29年3月～ 平岡 元庸
平成31年3月～ 牧 裕樹
令和3年3月～ 谷 誠
令和6年4月～ 其田 憲治

向原支店

昭和49年10月17日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

昭和49年10月～ 林 茂樹
昭和53年7月～ 首藤 知生
昭和59年3月～ 松尾 寛二
昭和63年4月～ 河野 義則
平成2年7月～ 河野 俊行
平成8年3月～ 佐藤 紘一
平成13年3月～ 衛藤 縣
平成15年2月～ 藤野 幸宏
平成17年3月～ 高野 桂吾
平成20年3月～ 小春 進
平成22年3月～ 宮崎 昇
平成25年3月～ 井上 誠司
平成27年3月～ 光来出 忠司
平成30年3月～ 赤澤 智視
令和2年3月～ 田代 英一郎
令和4年3月～ 小野 琢司

中央市場支店

昭和51年12月15日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

※平成17年3月14日より出張所

昭和51年12月～ 河野 義則
昭和56年1月～ 安部 恒博
昭和57年1月～ 津高 和夫
昭和58年4月～ 大塚 稔
昭和62年4月～ 三浦 克彦
平成2年7月～ 丸山 弘之
平成3年2月～ 生野 臣一
平成4年2月～ 平野 公洋

平成7年2月～ 秀島 博
 平成11年2月～ 木下 正照
 平成13年3月～ 池田 政治
 平成14年3月～ 木下 正照(母店長)
 平成15年2月～ 菊池 邦昭(母店長)
 平成18年3月～ 徳丸 正司(母店長)
 平成21年3月～ 都築 史郎(母店長)
 平成23年3月～ 田部 吉夫(母店長)
 平成26年3月～ 久保 孝徳(母店長)
 平成29年3月～ 細川 浩一(母店長)
 平成31年3月～ 杉田 正雄(母店長)
 令和3年10月～ 鳥羽 高広(母店長)
 令和6年4月～ 細川 浩一(母店長)

判田支店

昭和55年9月18日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫
 ※平成16年10月25日統廃合

昭和55年9月～ 生野 臣一
 昭和59年3月～ 秦 幸友
 昭和61年4月～ 首藤 知生
 昭和63年4月～ 松尾 寛二
 平成4年2月～ 塚本 喬太
 平成6年3月～ 首藤 知生
 平成8年3月～ 河野 俊行
 平成11年2月～ 山口 秀明
 平成12年4月～ 後藤 康夫
 平成15年2月～ 石橋 喜久男

滝尾支店

昭和58年11月18日開店

※平成4年5月31日まで旧府内信用金庫

昭和58年11月～ 河野 義則
 昭和63年4月～ 河野 靖
 平成3年9月～ 柚木 義種
 平成6年3月～ 佐嶋 浩明
 平成10年3月～ 荒金 武雄
 平成12年8月～ 平野 公洋
 平成15年2月～ 園田 啓介
 平成16年4月～ 足立 栄治
 平成18年3月～ 都築 史郎
 平成21年3月～ 後藤 啓夫
 平成24年3月～ 伊藤 達矢
 平成27年3月～ 末永 和人
 平成30年3月～ 石田 正美
 令和3年3月～ 其田 憲治
 令和6年4月～ 久野 洋一

鶴崎森町支店

平成8年10月7日開店

平成8年10月～ 阿佐 幸治
 平成11年2月～ 松尾 正治
 平成14年3月～ 森田 展弘
 平成17年3月～ 田部 吉夫
 平成20年3月～ 手島 繁
 平成23年3月～ 都築 史郎
 平成25年3月～ 来嶋 俊弘
 平成26年3月～ 平岡 元庸
 平成29年3月～ 植村 邦宜
 平成31年3月～ 小野 琢司
 令和3年3月～ 首藤 俊祐
 令和6年4月～ 武宮 真一

宗方出張所

平成10年6月26日開店

※平成21年11月16日統廃合

平成10年6月～ 栗尾 真行(母店長)
 平成12年4月～ 荷宮 司(母店長)
 平成14年3月～ 衛藤 建夫(母店長)
 平成17年3月～ 森田 展弘(母店長)
 平成19年3月～ 渡辺 政雄(母店長)

中津中央支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫本店

平成14年3月～ 浅野 正博
 平成16年4月～ 井口 寛
 平成19年3月～ 利光 任
 平成20年3月～ 大塚 信昭
 平成22年3月～ 岡本 浩
 平成24年3月～ 嵩地 秀雄
 平成27年3月～ 徳丸 正司
 平成29年3月～ 小坂 吉徳
 令和2年3月～ 石津 文司
 令和6年4月～ 石川 睦

吉富支店 (吉富出張所)

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫
 ※平成18年10月16日出張所 ※平成20年12月1日統廃合

平成14年3月～ 杉木 正治
 平成15年2月～ 田中 豊秋
 平成17年3月～ 稲田 英明
 平成18年10月～ 井口 寛(母店長)
 平成19年3月～ 利光 任(母店長)
 平成20年3月～ 大塚 信昭(母店長)

今津支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫
 ※平成25年11月18日統廃合

平成14年3月～ 行平 良幸
 平成15年2月～ 梶原 京市
 平成17年3月～ 松垣 茂雄
 平成20年3月～ 行平 良幸
 平成23年3月～ 稲数 亮次

中津北支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫
 ※令和7年2月17日統廃合

平成14年3月～ 豊島 陽正
 平成16年4月～ 浅野 正博
 平成19年3月～ 長谷川 誠
 平成21年3月～ 園田 啓介
 平成23年3月～ 松垣 茂雄
 平成24年3月～ 岡本 浩
 平成27年3月～ 稲数 亮次
 平成30年3月～ 大石 正敏
 平成31年3月～ 松岡 辰彦
 令和4年3月～ 川田 貴之



大幡支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫

平成 14 年 3 月～ 高原 淳
平成 16 年 4 月～ 行平 良幸
平成 20 年 3 月～ 山内 慎一
平成 22 年 3 月～ 黒永 隆
平成 25 年 3 月～ 鳥羽 高広
平成 27 年 3 月～ 酒井 嘉和
平成 29 年 3 月～ 岡本 浩 (母店長)
平成 31 年 3 月～ 鹿子木 敏明(母店長)
令和 4 年 3 月～ 藤野 泰宏(母店長)
令和 6 年 4 月～ 仲 真吾 (母店長)

高田支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫
※令和4年3月から宇佐中央支店と兼務

平成 14 年 3 月～ 安部 政幸
平成 19 年 3 月～ 岡本 浩
平成 22 年 3 月～ 豊島 陽正
平成 25 年 3 月～ 山内 慎一
平成 28 年 4 月～ 安部 康昭
平成 30 年 3 月～ 田代 英一郎
令和 2 年 3 月～ 仲 真吾
令和 4 年 3 月～ 仲 真吾 (母店長)
令和 6 年 4 月～ 藤野 泰宏(母店長)

鶴居支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫

平成 14 年 3 月～ 梶原 京市
平成 15 年 2 月～ 都築 史郎
平成 18 年 3 月～ 大塚 信昭

平成 20 年 3 月～ 松垣 茂雄
平成 23 年 3 月～ 行平 良幸
平成 25 年 3 月～ 末永 和人
平成 27 年 3 月～ 鳥羽 高広
平成 29 年 3 月～ 岡本 浩
平成 31 年 3 月～ 鹿子木 敏明
令和 4 年 3 月～ 藤野 泰宏
令和 6 年 4 月～ 仲 真吾

宇佐中央支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫
※令和4年3月から高田支店と兼務

平成 14 年 3 月～ 大塚 信昭
平成 16 年 4 月～ 木下 正照
平成 19 年 3 月～ 阿南 善則
平成 21 年 3 月～ 橋本 和幸
平成 24 年 3 月～ 古田 哲一
平成 27 年 3 月～ 宮崎 昇
平成 31 年 3 月～ 阿南 亀義
令和 4 年 3 月～ 仲 真吾
令和 6 年 4 月～ 藤野 泰宏

如水支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧中津信用金庫

平成 14 年 3 月～ 松垣 茂雄
平成 16 年 4 月～ 高原 淳
平成 19 年 3 月～ 豊島 陽正
平成 22 年 3 月～ 山内 慎一
平成 25 年 3 月～ 黒永 隆
平成 27 年 3 月～ 松垣 茂雄
平成 28 年 4 月～ 大石 正敏
平成 30 年 3 月～ 稲数 亮次
令和 2 年 3 月～ 藤野 泰宏
令和 4 年 3 月～ 平井 史明

せきしん支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧佐賀信用金庫
※平成25年11月18日統廃合

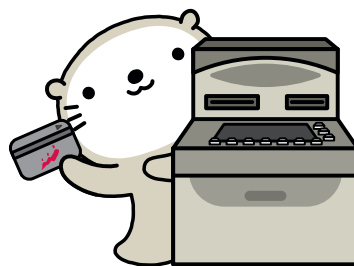
平成 14 年 3 月～ 古野 洵一
平成 15 年 2 月～ 藤原 修一
平成 19 年 3 月～ 山田 恵治
平成 21 年 3 月～ 藤野 正博
平成 24 年 3 月～ 河野 勝

坂ノ市支店

平成14年3月25日譲受

※平成14年3月24日まで旧佐賀信用金庫
※平成28年3月から大在支店と兼務

平成 14 年 3 月～ 橋本 和幸
平成 16 年 4 月～ 吉田 正樹
平成 19 年 3 月～ 来嶋 俊弘
平成 22 年 3 月～ 藤野 正博
平成 23 年 3 月～ 荒金 敦
平成 26 年 3 月～ 河野 勝
平成 28 年 4 月～ 細川 浩一(母店長)
平成 29 年 3 月～ 平岡 元庸(母店長)
平成 31 年 3 月～ 牧 裕樹(母店長)
令和 3 年 3 月～ 谷 誠(母店長)
令和 6 年 4 月～ 其田 憲治(母店長)



大分みらい信用金庫本店ビル周辺 (2023 年 5 月空撮)

大分県央と県北を結ぶ みらいしんきんネットワーク

大分みらい信用金庫 全店舗紹介



※預貸金については令和6年3月31日現在

別府市



本店営業部 (店番002)

〒874-8639
別府市駅前本町1番31号
☎0977-25-7710
預金残高 32,715百万円
貸出金残高 14,279百万円

まちのランドマーク



油屋熊八像
当金庫80周年事業で寄贈した別府観光の父・油屋熊八翁の像です



みらいハートプラザ 別府

〒874-8639
別府市駅前本町1番31号
☎0120-365-166

まちのランドマーク



別府タワー
日本で3番目に建てられた高層タワー。ライトアップされた夜景も人気



南支店 (店番003)

〒874-0942
別府市千代町11番15号
☎0977-22-3311
預金残高 16,067百万円
貸出金残高 3,228百万円

まちのランドマーク



八幡朝見神社
1196年創建の別府温泉の総鎮守。境内の萬太郎清水も評判です



鉄輪支店

(店番005)

〒874-0045
別府市御幸2組
☎0977-66-1251

預金残高 11,285百万円
貸出金残高 5,602百万円



まちのランドマーク



湯けむり展望台

別府・鉄輪温泉の情緒あふれる湯けむりの情景をお楽しみください



亀川支店

(店番006)

〒874-0014
別府市亀川浜田町2番3号
☎0977-66-0161

預金残高 14,642百万円
貸出金残高 4,063百万円



まちのランドマーク



八幡竈門神社

別府湾の朝日が拝める神社。アニメ「鬼滅の刃」の聖地としても人気



山の手支店

(店番007)

〒874-0902
別府市青山町1番1号
☎0977-22-0231

預金残高 15,890百万円
貸出金残高 3,433百万円



まちのランドマーク



別府公園

別府市民の憩いの場として親しまれている広大な都市型公園です



上人支店

(店番011)

〒874-0033
別府市上人南16組
☎0977-66-2261

預金残高 18,663百万円
貸出金残高 3,426百万円



まちのランドマーク



大分香りの博物館

“香り”をテーマにした博物館。オリジナルの香水作りも体験できます



荘園支店

(店番013)

〒874-0836

別府市東荘園3丁目4番40号

☎0977-24-7131

預金残高 17,012百万円

貸出金残高 5,160百万円



まちのランドマーク



別府市竹細工伝統産業会館
海外にも知られる伝統的工芸品・別府竹細工を一堂に展示しています



石垣支店

(店番014)

〒874-0910

別府市石垣西7丁目1番1号

☎0977-25-0511

預金残高 28,125百万円

貸出金残高 11,480百万円



まちのランドマーク



別府国際観光港
九州観光の海の玄関口。豪華クルーズ船の入港も度々あります



鶴見支店

(店番015)

〒874-0848

別府市大畑1組2

☎0977-22-1131

預金残高 13,852百万円

貸出金残高 5,732百万円



まちのランドマーク



火男火売神社
鶴見岳の男嶽・女嶽を神格化した二神を祀る849年創建の神社です



扇山出張所

(店番019)

〒874-0833

別府市鶴見5組2

☎0977-22-1135

預金残高 9,611百万円

貸出金残高 747百万円



まちのランドマーク



南立石公園
梅をはじめ約150種、2,600本の草花や樹木が植栽されています

大分市



大分支店

(店番010)

〒870-0887
大分市府内町1丁目2番8号
☎097-534-0131

預金残高 20,113百万円
貸出金残高 10,610百万円

府内中央支店

(店番026)

預金残高 12,538百万円
貸出金残高 6,054百万円



みらいハートプラザ 大分

〒870-0046
大分市荷揚町3番1号
☎0120-365-353

まちのランドマーク



府内城址

石田三成の妹婿・福原直高が築城。
桜の名所としても知られています

まちのランドマーク



春日神社

奈良・春日大社を勧請したとされ、緑あふれる境内は市民の憩いの場です



南大分支店

(店番012)

〒870-0887
大分市二又町1丁目4番22号
☎097-544-1181

預金残高 15,438百万円
貸出金残高 11,667百万円

まちのランドマーク



七瀬川自然公園

芝生広場、水辺のゾーン、スポーツグ
ラウンドなどを備えた総合公園です



東大分支店

(店番020)

〒870-0919
大分市新栄町1番3号
☎097-556-6311

預金残高 15,137百万円
貸出金残高 11,110百万円

まちのランドマーク



平和市民公園

四季折々の花が楽しめる公園で、
裏川沿いの春の桜は圧巻です



高城支店 (店番027)

〒870-0157
大分市高城本町3番3号
☎097-558-1644

預金残高 15,930百万円
貸出金残高 11,054百万円

まちのランドマーク



大分港乙津泊地
釣り客に人気の乙津泊地は、工場夜景の人気スポットにもなっています



大在支店 (店番029)

〒870-0268
大分市政所1丁目1番11号
☎097-592-2171

預金残高 10,729百万円
貸出金残高 8,019百万円

まちのランドマーク



大野川河川敷
春は桜と菜の花、秋はコスモスを背景に走る列車の景色に心がなごみます



中央市場出張所 (店番043)

〒870-0018
大分市豊海4丁目1番1号
☎097-533-3222

預金残高 1,248百万円
貸出金残高 325百万円

まちのランドマーク



大分市公設地方卸売市場
新鮮な魚や野菜、果物など、県内外の産物が集まる大分の台所です



滝尾支店 (店番045)

〒870-0945
大分市大字津守383番地の6
☎097-568-6111

預金残高 9,702百万円
貸出金残高 7,956百万円

まちのランドマーク



碓山公園
県内で一番低い山の碓山は、大分市内を一望できる隠れ名所です



鶴崎森町支店

(店番046)

〒870-0127

大分市大字森町499番地の1

☎097-522-1181

預金残高 12,892百万円

貸出金残高 9,504百万円



まちのランドマーク



空桑・思索の道

儒学者・毛利空桑に由来する道は幕末に勝海舟と坂本龍馬も歩きました



坂ノ市支店

(店番062)

〒870-0307

大分市坂ノ市中央4丁目2番3号

☎097-592-3511

預金残高 10,133百万円

貸出金残高 2,661百万円



まちのランドマーク



萬弘寺の市／物々交換市

1400年以上続くお祭りでは、山海の産物を交換する物々交換が名物です

由布市



湯布院支店

(店番009)

〒879-5102

由布市湯布院町川上3048番地の4

☎0977-84-2164

預金残高 15,706百万円

貸出金残高 8,849百万円



まちのランドマーク



金鱗湖

秋から冬の早朝の金鱗湖では、朝霧に包まれた幻想的な姿を楽しめます



向原支店

(店番042)

〒879-5506

由布市挾間町挾間572番地1

☎097-583-1311

預金残高 12,013百万円

貸出金残高 4,545百万円



まちのランドマーク



由布川溪谷

由布岳と鶴見岳の間を流れる由布川で、自然の造形を感じてください

日出町



日出支店

(店番022)

〒879-1506

速見郡日出町3189番地1

☎0977-72-1511

預金残高 15,719百万円

貸出金残高 7,449百万円

まちのランドマーク



城下公園

日出城址に位置する城下公園は別府湾を一望できる絶景スポットです

中津市



中津中央支店

(店番050)

〒871-0058

中津市豊田町2丁目453番地の1

☎0979-23-1111

預金残高 17,696百万円

貸出金残高 8,436百万円

まちのランドマーク



中津城

黒田官兵衛が中津川河口に築城した水城として知られています



中津北支店

(店番053)

〒871-0067

中津市仲間町935番地の1

☎0979-22-3681

預金残高 9,730百万円

貸出金残高 4,669百万円

まちのランドマーク



福澤諭吉旧居

旧一万円札でおなじみの福澤諭吉が幼少期に過ごした家です



大幡支店

(店番054)

〒871-0151

中津市大字大悟法705番地の1

☎0979-32-4051

預金残高 9,973百万円

貸出金残高 2,782百万円

まちのランドマーク



大貞八幡宮 薦神社

宇佐神宮の祖宮とされ、御神体の三角池には鳥居が立っています



鶴居支店

(店番056)

〒871-0025

中津市大字万田字寺屋敷409番地の1

☎0979-22-1431

預金残高 14,828百万円

貸出金残高 6,450百万円

まちのランドマーク



三光コスモス園

約2,800万本のコスモスが咲き誇る
西日本最大級のコスモス園です



如水支店

(店番058)

〒871-0011

中津市大字下池永字新貝918番地の1

☎0979-25-1818

預金残高 16,337百万円

貸出金残高 5,843百万円

まちのランドマーク



北原人形芝居

毎年2月第1日曜に原田神社で行われ、その起源は鎌倉時代になります

宇佐市・豊後高田市



宇佐中央支店

(店番057)

〒879-0453

宇佐市大字上田字前畑1013番地の1

☎0978-32-21231

預金残高 16,182百万円

貸出金残高 7,468百万円

高田支店

(店番055)

預金残高 6,211百万円

貸出金残高 2,166百万円

まちのランドマーク



八幡総本宮 宇佐神宮

全国に4万社あまりある八幡宮の
総本宮で、725年に建立されました

まちのランドマーク



豊後高田 昭和の町

昭和30年代の賑わいを再現させた
商店街として人気を集めています



みらいのタマゴ

大分みらい信用金庫本店「みらいホール」前に
「みらいのタマゴ」というオブジェがあります。
みらいしんきんOB会からいただいた
本店ビル新築お祝いの寄贈品です。

様々な色と長さの竹ひごを編み込んだタマゴは
お客さまと職員そのもので、
そのタマゴを包み込む鳥の巢は
当金庫そのものを表現したと作者は語ります。

大正・昭和・平成・令和と
四つの時代を歩んできた百年には、
数えきれない出会いがあり、
数えきれない夢がありました。

みらいにトライ

— 笑顔でつむぐ百年金庫 —

百年間で育んできた絆を
百年後の未来づくりの原動力へ…。

わたしたちの挑戦は続きます。

大分みらい信用金庫 創立百周年記念誌制作委員会

大分みらい信用金庫 創立百周年記念誌 「みらい百年力 感謝・共感・挑戦のあゆみ」

令和7年5月発行

発行 大分みらい信用金庫
〒874-8639
大分県別府市駅前本町1番31号
TEL 0977-22-1181
URL <https://www.oitamirai.co.jp/>

企画 大分みらい信用金庫 経営企画部
創立百周年記念誌制作委員会
制作・編集 有限会社 ネキスト

【参考文献】

「日本金融史 大正編・昭和編」（東洋経済）、「日本金融史」〔概説日本経済史〕（有斐閣）、「日本金融名鑑」（日本金融通信社）、「私の履歴書 小原鐵五郎」（日本経済新聞社）、「信金の神様の教え」（東京新聞）、「二宮金次郎の言葉と仕事」（実業之日本社）、「信用金庫」（教育社）、「信用金庫のサバイバル戦略」（金融タイムズ社）、「地銀・信金ダブル消滅」「百年続く企業の条件」（朝日新書）、「金融排除」（幻冬社）、「しんきんアクセス」（全国信用金庫協会）、「大分銀行八十年小誌」「大分銀行120年史」（大分銀行）、「地域金融が勝ち抜く条件」（日本経済新聞社）、「なぜ信用金庫は生き残るのか」（祥伝社）、「信用金庫の力」（岩波新書）、「信用金庫の現場力」（経済法令研究会）、「別府市誌」（別府市）、「大分の歴史」「大分今昔」「昭和から平成までの大分」（大分合同新聞社） その他関連書籍ならびに Web サイト

■ 岩尾 一郎 氏作「みらいのタマゴ」
（伝統工芸士・別府竹細工協同組合 理事長）



MIRAI

みらい
百年力

—— 感謝・共感・挑戦のあゆみ ——

